

アジアからの高大接続：国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育：九州大学webinar100 国際シンポジウム報告書

<https://doi.org/10.15017/4488123>

出版情報：2021-09-01. Seminar of Educational Planning, Measurement, Evaluation, Department of Education, Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

アジアからの高大接続

—国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育—

九州大学 webinar100 国際シンポジウム報告書

令和3年度九州大学QRプログラム
つばさプロジェクト採択課題（整理番号01261）

アジアとの高大連携の効果測定と高大接続の
制度設計に関する文理融合・分野横断研究
研究成果報告書 1

アジアからの高大接続

—国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育—

令和3年度九州大学 QR プログラム
つばさプロジェクト採択課題（整理番号 01261）

アジアとの高大連携の効果測定と高大接続の
制度設計に関する文理融合・分野横断研究
研究成果報告書 1

アジアからの高大接続

—国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育—

目次

◇ 開会の挨拶	1
第1部 国際アドミッションの課題と現状	
1. 一流研究大学の留学生獲得戦略としての国際アドミッション —アジアからの高大接続における日本式教育, 予備教育（ファンデーションプログラム）の観点から—	3
第2部 アジアからの高大接続事例の紹介	
2-1. 新モンゴル学園（小中高・高専・工科大） [モンゴル]	19
2-2. 信男教育学園（上海文来高級中学校中日班, 深圳第三高級中学校日本名校留学班） [中国]	27
2-3. 柳川高等学校附属タイ中学校, 柳川高校国際科 [タイ]	35
2-4. 日本国際学校 [ベトナム]	43
2-5. マラヤ大学予備教育部日本留学特別コース [マレーシア]	49
2-6. 帝京マレーシア日本語学院日本留学準備教育課程 [マレーシア]	55
第3部 九州大学における国際アドミッションの現状と課題	
3-1. 工学部	61
3-2. 農学部	67
3-3. 共創学部	73
3-4. 経済学部	81
3-5. 教育学部	89
◇ 閉会の挨拶	95

開会の挨拶



九州大学理事・副学長 河野 俊行

(江口) まず初めに、九州大学理事並びに副学長を務めておられます河野俊行先生から、開会の挨拶をいただきます。河野先生、お願いいたします。

(河野) ありがとうございます。ただいま御紹介に預かりました、九州大学理事・副学長の河野俊行でございます。

本日は、年度末の大変お忙しい中、九州大学 webinar100「アジアからの高大接続－国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育－」に御参加くださいます。誠にありがとうございます。今回、九州大学の関係者36名、学外の参加者96名、合計132名の方々に御登録いただいていると伺っております。ひとえに、このテーマの関心の高さがうかがえるかと存じます。

九州大学では、2010年に文部科学省国際化拠点整備事業、通称、グローバル30と呼んでおりますけれども、それを開始いたしまして、はや11年が経過いたしました。また、2014年には、スーパーグローバル大学創成事業、タイプA（トップ型）にも採択されまして、大学の国際化を進めてまいっております。さらに、九州大学は、2019年にアジア・オセアニア研究教育機構を設立しまして、アジア・オセアニア地域の研究活動にも力を入れてきております。

今回、ウェビナーを主催されています九州大学教育学部におかれましては、2018年に九州大

九州大学理事・副学長 河野 俊行

学内の学内競争的資金、教育の質向上支援プログラムに採択されまして、「アジア研究拠点の展開に資するアジア各国における留学生獲得拠点の形成」というプロジェクトを続けてこられました。我が国では大変珍しい、海外との高大連携、高大接続を推進してこられ、2018年、2019年の2年間で、中国、韓国、タイ、ベトナム、モンゴル、マレーシアの15校ほどの教育機関を直接訪問されておられます。そして、大変密接な関係を築いてこられております。そのうち3校は、九州大学教育学部の海外高大接続教育研究拠点として協定を結ぶに至っております。本日のシンポジウムでは、その成果の一端を皆様にご披露いただくこととなります。

また、九州大学は令和元年度のデータによりますと、2,387人という全国でも9位の留学生数を誇っております。国立大学で東京大学、京都大学、大阪大学に続き4位、私立大学を入れても9位でございます。こういう中で、九州大学にとりまして、優秀な留学生の獲得ということは、数とともに質を保証するということが大変重要な課題となってきたところでございます。

本日のウェビナーでは、まず第1部で、九州大学教育学部長であります竹熊尚夫先生、それから木村拓也先生に国際アドミッションの課題と現状について御整理をいただきます。次に第2部で、アジアからの高大接続事例の紹介ということで、アジア各国の日本式教育を実践されておられる学校関係者の先生方より御講演を賜ります。

各先生方におかれましては、大変お忙しい中、御講演をお受けいただきまして誠にありがとうございます。この場をお借りいたしまして、また九州大学を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

そして、第3部では、九州大学の各部局より、国際アドミッションの現状と課題と題しまして、本学の国際化に尽力していただいている先生方

から御報告を頂戴いたします。

本シンポジウムを通しまして、アジアからの高大接続におきまして、現状がどのようなものであり、どういう課題があるのかということが明らかにされ、よりよい海外の中等教育と日本の大学との関係につきまして、御参加の皆様により深く理解いただける内容になっておるかと感じております。

このウェビナーが、皆様にとりまして有意義なものとなりますことを心より祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきたいと存じます。

それでは、よろしくお願ひ申し上げます。
(江口) 河野先生、ありがとうございました。

第1部 国際アドミッションの課題と現状

一流研究大学の留学生獲得戦略としての国際アドミッション

ーアジアからの高大接続における日本式教育, 予備教育 (ファンデーションプログラム) の観点からー

九州大学人間環境学研究院教授・教育学部長 竹熊 尚夫
九州大学人間環境学研究院准教授 木村 拓也
九州産業大学基礎教育センター講師 中世古 貴彦



九州大学人間環境学研究院教授・教育学部長
竹熊 尚夫



九州大学人間環境学研究院准教授
木村 拓也



九州産業大学基礎教育センター講師
中世古 貴彦



九州大学人間環境学研究院准教授
江口 潔

(江口) それでは、これより第1部、国際アドミッションの課題と現状に移らせていただきます。

まず、九州大学教育学部長の竹熊尚夫先生、九州大学人間環境学研究院の木村拓也先生、九州産業大学基礎教育センターの中世古貴彦先生から、「一流研究大学の留学生獲得戦略としての国際アドミッションーアジアからの高大接続に

における日本式教育, 予備教育の観点から」について御発表をいただきます。

それでは、先生方、よろしくお願いたします。(竹熊) 教育学部長を務めております竹熊です。本日はどうぞよろしくお願いたします。このウェビナーに参加いただきました学部、大学の先生方、また、本日、お忙しい中、御発表いた

だきます発表者の先生方、そして、セミナーを準備していただいた皆様に御礼申し上げたいと思います。

一流研究大学の留学生獲得戦略としての国際アドミッション

ーアジアからの高大接続における日本式教育、予備教育(Foundation Program)の観点からー

竹熊尚夫(九州大学 人間環境学研究院) 日)2021年3月15日 於)九州大学
木村拓也(九州大学 人間環境学研究院)
中世古貴彦(九州産業大学 基礎教育センター) 九州大学

1. 留学生受入の課題
2. アジアの学校教育スタイルと学習文化
3. 大学教育から見た留学生の受入制度
4. 日本の大学から見たアジアからの高大接続の見取り図
5. 豪州ファンデーションプログラムの事例紹介
6. 国際アドミッションの二つの方向性

それでは、スライドに沿って発表させていただきたいと思います。

本発表では、前半の留学生の受入れの課題、問題のトピックについて私のほうから、そして、その後人間環境学研究院の木村先生から、入学制度、高大接続の事例、オーストラリアのファンデーションプログラムについて御紹介いただきまして、また私のほうから、国際アドミッションの二つの方向性についてお話しさせていただきたいと思います。

ここで話すことは、先ほど河野先生も言われていましたように、研究プロジェクトやSHARE - Q, NEEP等の支援を得て、教育学部の国際交流プロジェクトとして進めてきたものでございます。

まず、共通認識のために留学生受入れの課題を整理したいと思います。スライドにはやや情報を盛り込み過ぎましたので、本日の発表では、スライドを4割ぐらいで眺めていただいて、お話を6割ぐらいで聞いていただければと思います。よろしく願いいたします。

世界の留学状況はここ数十年で大きく変わりました。ニューノーマルでまた変化するかもしれませんが学生数の増加、私費学生の増加、留学の多様化、若年化による学部への留学の増加が見られています。日本の大学の学費が安いことで、安価な留学として人気が出ている一面もあります。このように留学状況が変化する中で、世界から優秀な学生を集めるためには、留学生の学力評価や入試制度をそれに合わせていく必要があります。しかし、一方、多くの大学では既存の留学生の受入れ方式や留学生教育制度はそれほど大きく変化はせず、留学生担当の教員と職員の努力によって維持してきていると言ってもいい状況だと思います。

ここで、一つ、先日起きたアジアからの国費留学生受入れの出来事を御紹介したいと思います。本学の教育学部への願書を確認するに当たり、質問が一つ見つかり、学部から教務課を通して、本学の国際部に連絡してもらいました。すると、それが文科省に行って、その後外務省に伝わって、外務省から大使館に伝わって、本人に連絡が取れたようです。その回答はまた同じようなルートで返ってきたそうですけれども、その前後に、その学生から、日本語で何と私に別の質問が来ました。厳密な手順で行う伝言ゲームとなってしまって、即断がこういう場合できません。こうしたことは一例ですけれども、留学生受入れシステムを改革していくことが必要だと痛感しています。

1. 留学生受入の課題

世界の留学状況変化

- 留学期間の多様化・複雑化(大学院・学部、交換留学、期間)
- 未知の高校教育・学生の文化背景(高校・学部の学位証・成績証)
- 世界標準化と学力・能力観の変化

留学方式と運営変化

- 留学ブローカーと正規の日本語学校の混在
- 大学の運営教育方針と国際化モデルのズレ 先進・途上国支援
- 国費留学生から私費留学生(大学運営)

留学受入・評価方式変化

- 留学容易化(学費)⇒大学選択の自由化と優秀生徒リクルート競争
- 留学生センターの機能変化(国費選抜・大衆化⇒日本語教育)
- 予備教育の不在(既存の学力評価制度への過信と依存)
- 大学教育課程への適応と改革 学位トラブル 学習文化

2. アジアの学校教育スタイルと学習文化
→世界の学生の背景理解

- どのような学生を受け入れたのか
- 「君、『高考』で何点取ったの?」「985重点大学」「附属学院?」「センター試験で何点でしたか?」(オーストラリアのある大学)
- 「寄宿制学校・英才学校・重点学校・王立学校?」
- 各先進国・途上国の優秀校、英才学校、私立、国立の学校の知識
- 有名校でなくても、優秀な学生(あえて学力競争に乗らない、その学校でどのような活動をしてきたのか、才能は何か)
- 優秀であるようだが、勉強の仕方はどう違うのか
- 日本の学習方法について行けるのか
- ex.「日本人学生の試験対策委員会は契約違反」(by米教師)

留学生は多様な背景を持つために、受入れ教員や留学生担当職員が、一人一人を理解することは大変難しいといえます。学力評価について言えば、5年ほど前に、オーストラリアの大学のアドミッションの先生が、日本の高校の成績やセンター試験の点数で選抜したいが、なかなか難しいと話していました。当時、そこまでして日本から優秀な学生を獲得しようとしていましたが、日本の大学や教員は、世界中の留学生のバックグラウンド、教育歴について把握しようということはまだ十分には行っていないでしょうし、非常に大変な作業となります。

また、入学後のハードルもあります。大学教員の中には、入試で受け入れたからには十分知識があるはずだという御意見の先生方や、留学生はお荷物だと考えている先生もいます。逆に、どのように留学生を育てればいけばいいのか模索されている先生も多いと思います。優秀な学生と分かっている、どのように指導し、教育するのが効果的なのか、これは一通りではありません。

この教育方法には、日本独特の学習文化も潜んでいると思います。

KYUSHU UNIVERSITY 5

2. アジアの学校教育スタイルと学習文化 →アジアの留学生への認識の転換

<アジア従来型>

学習方式：知識暗記・スキル重視の注入式教育→大学教育方式、入試制度、授業形式
学校観・学習観・教育観：選抜的学校教育制度の地位と服従（学校の権威と見返り）
学習理由：期待されるニーズ 家族のため 親の勧めの優位性（>自主性）
自尊感情：自尊心と権威 社会的エリート形成→エリートとプライド・リーダーシップ

<日本型> 日本も同じ価値観を引き継ぎつつ発展・拡大してきた
 電卓を試験で用いる事の意味 手書きと筆算の重視
 休日と宿題と趣味（ex. 馬）（キものづくり型）

例えば、ここにありますように、アジアからの留学生は伝統的な教育—アジア従来型と書いていますけれども、試験制度の中で、暗記重視の学習スタイルを身につけていることが多いです。学校は自由ではなく、厳しい競争に勝ち抜いて来ていますので、一方では権威主義的な教育に従順でもあります。ですから、急にクリティカルシンキングと言われても難しいでしょう。有名な大学には家族の期待も大きく、同時に、国費であればエリートとしてのプライドと責任感が重くのかかっています。

これは、かつての日本の姿にもオーバーラップすることなので共有しやすい部分だと思えますけれども、留学生の学習方法や内容の違いは日本の伝統的学習観からも見ることができます。

スライドの下の方には、電卓の例と、手書きレポートと、宿題の例を挙げていますけれども、ある中堅国では大学生が2桁以上の掛け算が苦手という日本人の理系の先生の評価がありました。その国では、学生は入試でも電卓を使うので筆算ができないそうです。また、ある文系の教員からは、レポートの手書きの重要性が説かれていましたが、近年、ワープロを使うことによって日本語能力の衰えが出ていると嘆かれています。また、理系の博士課程で指導する教員が、指導学生が休日、研究や課題をしないことをどう指導したらいいんだろうと悩んでいるという話も伺いました。

KYUSHU UNIVERSITY

伝統的学習価値観の変更 「努力評価型」⇔「高度専門性」

例) 日本ではなぜ関数電卓の利用が少ないのか。
→主に日本人の“気質”（＝厳格さ）にある

「日本人は勤勉なので、なんでも苦勞して身につける傾向にある。電子辞書があっても、まずは紙の辞書を引けるようにすることが大事なものその一つ。だが、海外に目を向けると、試験の時にグラフ関数電卓を持ち込みなさいというところもある。数学教育は、計算ができることじゃない。なにかを解明できるようにしないとダメ。・・・煩雑な処理を簡単に済ませ、レベルの高い数学を学んだり本来の学習に十分な時間をかけられるようになる」

(by長野県総合教育センター 教科教育部主任指導主事新井仁氏)
出所) <https://japan.cnet.com/article/35097874/?tag=as.latest> (2017/03/10)

電卓に代表される例は、学習内容が増えて、教科の学習時間が足りなくなっている日本でも、学び方を変えていく必要があるかと思えます。もちろん筆算などは基礎として重要ですが、そのために、より高度な教育の時間がなくなるのは、決められた時間と目的において非効率となりつつあるという気がします。

KYUSHU UNIVERSITY 7

国際化による大学教育文化の葛藤：一つの経験

地方出身学生の課題と同じ問題が海外から集う大学に（E.T.ホール）

ハイコンテクスト⇔同質・寡黙・付度社会 ←相互の社会文化価値観共有
ローコンテクスト⇔多文化社会・都市 ←バックグラウンド価値観が相違
 ・教育観の相違、教師生徒、学校・試験のありかた、教育の方式と教育への価値（勤労性等）
 ・教師生徒関係：尊敬する態度、親密な人間関係

⇒**アジアも先進型・21世紀型の模索へ**

質を担保+コンピテンシー重視（価値・協働対話能力・自律的実践・解決能力）
 基礎知識→高度専門⇔既存課程「教養教育→高度専門性」
 途上国エリート校も最新型教育や留学期（教科書輸入）を導入
 （知識+ICT活用能力+コミュニケーション+問題解決実践力）

エドワード・ホールという人類学者がおりま

すけれども、文化の特徴の超え方について端的に説明しています。大学に例えると、大学というのは多文化な社会であって、ローコンテクストな場であると言えます。つまり、背景が非常に異なる、文化が違うためにしっかりと話をしないといけない。日本は中等教育と高等教育が直結しているように見えても、今でも高校と大学の授業法、教授法のギャップで悩む学生がいます。これは地方や学校で受けてきた受験勉強と異なり、大学での学習文化に適應できていないことが考えられます。このため、大学には教育課程の説明を詳細にすることが求められています。

一方で、アジアでも教育改革、入試改革が進んでいます。これまでの試験志向の教育方式に加えて、多くの科目を犠牲にしながらもコンピテンシー重視のインターンシップ、実践型授業をさらに導入することに迫られています。また、さらに革新的な取組としては、途上国のエリート学校では、欧米の教科書や教育方法を導入するなどして先進的な教育課程を実践している学校もあります。

KYUSHU UNIVERSITY

21世紀型コンピテンシー
学習文化の調整 主体的学びへの学習目標の明示化
継続的基礎学習と実践・高度化の併用

○自律的問題解決能力・異文化他者と協調した活動
ex. 「最近接発達領域」ヴィゴツキー、「状況的学習論」レイヴ、ウェンガー
→**厳しい知識や技能の修得（修行）＋自由な自律した活動**
※学生へのサポート 家族的対応→システム化
既存の【厳格or放任＋自己責任】からの転換の必要

→**研究現場・実践現場との接点＋学び続ける学習態度の育成**
現場や社会実践の状況の中で理解が進み、学習へつながる
ゼミ・研究室・教員、厳しい指導体制、実技実験、密接な協力組織

ここに大学における教授法には調整が必要だというふうにありますけれども、これは大学側の問題ですので今回は割愛させていただきます。後で御覧いただければと思います。

KYUSHU UNIVERSITY

3. 大学教育から見た留学生の受入制度

0. リクルート期) 学校・制度・学習課程・教育方式の相違
 - I. 入学選抜期) 学生の背景・何が優秀かの判別方法
 - II. 補習・スタート期) 異なる学習背景の学生をどう教育するのか
 - III. 高度専門・裾野拡大期) 優秀性を伸ばす教育
0. リクルート期) 学びの違いの認識
未知数の多さ：世界の学生のバックグラウンドの評価の必要性
↑
説明してくれる機関が必要（海外中等教育評価機関）
英NARIC 米AACRAO 学位授与機構等々

さて、ここからは大学への留学生受入れ制度について御説明させていただきます。

受入れには、当該国の教育や学校の理解から始まり、学生の選抜、受入れ、補習、基礎教育、専門教育、そして高度専門教育へとつながるフローがあります。

まずは、初めのリクルート期にあります留学生の出身国や教育制度や教育課程ですが、これは卒業証書や成績証の読み取り方と言ってもいいかと思います。欧米にはWESとかNARICなど歴史のある世界の中等教育の評価専門機関がありますが、日本にはまだ学位授与機構やアジア学生文化協会—ABKなどで部分的に進められているだけです。こうした情報収集作業で日本が進まないのは、入試のアドミッション情報がそれぞれ機密事項になってしまっていて、それぞれの共有性が確保されていないことが関係しているのではないかと考えております。

国による教育課程・学習内容の相違

一例) 教科別単元表比較 EXEL Files
数学・物理・化学(2015年資料)
<http://comparaedu.org/custom4.html>

※科研報告書(基盤C:25381134)「アジア・オセアニアにおける高大の国際的接続に関する調査研究」2015年

ここでは、留学生の母国側から見た教育課程について御説明したいと思います。

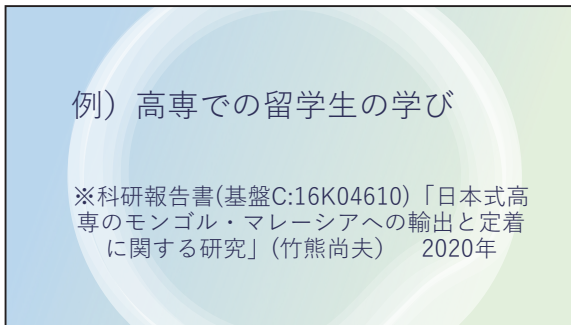
平成21年 日本高等学校数学科の内容の構成		中国全日制普通高级中学(人民教育出版社)	
Derivatives Integration The definite integral	5.1 微分の考え	The concept of differentiation and integration	5.1 微分
	5.1.1 微分係数と導関数	Differential coefficients and derivatives	5.1.1 微分係数
	5.1.2 増減表の応用	Applications of the derivative (1) (graphical)	5.1.2 増減表の応用
Differentiation Derivative	5.2 積分の考え	The concept of integration	5.2 積分
	5.2.1 不定積分と定積分	Indefinite integral and definite integral	5.2.1 不定積分と定積分
	5.2.2 面積	Area of figure	5.2.2 面積
Integration (Integral calculus)	5.3 積分法の応用	Differential calculus	5.3 積分法の応用
	5.3.1 積分の和・差・積・商の導関数	Derivative of the sum, difference, product, quotient of two functions	5.3.1 積分の和・差・積・商の導関数
	5.3.2 三角関数・指数関数・対数関数の導関数	Derivative of trigonometric functions, exponential functions, logarithmic functions	5.3.2 三角関数・指数関数・対数関数の導関数

積分の学習は理解
レベルまで (until 2012)

これは中国を例とした数学の単元別学習指導内容の比較をしたものです。

以前、箱崎にいた頃に農学部の緒方先生のG30のプロジェクトに少しだけ参加させていただいて、その後、こうした比較検証を行いました

た。学習指導要領、教科書等で単元別に比較対照表を作りました。少し前のデータにはなりませんけれども、中国においては積分を通常の学校では実施まですることはないということです。留学予備学校ではやっておりますけれども、普通の公立ではやっていない、理解のレベルまでしかやらないということでした。ほかにも、証明問題が苦手だとか、同じようなことが他の単元の学習にも見られます。



もう一つ、3年前、日本の高専にいるアジアを中心とした留学生360名に行ったアンケート調査結果の一部を御紹介します。

Q2-1. What is the difficult thing in learning "Mathematics" in Kosen?
「数学」で難しいのは何ですか？

	Very difficult	Difficult	Not so difficult	Easy
1 Study contents / Study units 教科内容/単元	9	113	205	28
2 Japanese terminology 日本語の専門用語	77	161	106	13
3 Strict Teaching style/ teacher 厳しい授業と先生	16	58	211	67
4 Methods of Examination / Test 試験方式	20	99	194	40
5 Methods of calculating 計算方法	8	82	221	36
6 Contents Gap ex. Integral calculus, Determinant未学習 → [応用数学 matrix, vectors 確率 statistic and probability]	23	86	106	30
7 Othersその他 → [教授法ちょっと合わないまだ慣れてない teacher's talking pace lecture speed 専門科目]	6	7	10	5

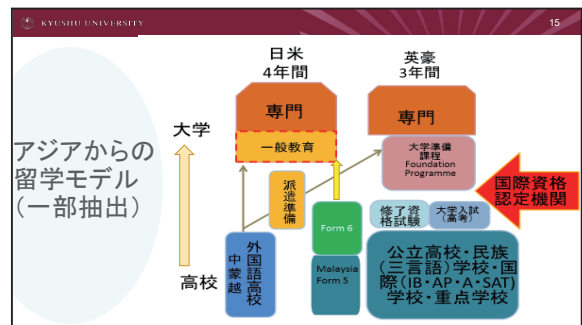
こちらには中国人留学生は含まれないのですが、数学では、さきに申し上げた教科内容の差異として積分や行列、線形代数等の学習がないことなどや、日本語の専門用語が分からない、日本語での授業に慣れないことが多いということが分かります。一方で、授業の厳しさにはあまり違和感がないと答えています。これは留学生が母国での厳しい授業スタイルに慣れているためだと考えられます。

Q2-2. What is the difficult thing in learning Science in Kosen?
「理科・科学」で難しいのは何ですか？

	Very difficult	Difficult	Not so difficult	Easy
1 Study contents / Study units 教科内容/単元	19	168	155	14
2 Japanese terminology 日本語の専門用語	116	166	72	4
3 Strict Teaching style 厳しい授業	16	92	206	40
4 Methods of Examination / Test 試験方式	22	131	183	16
5 Experiment 実験	54	137	144	11
6 Contents Gap ex. Mechanics, Electricity 未学習 → [有機化学 most of specialised subjects 分子生物学、機器分析 電子回路/電子理論 applied physics]	27	92	73	15
7 Othersその他 → [no study week]	2	6	9	2

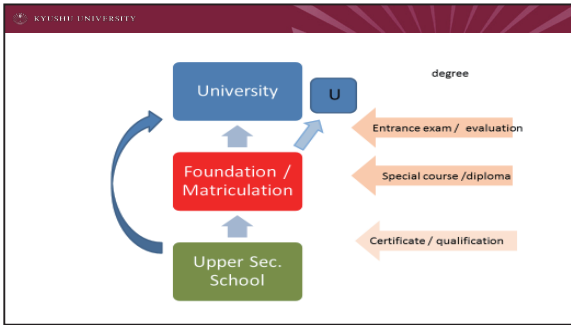
これは理科ですけれども、理科でも同じような傾向が見られます。理科では、実験を困難とする留学生がとても多いです。アジアからの学生は、理論だけで、実験をしたことがない、また、エリート大学では実験よりも机上の理論を重視すると聞いています。このほか、数学と同様に、未学習内容—まだ学んでいない学習についても戸惑っていることが分かります。

このように、高専の留学生調査からも学歴の凸凹があることが分かります。これらの学習内容の相違と学力差をどのような教育機関で調整していくのかが次の課題となります。



ここからは、海外から日本などへ留学する流れ図を概要として見ていきたいと思います。

下が海外の学校、そして、上が日本などの大学です。海外の送り出し学校と真ん中辺りがこれから見ていく部分になります。いろいろな種類の学校があつて、いろんな体系があつて、それを準備教育しながら海外に留学させていくというストーリーになります。



国際高大連携には、特にファンデーションやマトリキュレーションと呼ばれているプログラムと、その上と下の接続部分の関係してきます。これらに右側の卒業資格、プログラム証明書—ディプロマ、大学入学というこの三つが関わってきます。

従来の国内進学と海外留学の枠組									
米・教養型		教養専門		教養くさび		英・家型			
ICU・AIU		日本・中国型		東工大型					
U4	H4 Liberal+3	Special	Liberal	U3 special					
U3	H3 Liberal	Special	Liberal	U2 special					
U2	H2 Liberal	Special	Liberal	U1 special					
U1	H1 Liberal	Liberal	Special	F6Upper	受入型				
S6	S6	高校	3年	高校	3年	F6Lower	国際資格	語学専門	
S5	S5	高校	2年	高校	2年	F5			
S4	S4	高校	1年	高校	1年	F4			
S3	S3	中学	3年	中学	3年	F3			
S2	S2	中学	2年	中学	2年	F2			
S1	S1	中学	1年	中学	1年	F1			

これを並べるとこの図のような形になります。この図も十分ではなくて概念図ですけれども、日本アメリカ式の6-3-3-4制ですね。下から、中学、高校、そして大学4年間となります。イギリス式の6-3-2-2-3制。6年間、3年間、2年間、2年間、ロウワーとアッパーのフォームシックスというのが2年間あって、それから大学が3年間になります。それに応じて高校卒業資格、試験、大学の学習時間が異なります。

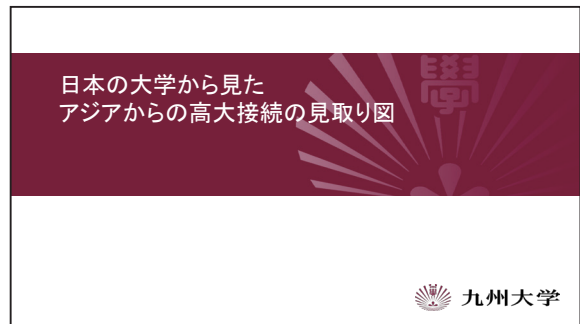
特に、日本の場合は、真ん中の東工大の縦串型の教養くさび型というのは一つの試みですけれども、一般的には、その左の教養教育を1年でやってそれから専門教育を3年間やるというスタイルになります。

現在の国際的高大接続の状況									
米・教養型		教養専門		教養くさび		英・家型			
ICU・AIU		日本・中国型		東工大型					
U4	H4 Liberal+3	Special	Liberal	U3 special					
U3	H3 Liberal	Special	Liberal	U2 special					
U2	H2 Liberal	Special	Liberal	U1 special					
U1	H1 Liberal	Liberal	Special	Foundation	受入型	書誌	履修		
Certificate/Diplom A2	基礎専門	日本語		Foundation	派遣型	書誌	学力		Articulation
Certificate/Diplom A1	基礎専門	日本語	日本語学校	Foundation	派遣型	書誌	学力		Articulation
S6	S6	高校	3年	高校	3年		国際資格	語学専門	
S5	S5	高校	2年	高校	2年				
S4	S4	高校	1年	高校	1年				
S3	S3	中学	3年	中学	3年	F3			
S2	S2	中学	2年	中学	2年	F2			
S1	S1	中学	1年	中学	1年	F1			

日本に留学する場合は、以前は日本語学習を中心とした日本語学校、日本留学予備教育が必要でした。これはさきの先進国と比べて、1、2年間のロスと見られています。以前、チュラロンコン大学を卒業してきて私のところにいた研究生は、日本語学校を経由してきたので、親から「欧米に留学した兄弟がもう修士を取っているのにおまえは何をしているのだ」と言われて、大学院受験前に帰国させられてしまいました。

今は、国際コースができてきたため、そうしたロスは制度的には減っていますが、教育課程のギャップは今でも残っていますし、高度な教育を目指すほど、日本の大学教育に適應できる学習態度をつくって、教科内容の凸凹を埋める予備教育が必要とされています。

それでは、ここで発表者を交代します。



(木村) 続きまして、木村から、日本の大学から見たアジアの高大接続の見取図ということで、お話をさせていただきます。

高大接続制度の設計の困難さ

高等教育が大衆化する以前は、「進学校」に通う高校生を対象とした制度設計であった。

大学入試の多様化は、**進学校に通う高校生以外の入学希望者**に対して**大学へのアクセスをどう拡大していくのか**という観点から設計されてきた。

帰国子女選抜、中国引揚者等子女選抜、社会人選抜、専門高校卒業生選抜の創設に大きく影響を与えたのは、1985-7(昭和60-2)年の臨時教育審議会答申であり、高等教育への門戸開放や国際化への対応が謳われたことに基づく制度化であった(木村2021)。

— 木村拓也「入試の多様化の経緯と現状」中村高康編「大学入試がわかる本-改革を議論するための基礎知識」、岩波書店、2020年9月、pp.45-65.

一般選抜とそれ以外の選抜(特別選抜)という区分

まず、指摘させていただきたいのは、「高大接続制度の設計の困難さ」であります。高等教育が大衆化する以前では「進学校」に通う高校生を対象とした制度設計であったということが出来ます。こうした中での制度設計は、日本人に向けた制度設計でございますが、彼らに合わせた比較的単一の試験制度を用意すれば、それで済んだということです。

それに対して、近年進んでおります大学入試の多様化は、進学校に通う高校生以外の、ここには留学生も含まれますが、そうした入学希望者に対して、大学へのアクセスをどう拡大していくのかという観点から設計されてきたとまとめることができるでしょう。

例えば、帰国子女選抜、中国引揚者等子女選抜、社会人選抜、専門高校卒業生選抜—これは総合学科も後に名称として加わりますが、そういったものが次々と日本の中で制度化されてきました。

その創設に大きく影響を与えたのは、皆さん御存じの臨時教育審議会答申であり、高等教育への門戸開放や国際化への対応がうたわれたことに基づく制度化でした。多様な受験生に合わせる結果、入試の多様化というものは進んでいったわけです。

大学入学資格の弾力化

例) 海外赴任先の滞在国内で各種学校としてしか認可されていないインターナショナルスクールに通った場合、12年の正規の学歴と見なされず(例年1977.5)、英語圏の現地に通った以外の帰国生や学生の多くが、大学入学検定試験を受験するを得ないなどの負担のしかかった。国内でも、各種学校である朝鮮学校の生徒についても、2003年度(平成15)年に大学の入学審査が可能になる以前は、大学入学資格を逃げる大きな課題であった。

「正規の12年の学校修習課程を修了した18歳」という原則が出発点

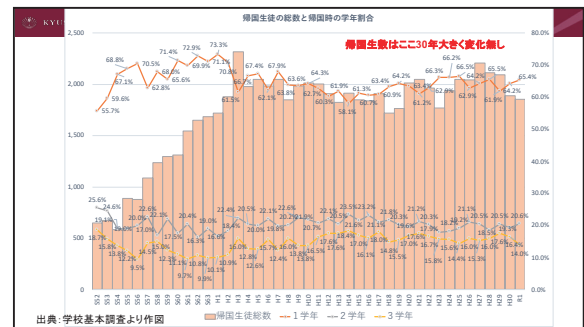
1951(昭和26)年に大学検定試験の実施開始とともに大学検定試験合格者を追加
1978(昭和53)年に在外教育施設修了者を追加
1979(昭和54)年に国際バカロレア資格を追加
1985(昭和60)年に高等専修学校の生徒を追加(文部省高等教育局私学部私学行政課1986)
1995(平成7)年にアビトリア資格を追加
1996(平成8)年にバカロレア資格を追加
2003(平成15)年に国際的な評価団体認定外国人学校(国内)の修了者を追加
1997(平成9)年に国内「飛び入学」者を追加
2003(平成15)年に大学が個別の入学審査を行うことを許可
2016(平成28)年にGCEA資格を追加及び12年課程に満たない者の追加
2019(平成31)年に外国における課程を修了した18歳以上の年齢制限を撤廃

こうした改正や告示を経て、帰国子女生、私費留学生、国内外のインターナショナルスクール修了生、高等専修学校生などに、順次、大学入学をめぐる機会の公正な確保がはかられていた。

の多様化に合わせるために、我が国では、戦後、大学入学資格の弾力化を進めてまいりました。そもそもが、「正規の12年の学校教育課程を修了した18歳」という原則が出発点でありまして、この正規の12年、あるいは18歳という条件を緩和していく形で進んでいきます。

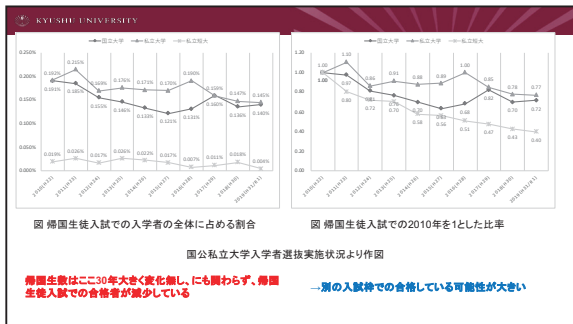
文献を読んでいくと、過去には、海外赴任先の滞在国内で各種学校としてしか認可されていないインターナショナルスクールに通った場合、12年の「正規の学歴」とみなされなかったという事例や、英語圏の現地校に通った以外の帰国子女生徒の多くが、大学入学検定試験を受験せざるを得ない状況もありました。

ただし、改正していく中で、徐々に帰国生、そして私費留学生、国内外のインターナショナルスクール修了生、高等専修学校生徒などに、順次、大学入学をめぐる機会の公正な確保が図られていきました。



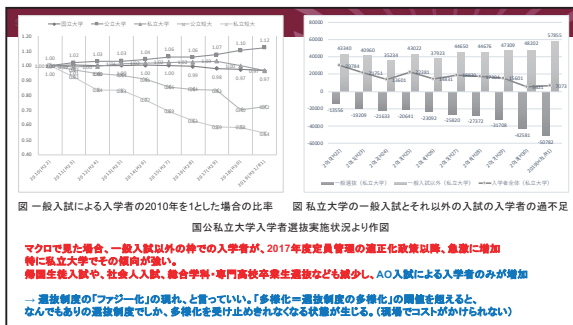
次のスライドは、帰国生徒の総数と帰国学年の割合を横の折れ線グラフで表しております。大きな大学入試制度改革—共通一次とか大学入試センター試験とか、今回の共通テストもそうなのですが、そういったものが行われる数年前から、1年生での帰国が増減したり、これ自体はなかなか興味深いグラフなのですが、ここ30年余り、大きく帰国生徒の数が増えているわけではありません。そのことをまず確認しておきたいと思います。

そうした高等教育の大衆化、つまり、受験生



次に、スライドの左のグラフは、帰国生徒入試での入学者全体に占める割合です。右のグラフは、2010年を1とした場合、ここ10年の変化であります。このグラフから、帰国生自身は、ここ30年大きく変化なしにもかかわらずこれは先ほどのグラフの内容ですが、帰国生徒入試での合格者が減少しているということが分かります。

ということは、別の入試枠で合格している可能性が大きいと考えられるわけです。



次に、スライドの左のグラフは、一般入試による入学者の2010年を1とした場合の国立大学、公立大学、私立大学、そして短期大学も含めてですね、そうしたものの割合になります。特に私立大学でその傾向が顕著なのですが、これを見ると明らかに、一般入試以外の特別選抜による入学者の割合が増えています。一般入試の方々がどんどん減っているということですね。

右のグラフは、私立大学の一般入試とそれ以外の入試の入学者の過不足でございます。御覧いただきますと、マクロで見た場合、一般入試以外の枠での入学者が、2017年度の大学の定員管理の適正化政策以降、急激に増加しています。ここにはグラフに表しておりませんが、さっきの帰国生徒入試だけでなく、社会人入試、総合学科・専門学校卒業生選抜なども減少し、AO入

試による入学者のみが増加しています。

このことを私は、選抜制度の「ファジー化」の現れと名づけています。つまり、あまりにも多様化が行き過ぎると、それに大学側が対応し切れない、「多様化＝選抜制度の多様化」の閾値を超えると、恐らくその反動として、何でもありの選抜制度をつくることでしかこうした多様化を受け止めることができない状況が生じるのではないかと。つまり、現場でコストはかけられないということが現状であるのではないかと考えています。入試で、どこまで受験生の個別ケースに対応していくのかという観点になります。多様な国から多様な留学生が志願するというのは、まさにそういうケースだと思えます。

海外(アジアを含む)からの高大接続で生じる矛盾と新たな展開

矛盾するカリキュラムの接合点としての「**大学入試至上主義**」
3つの主義から構成されている

- 「**現地主義**」: 現地で学力を確認する
- 「**テスト主義**」: 大学側が課すテストを受験させる
- 「**非退学主義**」: 一旦入学させたら卒業まで面倒をみる

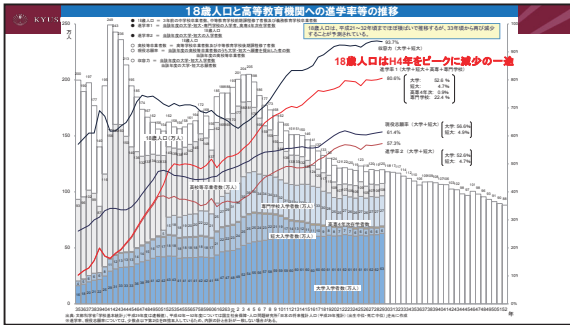
→ 海外中等教育と日本の大学との接続で矛盾をきたす
日本留学生試験の問題は、各国のカリキュラムとの整合性
大学側が、EJUの基準点を曖昧にしていたり、各国で学期の不整合があったり、中国ではEJUが受験できない問題もある。

何より、日本の大学には補助金のペナルティを罰則とする厳格な定員管理の制度があり、募集人数が明確にできない。→受験生にとっては、シビアな問題

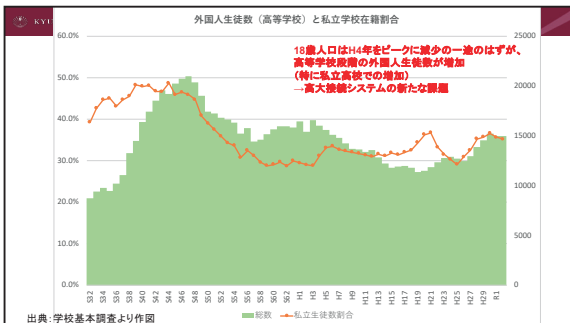
Covid-19でのオンライン化が一過性になるか、永続化するか

次のスライドでは、海外からの高大接続に生じる矛盾と新たな展開を示しております。矛盾するカリキュラムの接合点として「**大学入試至上主義**」を挙げることができます。私が考えるに、このことは三つの主義から構成されていると思います。「**現地主義**」—現地で学力を確認する、「**テスト主義**」—大学側が課すテストを受験させる、「**非退学主義**」—一旦入学させたら卒業まで面倒を見ることです。これはいいこともあるんですが、様々なところで齟齬を起こしてきております。

また、日本留学生試験の問題は、各国のカリキュラムとの整合性を突きつけますし、大学側がEJUの基準点を曖昧にしたり、学期の不整合があったり、特定の国でEJUが受験できないといった問題もあります。何より、日本の大学には補助金のペナルティを罰則とする厳格な定員管理の制度があり、募集人数が明確にできないという留学生試験の困難点ということもあります。



次のスライドは、文部科学省が作成しています18歳人口の減少傾向が表れているグラフです。平成4年をピークに減少しているということを確認していただければと思います。



次のスライドは、学校基本調査のデータでありまして、高等学校に在籍しております外国人生徒数のグラフであります。このグラフは注意して見なければいけないのですが、いわゆる在日外国人の方も含んでおります。ただ、そうだとすれば、平成4年度から18歳人口は減っておりますものの、逆に、このグラフでは、平成21年からずっと増加傾向にあります。

このグラフからこれ以上のことを申し上げるのはなかなか難しいんですが、後の発表にもつながりますけれども、新たなニューカマーの存在が浮かび上がってくるのではないかと考えております。

日本の大学から見たアジアからの高大接続の見取り図
留学経路の多様化

- 国費留学(東京外国語大学、大阪大学の予備教育)
- 私費留学(主に、日本語学校経由)
- 私費留学(国際バカロレア経由)
- 私費留学(日本の高校に編入してから)
- 私費留学(現地日本式教育から直接)

留学生を受験する共通試験の複数化
 日本大学の国際バカロレア
 国際バカロレア
 JPU: 日本大学連合学力試験

大学の選抜制度
 どこまでの多様化に対応すべきか?
 全てに対応するのは無理
ファジー化の必要性
 どういう能力を求めるのか?
(大学入試至上主義は捨てられるか?)
 のせめぎ合いの帰結としての制度設計

大学入試の方が、定員管理が曖昧で、試験も厳格ではなく、ファジー化している
 日本の教育スタイルの進店の困難
 日本式教育の可能性

ここで一旦まとめますと、日本の大学から見たアジアからの高大接続の見取り図として、留学経路の多様化が挙げられます。一つは、国費留学です。東京外国語大学、大阪大学の予備教育経由であるものも含まれます。もう一つは、私費留学です。主に、日本語学校経由でございます。また、国際バカロレアを経由する私費留学も存在します。加えて、新しい傾向として、先ほどの高等学校における外国人生徒数の増加にも見られますように、日本の高校に編入してから大学進学を目指すといったような新たな私費留学のルートも考えられますし、実際に起こっていることではないかと思えます。また、現地日本式教育から直接日本の大学に進学するというルートも近年活発化しております。

また、留学生が受験する共通試験も複数化しており、日本留学試験ではなく、国際バカロレアもございますし、最近では、日本大学連合学力試験による渡日入学も存在しております。

そして、大学での選抜制度ですが、これは国も含めてでございますので、対応を全て行うと非常に途方もないことになるわけなんですけど、どこまでこうした多様化に対応すべきかということに問題はなってきます。

全てに対応するのは無理となれば、ある程度のところで大くりにするファジー化の必要性が出てくるのではないかと考えています。留学生入試をすると、日本の場合、特定の国からの志願が多くなっているというのは、多様な受験生に配慮する制度設計になっていないということも考えられるかもしれません。

さらに、どういう能力を求めるのかという観点につきましても、先ほど述べました大学入試至上主義を捨てられるかという課題がございます。こうしたことのせめぎ合いの帰結として我が国における留学生入試の制度設計というものが存在してきます。

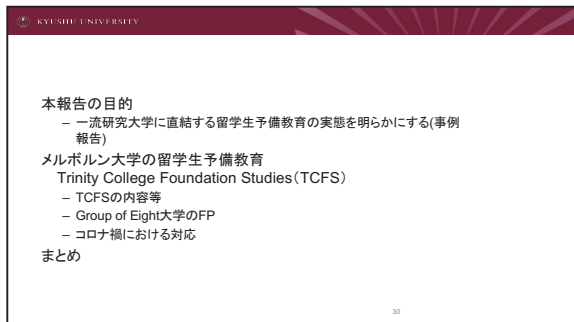
実は、先ほどからファジー化という話をしておりますが、大学院入試のほうは、定員管理が曖昧で、試験も厳格ではなく、実質的には私が述べておりますファジー化の現象が起こっているのではないかと考えております。

また、先ほどの竹熊先生の話にもありました

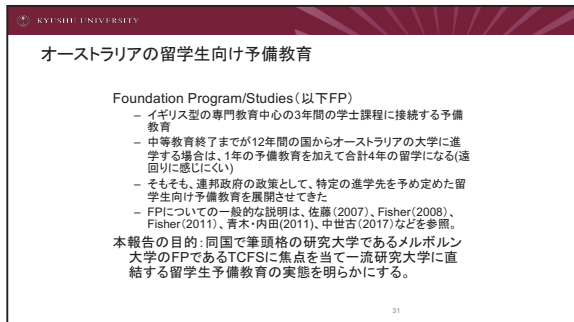
が、大学院入学において、日本の教育スタイルへの適応といった問題もごございます。その意味では、今日話にあります日本式教育の可能性も指摘されるところでございませう。



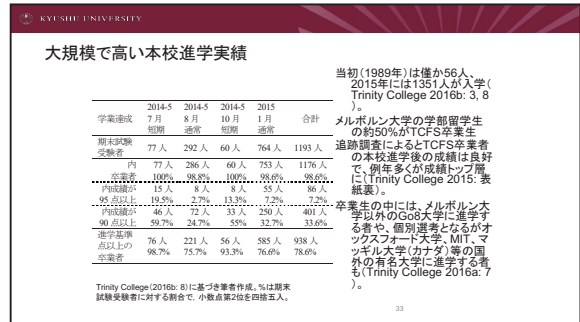
では、次に、私たちが現地調査を行った、オーストラリアのファンデーションプログラムの事例を紹介させていただきます。この研究につきましては、一緒に研究を行いました九州産業大学の中世古先生とともに現地調査を行った結果を御報告させていただきます。



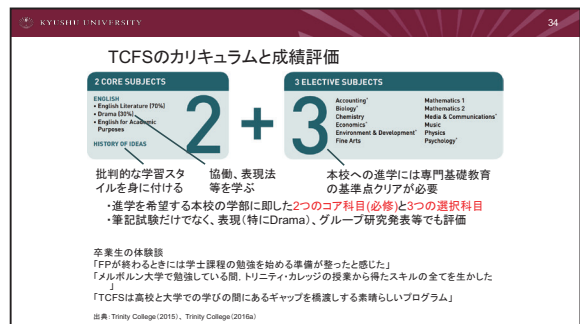
特に、今日御紹介いたしますのは、一流研究大学として名高いメルボルン大学のファンデーションプログラムを例に、一流研究大学の留学生予備教育の実態を御紹介したいと思います。



メルボルン大学のファンデーションプログラムの一つは、トリニティ・カレッジというところですが、その写真にありますように、トリニティ・カレッジ自体は大学の敷地の中にございませう。見た目は大学直轄のプログラムのように見えます。



設立当初は、僅か学生数が56人でございませうでしたが、2015年には1,351人が入学するなど、メルボルン大学に入学する留学生の実に50%の割合を占めております。また、メルボルン大学以外の有名大学に進学するケースもございませう。



トリニティ・カレッジでは、批判や協働、表現法を学ぶコア科目と専門基礎教育が行われております。我々が訪問したときに、言語表現の一つとしてドラマという科目を履修することが非常に特徴的であるとおっしゃったことがすごく記憶に残っております。また、メルボルン大

学本校への進学には、専門基礎科目の基準点クリアが必須となっており、ここで入試とは違った意味でございますが、関門が設けられているわけでございます。

本校の学位プログラムに応じた進学基準点と必須科目

本校の学位プログラム	進学基準点 (全員の平均)	TCFSでの必須科目 (全員の平均)
Agriculture	75	Mathematics 1
Arts	80	History of Ideas (上記)
Biomedicine	91	Chemistry, Mathematics 1
Commerce	86	Mathematics 1, History of Ideas (上記)
Design	80	一部専攻で Mathematics 1
Music	67	History of Ideas (上記)
Music (Practical)	80	Music (Practical)
Oral Health	80	Biology 主には Chemistry
Science	80	Mathematics 1 と Chemistry, Physics から1つ

履修した5科目のうち、上位4科目の成績の平均点がTCFS全体の成績になり、本校進学可否を決定する (Trinity College 2016a: 16)。

本校の Academic Board がTCFSを監督 (Trinity College 2016a: 6)。

改善要求を行い、対応が不十分なら卒業生受け入れ拒否もあり得る。

進学基準点は、実は専門分野ごとに異なっております。ある意味、これが入試の機能を果たしているわけでございますが、こうした基準点も含めまして、メルボルン大学本校のアカデミックボードがトリニティ・カレッジの教育内容等々を監督する体制を取っており、改善要求を行う仕組みを取っております。

充実した実施体制

学科	科目	教員	うち博士	割合
英語	English for Academic Purposes	51	6	11.8%
文学	Literature	18	10	55.6%
演劇	Drama	15	5	33.3%
歴史	History of Ideas	16	10	62.5%
会計	Accounting	7	1	14.3%
生物	Biology	6	3	50.0%
化学	Chemistry	8	6	75.0%
経済	Economics	6	2	33.3%
環境	Environment & Development	6	2	33.3%
数学	Mathematics (1 及び 2)	26	13	50.0%
メディア	Media & Communications	3	0	0.0%
音楽	Music (Practical)	3	0	0.0%
物理	Physics	6	1	16.7%
心理学	Psychology	5	3	60.0%
合計		176	62	35.2%

大学でも授業を担当できるレベルの教員を多数配置
- 教員の1/3以上が博士号
- S/T比は7.68

TCFSだけで教員以外に37人(事務、学生募集、学生相談等)
- 他にもカレッジ全体のスタッフが数十人

また、トリニティ・カレッジでは、教えている教員の3分の1が博士号を取得している教員であるなど、大学でも授業を担当できるレベルの教員を多数配置しております。こうしたところは、我が国もシニアの教員であるとか、大学院生、オーバードクターの学生を使うなどの知見にも流用することができるのではないかと考えております。

一般的なFPより高い入学基準: 英語力と国別の学力基準

出典: Trinity College (2020a: 40-41)

Test	Main	Extended	Fast Track
IELTS	6.0 (No band less than 5.5)	5.5 (No band less than 5.0)	6.0 (No band less than 6.0)
TOEFL	80 (No Writing)	80 (No Writing)	80 (No Writing)
Pearson	50 (No Writing)	44 (No Writing)	50 (No Writing)

Region	Main	Extended	Fast Track
International	Completion of 1st year of IB Diploma with an aggregate of 23 in five relevant subjects	Completion of 1st year of IB Diploma with an aggregate of 26 in five relevant subjects	Completion of 1st year of IB Diploma with an aggregate of 28 in five relevant subjects
Iran	Completion of Year 12 with five relevant subjects	Completion of Year 12 with five relevant subjects or 18 and above	Completion of Year 12 with five relevant subjects or 18 and above
Japan	Upper Secondary School Certificate with a average in relevant subjects	Upper Secondary School Certificate with 5 average in relevant subjects	Upper Secondary School Certificate with 5 average in relevant subjects

日本からなら、英語力に加え、高校の評定平均4以上(短期コースならばオール5)
FPの全国基準 (Tertiary Education Quality and Standards Agency 2009: 4) ではIELTSなら5.5点(長期コースなら5.0点)で十分

また、入学基準も実は国別に定めておりまして、例えば、日本からですと、英語力に加え、高等学校の評定平均値が短期コースでほぼオール5であることを求められております。

高額な授業料(2021年)

2021 tuition fees are inclusive of an iPad and related services

Intake	Semester 1	Semester 2	Fees
January Comprehensive	12 January - 18 June 2021	12 July - 10 December 2021	\$40,000
January Comprehensive Plus	12 January - 18 June 2021	12 July - 10 December 2021	\$40,000
February Main	8 February - 25 June 2021	12 July - 26 November 2021	\$34,650**
July Fast Track	17 June - 24 September 2021	4 October 2021 - 28 January 2022	\$34,650**
July Comprehensive	13 July - 17 December 2021	10 January - 10 June 2022	\$40,000*
July Comprehensive Plus	13 July - 17 December 2021	10 January - 10 June 2022	\$40,000
August Main	2 August - 17 December 2021	4 January - 20 May 2022	\$34,650**
October Fast Track	23 September 2021 - 24 January 2022	31 January - 20 May 2022	\$34,650**

複数の入学時期・期間を設定
1豪ドル=80円とすると
- 約8か月277万円
- 約11か月392万円
- 他に実費徴収が若干
- 滞在費は別
親兄弟がTCFS卒業生の場合は5%割引

一方で、また授業料そのものも高額でございまして、メルボルンは非常に現地の滞在費が高いということも皆さん御存じかもしれませんが、それとは別に、8か月277万円、11か月392万円の授業料となっております。こうしたものもトリニティ・カレッジの一つの財源となっていることもうかがえます。

Go8大学は類似したFPを展開

大学	FP名称	提供主体
メルボルン	Trinity College Foundation Studies	Trinity College
オーストラリア国立大学	Foundation Studies Program	ANU College
シドニー	University of Sydney Foundation Program	Taylor's College
クイーンズランド	IES Foundation Year	International Education Services
西オーストラリア	University of Western Australia Foundation Program	Taylor's College
ブリスベン	Foundation Studies Program	Broadford College
アデレード	Foundation Studies Program	Erasmus College
マンチェスター	Manash University Foundation Year	Manash College
ニューカッスル	UNSW Foundation Studies	UNSW Global

- TCFS卒業生の90%以上がGo8大学のいずれかに入学可能 (Trinity College 2020a: 11)
- 実はGroup of Eight大学はFPを相互認証
- 大規模、外部委託、高額な授業料、高い本校進学率、進学後の好成績などが特徴

グループ・オブ・エイトの大学は、メルボルン大学だけではなく、お互い、ファンデーションプログラムを運営しておりまして、相互認証を行っています。また、大規模に外部委託も行ってあります。

また、メルボルン大学にも、有名な教育産業に委託しております。別のホーソン・カレッジというファンデーションプログラムも存在しております。英語力だけが不足する本校の仮合格者に10週間の集中訓練を行います。もともとは大学の直営でありましたが、増え続ける予備教育留学生、年間2,000人で、99%が現状は中国からの留学生であると聞いております。また8%ほどが不合格になるということも聞いております。こうした予備教育の留学生に学問的誠実性をなかなか教えることが難しいといったことも、現地の教員の聞き取り調査の中で出てまいりました。

また、この学校は、メルボルン大学から少し離れた郊外にあって、我々もタクシーで行ったんですが、学生は休日になるとメルボルン大学の図書館の入館許可書をもらうことができ、大学の環境に慣れるという意味でも行き来をしながら、図書館を利用しながら、学習を進めているということをお伺いしております。その中で学術論文執筆の基礎を身につけさせるということになります。

こうしたファンデーションプログラムを運営することで、メルボルン大学本校の選抜と教育のコストを削減し、教育負担を軽減する仕組みとなっております。

観点	断絶型	直結型
主たる実施主体	非大学セクター	本校と密接に関係する機関
立地、施設	進学先と無関係	本校に近接
大学からの質的統制	弱い	強い
教育内容	一般的な試験対策中心	本校の教育への準備
教員資格	中等教育レベルに近い	高等教育レベルに近い
ブランド力	弱い(セクター内での実績に依拠)	強い(本校の威信に依拠)
学生の学力	多様	本校に近接
大学への接続	試験の結果次第、進学先の見直しは不明	プログラムの成績次第、進学先の見直しあり

こうした状況を分析いたしますと、海外との高大接続におけるファンデーションプログラムを構成しているのは、いわゆる日本でよく見られる断絶型と、今御紹介しましたように、大学本校に直結する直結型に分けることができます。そして、これからはますますこうした直結型のプログラムが日本でも重要になってくるのではないかと思います。

次のスライドは、COVID-19の下での情報になります。オンラインで受講しても本校に進学可能となっており、そもそも本校が留学生にオンライン対応であります。入学にビザは不要となっており、高額な授業料はほぼ据え置き、実費は免除という状況のようです。

まとめと致しましては、一流研究大学への主要留学経路としての直結型ということで、お話しさせていただきます。アジアから優秀な留学

生を引き付けるオーストラリアの研究大学は大規模で高質な予備教育を展開しております。既に学力が比較的高い志願者を厳選するというこ
 とで、予備教育入学段階の選抜は外国学歴・資格評価 (FCE) だが、本校側は選抜と予備教育の外部化によって手間やリスクを回避しております。本校への接続に特化したカリキュラムや評価システムが特徴で、試験による選抜ではなく、基準に達しているか、で運用されております。そうしたことを通して、高い本校進学率や進学後の好成績を生み出しております。それらを可能にする条件としては、大学教員に準じるレベルの多数のスタッフ、本校と予備教育機関の連携と緊張感を伴う質保証、相当規模の運営支援体制を成立させる高額の授業料、高価格・高付加価値 (一流研究大学直結) の教育事業が挙げられます。また、コロナ禍でオンライン化するも今のところ事業継続しているようです。

ここで、再び、竹熊先生のほうにお戻しさせていただきます。

プログラムということでございます。

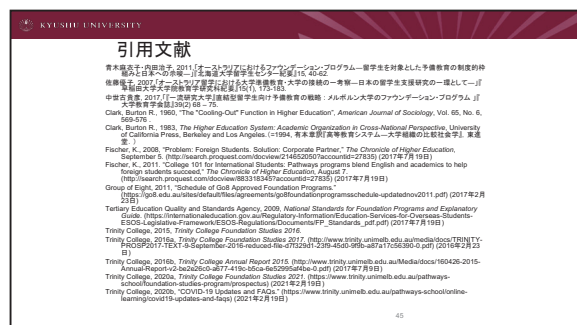
送出側・高校側の準備教育や予備教育との直接連携

高校附設型： 送出準備課程付与 (語学教育)・高校附属 From 6

大学附設型： 大学入学准認定 受入責任母体=大学側や送出側 U.Malaya matriculation/foundation・中国華南師範大学のU-Link 帝京malaysia日本語学院(IBT)文科省準備教育課程指定校現地版

直接接続型： 高校国際部併設 (語学+SAT AP等準備教育・高考非受験)
 高校日本語教育併設 (附設) ⇒ 直接進学可能性 IB校
 大学が派遣教員による面接や教育課程設定を行い、直接大学に入学させる
 ⇒ 高考やIBやGCSEで直接入学も (※共通テストの情報少)

ここでは、詳細には触れませんが、三つのタイプで考えてみたいと思っています。一つは、高校にくっついている高校付設型の準備教育、もう一つは大学付設型の準備教育、またはマトリケーションのような受入れ教育です。もう一つが、直接接続型という、先ほどありましたような、直接大学に入っていくというパターンです。



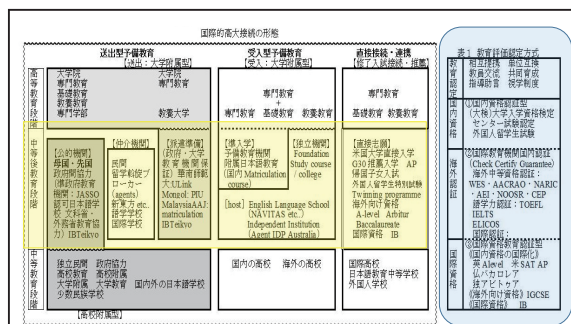
6. アドミッションの二つの方向性

直接入学としての日本式教育学校

世界展開としてのFoundation program (学部と大学院)

(竹熊) ここから最後のところのまとめをさせていただきます。アドミッションの二つの方向性ということでもまとめさせていただきたいと思

ます。一つは、直接入学としての日本式教育学校、もう一つは世界展開としてのファンデーション



この図は、少し分かりにくいですが、タイプ別にまとめました。左から、高校で進学準備が提供されている、高校側から中等教育まで伸びていって、そこから派遣していくパターンです。送り出し、予備教育をする。大学のほうでも派遣準備をしていく、マトリケーションとして受け入れて、そこから海外に派遣していくという場合があります。

真ん中の受入れ型予備教育というのが、それぞれ独立機関がありまして、先ほどありましたように、ファンデーション・スタディー・プログラム、大学に付設する場合、付設しない場合、あとは民間の、オーストラリアにはナビタスというほかにもありますけれども、いろいろなエージェントがあります。

もう一つ、右側が直接接続型です。これは、

例えばインターナショナルバカロレアとかいうものだと直接受けられますし、GCEのAレベルとかですと、アビトゥーアとか、そういうものも受け入れることができます。

右側の部分は、評価認定方式としまして、一番下が得られる資格で、一つ上がそれをどういうふうに評価するかというのが海外認証になります。その上にいろいろな日本の国内資格があります。どういう協定の仕方があるかということになります。この黄色い部分が、これから考えていかななくてはいけない部分で、青い部分が、評価、資格認定について非常に重要な部分だと思います。

今後の国際的高大接続の将来像

	米・教養型 ICU・AIU	教養専門 日本・中国型	教養くさび 東工大型	英・豪型	
U4	H4 Liberal-S	Special Liberal	Special Liberal	U3 special	
U3	H3 Liberal	Special Liberal	Special Liberal	U2 special	U3 special
U2	H2 Liberal	Special Liberal	Special Liberal	U1 special	U2 special
U1	H1 Liberal	Liberal	Special Liberal	基礎専門	U1 special
	直接入学 ↑	直接入学 ↑	直接入学 ↑	直接入学 ↑	学力判定基準 能力評価項目
S6	S6	Liberal	Special	基礎教養	国際資格
S5	S5	高校 2年	高校 2年	F5	語学専門
S4	S4	高校 1年	高校 1年	F4	
S3	S3	中学 3年	中学 3年	F3	
S2	S2	中学 2年	中学 2年	F2	
S1	S1	中学 1年	中学 1年	F1	

国際部高校

これは先ほどの図ですけれども、これから直接入学するためには、高校のほうでもそういう準備教育をしなくてははいけないし、大学の受入れのほうでも、やはり受入れ教育をしなくてははいけないという形になります。

高校の3年間、もしくは最後の1年間、そして大学の1年間、この辺りを先程の接続部分と申しあげましたけれども、どういうふうに調整していくかによって大学への直接入学というのが可能になっていきます。そのときに、学力判定、能力評価のやり方というのが非常に関わってくる部分になります。

例えば、日本留学試験EJUや大学編入試験、文科省による独自のプログラム、後でそれぞれの学校のほうでも紹介いただくかと思いますが、個別の教育内容や難易度が異なっていて、大学、大変評価がそれぞれ難しいところがあります。準備教育の側からすれば、一度の試験ではかれない学生の長所をいかに評価してもらうかというのも大事な部分なので、そういう大学との合同の協議が必要になってきます。

入試・大学初年次の再構築への作業

大学の一般教育の様々な理念 教養教育の配置と学習方式の再定義
基礎教育;専門教育との接合 教養教育：視野や知識の拡大+人格教育 ←「通識教育」

中等後教育又は大学基礎教育として中等教育の補完以上の役割
大学基礎教育では初年次教育として海外の教育歴の相違を繋ぐ
国際言語修得、日本語の修得 + Basic Academic skills 修得
学術資源言語

入試+大学教育課程
蒙州大学：必要科目の修得での入学を認め3年制の専門教育と学位
日本への留学は専門知識（A level 3科目だけ）と、語学力で十分か？
Vs.教養教育保持論

大学では、一般教育、教養教育を基礎教育とするのか、縦串にするのか横串にするのかというふうな検討が必要になってきます。高校段階の教育と専門教育をどのように接続するか、新しいやり方を考えていくことが必要になります。

少しばかり極端な言い方をしますと、日本の高校教育はより多様化して、アカデミックであれば大学教育との接点を意識して大学の教養教育のように変わらなくてははいけないと思われま。また、一方、中等後教育や大学の教養教育は、初年次であれば、補完教育以上の専門教育機関としての役割を持たせ、ファンデーションと位置づけてもよいかもしれません。それに合わせて、入学試験内容や科目も変わっていく可能性があります。

海外の教育証書と資格枠組の認証の活用
大学独自の学力認定を踏まえた教育連携体制の構築

仲介予備教育機関(cross-national standard)との連携強化
海外の多様な学生自身が持つ学習内容の不足箇所を発見、入学試験や留学先大学のカリキュラムに合わせる「均す」役目（凸凹の解消）
Language school, Matriculation course, Foundation Studies Program は学生の教育歴と学力審査の機能を持たざるを得ない
→媒介留学教育機関がDiploma資格を提供し、大学進学を促進する
準備・予備教育の課程の整備
学力評価は大学や学部個別依存状況→ネットワーク整合化必要
→学位授与機構、ABK等の審積機関

多言語・多課程教育内容(bi-curriculum)の評価と連携支援
教科書単元表の比較など、教育の高度化のための教育内容の精選
新しい学習目標に則した学力診断と教育方法の支援と連携

こうした状況において、クロスナショナルなスタンダードというのをつくっていく必要があるということと、それぞれの海外の学校がバイカリキュラムといいますか、多課程の教育を今実践している状況です。これは、まとめのところでもまた少しご説明します。

課題と解決策

留学生別科のスタンダードを設ける連携・協定校
 中等後教育資格基準・認証枠組み（専門機関連携）も活用
 海外中等学校・日本語学校・準備教育学校との連携

大学別に留学生受入・フォローのワンストップ窓口
 中等教育資格確認・教育・資格付与・送出⇄情報共有

日本式教育の課程と資格を標準化する枠組み
 文科省海外日本人学校の支援と似た柔軟枠組

これからの国際的高大接続においては、一つの方向性として、既存の留学生の別科や予備教育機関との協定を強化する中で、新たなファンデーションプログラム、日本独自のというものでも良いと思いますけれども、模索することが重要ではないかと思えます。

これまで共有されることがなかった情報について、各大学や学校との連携によって共通枠組みをつくっていく必要があります。ナショナルスタンダードというのができてくるとまた変わってきますけれども、現状では、ネットワークでそういうものをつくっていく必要があると。また、例えば、教育評価や試験問題をすり合わせていく、共有から始めて、そういう学力認定を設けていく場というのをつくっていくことが重要かと思えます。

また、大学では留学生の学力判定は学部で異なります。大学にワンストップの留学生窓口をつくり、学内でも評価、教育情報の集約と共有をしていくことが必要だと思えます。

もう一つの方向性である日本語教育から始まる日本式教育の学校を日本国や社会が支援して、整備していくことが求められます。ブランド化は重要ですし、そこと日本の大学教育が共有できる部分、例えばアメリカのアドバンストプレイスメント、APプログラムのようなものも開始していく必要があると思えます。

こちらにも様々なポートフォリオ、先ほど見たトリニティとかモナシユのそういうファンデーションなどもありましたけれども、ポートフォリオとか試験が蓄積されていきます。まずは、それらの多面的評価指標をつくって、提携校などとそれらの共有を図っていくネットワークを拡大していくことが効率的な進学ルートとなって、発展の基盤を支えることになると思い

ます。

本日の事例学校のご紹介

母国の教育と日本式教育を併用 (bi-curriculum)
 優秀なバイカルチュラルな人材を育成

新モンゴル学園	モンゴルでの多様な日本式教育実践
信男教育学園	中国での民間の日本語・日本式教育
柳川高校附属タイ中学	タイでの日本式附属学校
日本国際学校	ベトナムでの幼稚園から日本式教育

AAJ マラヤ大学内附設の日本留学準備教育機関
 帝京マレーシア日本語学院
 大学連携・政府派遣留学生委託教育機関

それではここで本日、発表いただく教育機関について、簡単にご説明させていただきます。

まず、日本式教育学校の中から、御発表順に新モンゴル学園からお話を伺うことができます。モンゴルで普通学校から高専、大学まで多様な教育機関をつくって、教育実践に取り組みられている学校です。

次に、中国の信男学園は、日本式教育を取り入れた民間では極めて珍しい学校です。現在、教育学部とも連携して、その効果が注目されています。

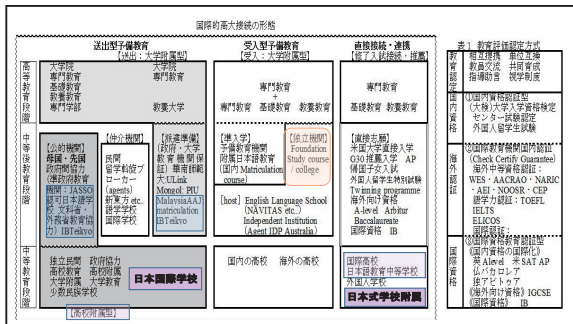
そして、柳川附属タイ中学です。日本式教育に注目を集めると共に、附属学校としてその活動は注目を集め、国際展開への最先端を走っている学校と言えます。この学校とも教育学部が提携させていただいています。

次に、ベトナムの日本国際学校です。日本語教育を取り入れた学校が多い中、日本式の教育を導入して、現在、日本、イギリス、ベトナムの三つの教育課程を併設しています。大学との連携も始めていて、これから注目される学校です。

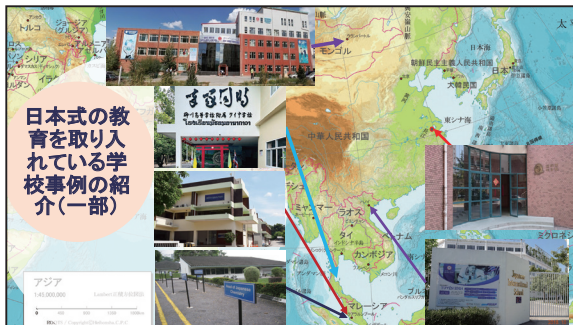
次に、予備教育機関として、マラヤ大学の日本留学予備教育課程であるアンバンアスハンジェブンというAAJというのがあります。以前はマラヤ大学附属の基礎科学センターの一部でしたが、既に40年の歴史を持ち、日本への送り出しを行っている機関です。初代の日本人教師団の団長は、元本学教授の権藤與志夫先生でした。

もう一つ、帝京マレーシア日本語学院、名前から大学附属の日本語学校と思われると思いますが、政府派遣留学生の準備教育も行ってい

る学校です。それ以外にも国際的な留学競争の中で様々な日本留学の準備を提供されております。



次のスライドは、教育機関の位置づけになります。色のついた部分がそこに当てはまるといふこととあります。



それぞれの学校の位置をプロットしてみました。日本の大学では、学部、大学院で留学生を世界から獲得していくことがスタンダードとなるといふ思います。留学生の強みや弱みを理解し、将来のある優れた部分を今改めて評価することが私たちの発展、改革につながるものと思ひます。

これからお話を伺うそれぞれの学校や学部での具体的な課題や要素、教育的な要望がたがひ合わされて、ネットワーク、コンソーシアムがたがひられることを期待いたして、本日の御発表とさせていただきます。どうもありがとうございます。

(江口) 竹熊先生、木村先生、中世古先生、ありがとうございます。

以上をもちまして、第1部を終了いたします。

第2部 アジアからの高大接続事例の紹介

新モンゴル学園（小中高・高専・工科大）[モンゴル]

新モンゴル学園理事長 ジャンチブ・ガルバドラッハ
専務理事 ガルバドラッハ・トゴス



新モンゴル学園理事長
ジャンチブ・ガルバドラッハ

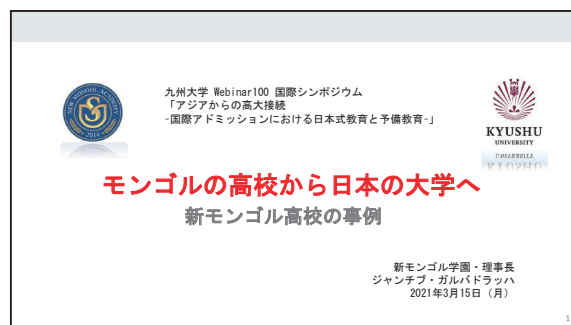
(江口) まず最初は、新モンゴル学園についての発表です。御発表は、ジャンチブ・ガルバドラッハ理事長、ガルバドラッハ・トゴス専務理事にお願いいたします。お二人の先生について、こちらから御紹介させていただきます。

ガルバドラッハ理事長は、1985年にモンゴル国立大学物理学部を卒業、1999年に山形大学大学院教育学研究科修士課程を修了、2002年に東北大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得退学なさいました。東北大学大学院在学中である2000年に新モンゴル高校を創設、モンゴルに帰国後、高校を小中高一貫校に拡大し、さらに、工科大学、高等専門学校などの4校を傘下に抱える新モンゴル学園まで発展させました。

ガルバドラッハ理事長は職務の傍ら、2016年にモンゴル国立教育大学で博士号を取得しました。さらに、2019年から、名古屋大学大学院博士課程に在籍し、モンゴルにおける公立学校の経営改善に関する考察について研究しておられます。2017年秋の叙勲で、モンゴル・日本両国間の青少年交流、文化交流への貢献に対する功績として、旭日小綬章を受賞なさいました。

なお、ガルバドラッハ・トゴス専務理事は、九州大学大学院LLMを修了されておられます。

それでは、ガルバドラッハ理事長、新モンゴル学園の御発表をよろしくお願ひいたします。



(ガルバドラッハ) 皆様、こんにちは。先ほど御紹介にあずかりましたジャンチブ・ガルバドラッハと申します。

今回、このように発表する機会を与えていただき感謝いたします。

本日は、モンゴルの高校から日本の大学への事例を申し上げます。



新モンゴル高校はモンゴル初3年制の日本式高校

日本へ留学 長女トゴスが山形県立西高等学校に入学 2000年10月5日開校、第1期生105名が入学

<日本での研究>

1. 山形大学修士課程(1997-99): 「戦後日本における物理教育の展開とその国際比較」
2. 東北大学博士課程(1999-2003): 「モンゴルにおける高等学校のカリキュラム開発」

<主な特徴>

1. 2年制高校カリキュラムを「3年制」への刷新
2. 3年制のカリキュラムが認定され、卒業後、直接海外へ留学
3. 制服・給食・部活動・課外活動・成績通知状等の導入
4. 語学教育・理数教育の重視
5. 教育課程以外での日本語プログラム(サマースクール等)
6. 優秀な在校生に対する奨学金制度

Shine Mongol High School

I. School overview

Shine Mongol High School is Mongolia's first three-year high school (Japanese model)

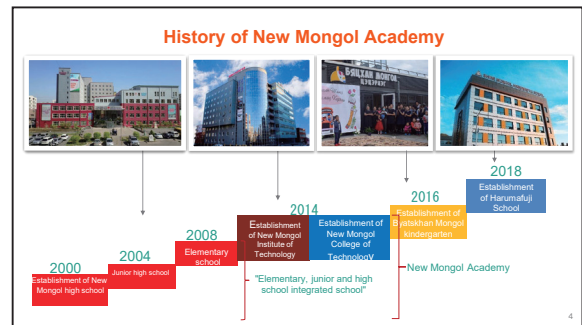
Eldest daughter Togos 105 first-term students, 8 faculty members

Tohoku University Graduate School of Education Doctoral Program Research Theme "Curriculum Development for Higher Education in Mongolia"
Modeled Yamagata University Nishi High School

<Main features>

1. Renewal of 2-year high school curriculum to "3-year"
2. After graduation, study abroad directly
3. Introduction of uniforms / school lunches, club activities, grade report cards, etc.
4. Emphasis on language education and science and mathematics education
5. Japanese language programs other than the curriculum (summer school, etc.)
6. Scholarship system for excellent current students

ことです。山形西高校をモデルにしたため制服、給食、部活と成績通知といった日本ではごく普通のことがモンゴルですごく人気になりました。カリキュラム上では、英語が第1外国語、日本語が第2外国語、さらに理数にも力を入れたのが特徴である。



まず、学校概要です。新モンゴル高校は、私が32歳のとき日本に留学したことがきっかけで始まります。私が山形大学修士課程では、「戦後日本における物理教育の展開とその国際比較」、その後東北大学博士課程では「モンゴルにおける高等学校のカリキュラム開発」というテーマでそれぞれ研究をしました。

最初はどんな学校が作れるかと悩んでいましたが、長女のトゴス（現在、新モンゴル学園専務理事）が山形の進学高校である県立西高校に合格できたのがきっかけとなりました。その西高校をモデルにしてつくられたのが新モンゴル高校であります。

新モンゴル高校の特徴と言えば、当時モンゴルの高校は2年制だったが、本高校がモンゴル初の唯一の3年制の高校でありました。3年制の高校ができたおかげで、卒業生達が海外の大学に直接留学することが可能となりました。

また、もう一つの特徴は、日本式高校という

3年制高校だけでスタートした我が校が、今、新モンゴル学園まで拡大してきました。2000年に高校、2004年に中学校、2008年に小学校ができ、小中高一貫学校となりました。その後、2014年に工科大学、高専ができ、新モンゴル学園となりましたが、その後も、2016年に子ども園、2018年に新モンゴル日馬富士小中高一貫学校もできました。以上が新モンゴル学園の簡単な歩みであります。

新モンゴル小中高一貫学校の今

新モンゴル学園の構造

大学	163名
高等専門学校	494名
高等学校	420名
中学校	499名
小学校	600名
幼稚園	208名

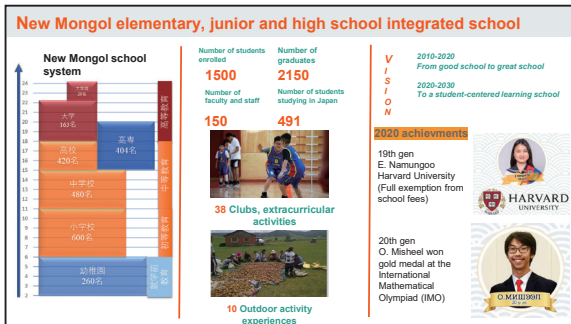
在学者数 1545名
本籍生数 2150名
教職員数 152名
日本語学者数 491名

2019-2020 目標
良い学校から偉大な学校へ
2020-2025 生徒主体の学習する学校へ

2019年の出来事
19期生 E.ナムンゴがハーバード大学に合格(学費全額免除)

20期生
O.ミネールが国際数学オリンピック(IMO)で金メダルを獲得

38の部活動、クラブ
10の野外体験活動



まず、新モンゴル小中高一貫学校の概念です。この図に新モンゴル学園の構造を示してありますが、数字はそれぞれの在学学生数を表しています。現在、小学校に600名、中学校に480名、高校に420名の生徒が在学中です。全生徒は1,545名、教職員は150名です。部活動などは38、課外体験活動は10ぐらいあります。

2010年から2020年にかけて本校は「よい学校から偉大な学校へ」という目標を掲げて頑張ってきました。20周年を迎えた現在は次の10年間の新しい目標として、「生徒主体の学習する学校」というビジョンを掲げております。

本日は高等学校を中心に話します。最近の実績から申し上げますと、2020年度の卒業生のうち、ハーバード大学に19期生のナムーンゴー氏が直接学費全額免除で入学しています。

それから、今、高校3年生に在籍しているミシェール氏が、2020年度の国際数学オリンピックにモンゴル国を代表して参加し、金メダルを獲得しております。

その他に、たくさんの実績があります。

以上のスライドには各科目において行われる高校生同士の大会オリンピックの実績を示しています。

国際オリンピックに参加する資格を得るにはまず、地区大会に優勝し、ウランバートル市の大会に選ばれ、それから全国大会で上位五番以内の成績を出さなければならない。我が高校出身の生徒達は今まで、国際オリンピックで10のメダルを獲得しております。

御覧のとおり、物理、化学、数学に力を入れたお陰だといえる。先ほど申し上げたミシェール氏が国際数学オリンピックで銅メダルと金メダルを2回、その他にドゥルグーン氏も、国際物理オリンピックで銅メダルと銀メダルを獲得しております。



新モンゴル高専・工科大学
I. 学校概要

New Mongol College of Technology /
New Mongol Institute of Technology
I. School overview

スライドがたくさんありますので、飛ばして話しますが、先ほど学園と申し上げましたので、高専と大学の概要も簡単に紹介したいと思います。

す。

新モンゴル高専

1期生のDr. Davadorj (博士) 日本航空 (ANA) に就職

2019年にモンゴルで開催された国際ロボコン大会に参加、ベスト8に選抜

2017年に岐阜で開催された日本全国高等専門学校デザインコンペティションで特別賞を受賞

New Mongol Institute of Technology (NMIT)

2019年にモンゴルで開催された国際ロボコン大会に参加、ベスト8に選抜

Received a special award at the Japan National College of Technology Design Competition held in Gifu in 2017

新モンゴル工科大学 (NMIT)

Dr. Ganbaatar Tumen-Ulzii
Postdoctoral researcher at Adachi laboratory (OPERA), Kyushu University, Japan (Prof. Chihaya Adachi)

RESEARCH FIELD
Organic electronics, Nanotechnology, Material science

EDUCATION
2017-2020 Ph.D., Department of Chemistry and Biochemistry, Graduate School of Engineering, Kyushu University, Japan

AWARDS
The Best Poster Award, IPERO-P20 International Conference in Tsukuba, Japan, 2020
The Best Presentation Award, Department of Chemistry and Biochemistry, Kyushu University, 2019

New Mongol Institute of Technology (NMIT)

Dr. Ganbaatar Tumen-Ulzii
Postdoctoral researcher at Adachi laboratory (OPERA), Kyushu University, Japan (Prof. Chihaya Adachi)

RESEARCH FIELD
Organic electronics, Nanotechnology, Material science

EDUCATION
2017-2020 Ph.D., Department of Chemistry and Biochemistry, Graduate School of Engineering, Kyushu University, Japan

AWARDS
The Best Poster Award, IPERO-P20 International Conference in Tsukuba, Japan, 2020
The Best Presentation Award, Department of Chemistry and Biochemistry, Kyushu University, 2019

新モンゴル高専も、日本式高専であります。日本に留学したガントゥムル文部科学省大臣が2012-16年の間に、日本政府・文部科学省と提携して、日本の高専をモンゴルに導入し、三つの高専が開校されました。その一つが、我が新モンゴル高専であります。現在、学生数464名、教職員数53名、卒業生数が90名に達しており、卒業生のうち、約45%が日本の大学へ編入、あるいは企業へ就職もしています。残りの55%がモンゴル国内で編入、または就職を果たしています。

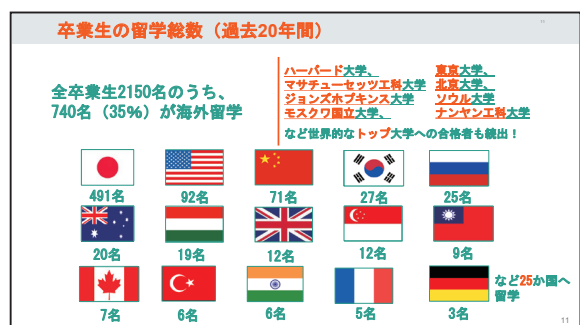
高専の特徴は中学校卒業後に15歳で入学し、5年間学ぶという早期で、エンジニアになることにあります。学科・専攻は、日本の高専と全く同じで、機械工学、土木建築工学、物質工学、電子電気工学という四つの基本的な学科があります。

2019年9月に国際ロボコン大会がモンゴル現地で開催され、我が高専チームがベスト8に入ったことがある。さらに、日本で開催される日本全国高等専門学校デザインコンペティションにも出場し、実績を残しております。

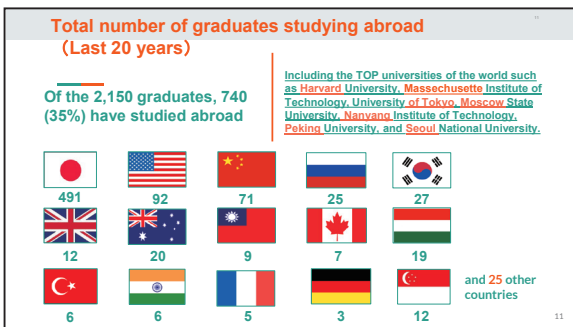
次に紹介する工科大学には、学士の六つの専攻と修士の2つの専攻あります。英語で New Mongol Institute of Technology といいますが、New MIT ともいえます。

ここで本学修士課程の第1期卒業生のガンバートル氏を紹介します。彼は本大学を卒業後に九州大学に進学して博士号を獲得しています。おそらく、私の発表を御覧になっているかと思っています。在学中に一生懸命に頑張った様々な賞ももらっております。

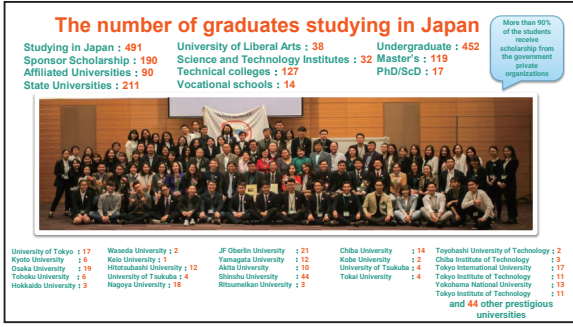
II. 留学実績



III. Our graduates studying abroad



次に、本高校の留学実績を申し上げます。新モンゴル高校は今まで、2,150名の卒業生を輩出しており、そのうち740名、約35%が海外留学をしています。ここに書いてあるとおり、多数の卒業生は世界のトップ大学にも合格しています。PPTに国別に示しておりますが、25か国へ留学を果たしております。御覧のとおり、日本が一番多く、495名が留学をはたしています。



留学果たした方法を区別してみると、我が高校を支援しているスポンサー団体の奨学金で190

名、提携している大学に90名、日本政府の国費奨学生は211名に達しています。その他に学士号、修士号、博士号を取った学生はご覧の通りであるが、博士課程までに17名が進学したが、そのうち約10名がすでに博士号を獲得しております。

大学別でみると日本の44の大学に所属しています。東大をはじめ、京大、阪大、東北大等の有名な大学があれば、本校と長期間に渡り提携を結んでいる桜美林大、東京国際大などもあります。

日本のスポンサー・奨学金財団・提携大学

スポンサー財団	開始	人数	提携大学	開始	人数
1 ACA-AQUA(ア Qua)	2004~2012	29	1 東北福祉大学	2005	1
2 東日本ハウス	2004~2006	10	2 東京国際大学	2005~2016	17
3 マブチ国際育英奨学財団	2006~	102	3 桜美林大学	2008~	21
4 安田奨学財団	2006~	24	4 東海大学	2013~2015	4
5 大学新聞社	2011~	10	5 立命館大学・京都	2013~	3
6 ガラ・フェロシップ会	2015~	5	6 久留米工業大学	2016~	5
7 米山ロータリー奨学会	2014~	5	7 千葉工業大学	2018~	3
8 新モンゴルフューチャード	2014~	7	8 名古屋大学 (G30)	2013~	18
9 Oyun G.	2013	1	9 秋田大学	2014~	10
			10 信州大学	2016~	12
			11 横浜国立大学	2016~	8
			12 豊橋技術科学大学	2017~	2

Japanese Sponsors・Scholarship foundations・Affiliated Universities

Sponsor Foundations	Start	Affiliated Universities	Start
1 ACA-AQUA(ア Qua)	2004~2012	1 Tohoku Fukushi University	2005
2 East Japan House	2004~2006	2 Tokyo International University	2005~2016
3 Mabuchi International Kueti Foundation	2006~	3 JF Oberlin University	2008~
4 Yasuda Scholarship Foundation	2006~	4 Tokai University	2013~2015
5 University Newspaper	2011~	5 Ritsumeikan University/Kyoto	2013~
6 Galia Fellowship Association	2015~	6 Kurume Institute of Technology	2016~
7 Yoneyama Rotary Scholarship Society	2014~	7 Chiba Institute of Technology	2018~
8 New Mongolian Future Fund	2014~	8 Nagoya University (G30)	2013~
9 Oyun G.	2013	9 Akita University	2014~
		10 Shinshu University	2016~
		11 Yokohama National University	2016~
		12 Toyohashi University of Technology	2017~

このように数多くの留学実績を残したのが本校に対するスポンサーがいるからです。ここにも示しているように、ACA-AQUA (NGO)、東日本ハウス (株)、マブチ国際育英奨学財団、安田奨学金財団、ロータリー米山記念奨学会、大学新聞などがありますが、この中でマブチ国際育英財団だけで105名の卒業生に奨学金を支給しております。

提携大学の中で東京国際大学、桜美林大学へ進学した学生が一番多いです。私立のほか、名古屋大学、秋田大学、信州大学、横浜国立大学、豊橋技術科学大学などの国立大学もありますが、G30という英語のプログラムの外国人留学生募集制度があります。この制度では、授業料免除だけではなく、奨学金、生活費も支給してお

ります。

世界に羽ばたいている卒業生達

<p>1期生 B.バトザヤ 2010年 千葉大学 (スポンサー奨学金) 学士・修士課程卒業 2013年 東京大学工学博士課程卒業 (IT/情報学の研究) 2016年ハーバード大学ポストドクを卒業、 現在、マサチューセッツ工科大学 健康科学・技術学部にて研究員 ノーベル賞を受賞する</p>	<p>5期生 B.ホスエルデネ 2014年 一橋大学 (国費奨学金) 学士・修士課程を5年間で卒業 2016年 東京のUBS銀行に就職 2018年、みずほ銀行企業経営部、課長 現在、モンゴルでAND GLOBAL LLC (フィンテック会社)のCEO 競争で勝てる モンゴルの会社を創る</p>
<p>6期生 P.ゾルジャラル 2019年 桜美林大学卒業 (国費奨学金) 2012-2017年 国営テレビ局に就職 現在、フリーランス映画監督 アカデミー賞 2017年 初の長編映画「冬眠できるという な」は、タレント東京において優秀賞を受賞 2018年、同映画は第4回モンゴルピッチングコン テストとマメディアピッチャーズ映画ピッチング コンゴリアンコンテストの優秀作品 映画監督・アカデミー賞を受賞する</p>	<p>10期生 Z.ノルジン 2017年 名古屋大学(G30プログラム) バイオテクノロジー専攻を専攻 2017年アメリカのオハイオ州生物医 薬科学研究所で博士課程在学中 研究テーマ「人間の視覚リズムを分子レベル で調べる」 ノーベル賞を受賞する</p>

Alumni Across the World

<p>1st Generation Batzaya, B 2010 Chiba University(Sponsor scholarship) Earned Bachelor's and Master's degree Completed doctor of engineering (IPS cell research) at the University of Tokyo Graduated from Harvard Postdoc in 2016 Currently, working as a researcher at MIT, Faculty of Health Science Winning the Nobel Prize</p>	<p>5th Generation Khos-Erdene, B 2014 Hitotsubashi University(National Scholarship) Earned Bachelor's and Master's degree in 5 years Employed at UBS Bank in Tokyo in 2016 Mizuho Bank Corporate Research Department Section Chief in 2018 Currently, CEO of AND Global LLC, Mongolia Creating a competent Mongolian company on the world stage</p>
<p>6th Generation Zoljargal, P 2012 JF Oberlin University (Partner University scholarship) Employed at Mongolian National Broadcasting System from 2012 to 2017 Currently a freelance film director Filmography 1 2017: First featured film "I wish I could hibernate" won the Science award at Talent Tokyo 2018: The above-mentioned movie was recognized as one of the best works at AFAMFA movie pitching contest and Nomada Pictures movie pitching Mongolia contest Becoming the Best Film Director, winning the Academy Award</p>	<p>10th Generation Norjin, Z 2017 Nagoya University (G30 program) Major in Biotechnology science Enrolled in doctoral course at the Institute of Medical Sciences, American Scripps Biomedicine Research theme: Investigating human circadian rhythms at the molecular level ノーベル賞を受賞する</p>

続きまして、優秀な卒業生の事例を申し上げたいと思います。一期生で私費留学を果たしたバトザヤ氏が千葉大学で学士号と修士号、東京大学で博士号を取り、ハーバード大学でポストドクターを終了したのであります。その後アメリカで研究活動を続けており、現在、マサチューセッツ工科大学環境科学技術分野で研究員をしています。彼女は将来、ノーベル賞の受賞を目指しています。5期生のホスエルデネ氏は、国費留学で一橋大学の学士・修士課程の独特の5年間のプログラムを修了し、東京にあるスイスのUBS銀行、その後みずほ銀行に勤めてから帰国し、世界で競争できる会社を起業しています。また、桜美林大学の卒業生である本校の6期生のゾルジャラル氏は今、フリーランス監督として活躍しておりますが、将来、オスカー賞の受賞を目指しています。10期生のノルジン氏も、名古屋大学のG30プログラムを終了して、現在アメリカに留学中です。このように、将来、国を背負っていける、夢と目標を持っている卒業生が数多く出校されていることを大変光栄に思っています。

Ⅲ. 日本への高大接続における課題、新モンゴルからの提言

新モンゴル高校から日本への留学の主なパターン

- ① 「私費留学」パターン (年間約10-15名) :
まず日本留学試験 (EJU) を受験し、短期滞在ビザを取得して直接受験大学に受験する。合格が決定すれば、4月から留学ビザに切り替え申請し、本校スポンサー財団の奨学金を経て留学する。
→ 受験費用、日本滞在費用は個人負担であるが、合格できれば日本語学校を介さず、4月から入学でき、奨学金も受けられるなどメリットも大きい。上記の他、日本語学校など通って、個人の負担で留学する卒業生も若干名いる。
- ② 「国費留学」パターン (年間約15-20名) :
駐モンゴル日本大使館で6月に受験し、合格できれば、翌年4月に渡日。1年間の日本語教育学校を経て、大学/英専/専門学校へ入学。
国費であるため、奨学金の拠出額、待遇が優れている上、旧帝国大学をはじめとした有名大学へ入学できる。また、大学院でも欧米のトップ大学などの進学、就職にも有利である。
- ③ 「推薦留学」パターン (年間約5-10名) :
日本留学試験 (EJU) の受験点数をもとに校内選抜が行われる。
一橋大学がオンライン面接し、合格が決定すれば、提携大学の奨学金を経て留学する。

Ⅳ. Challenges in high school with connection to Japan, proposals from Shine Mongol school

General pattern of studying abroad from Shine Mongol

- ① 「Studying abroad privately funded」 pattern (10-15 students a year) :
First of all, students take the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU), obtain a short-term stay visa, and go directly to the university to take the exam (as a privately funded international student). If they pass the exam, they can apply for a student visa from April and study abroad through the above-mentioned scholarships from our sponsor foundation and affiliated universities.
→ The cost of taking the examination and the cost of staying in Japan are borne by the individual, but if they pass the exam, they will be able to enroll from April without going through a Japanese language school, and will receive a scholarship. (280 people in total)
- ② " Studying abroad sponsored by the government" pattern (about 15 to 20 students a year):
Upon taking exam at the Japanese Embassy in Mongolia in June, if students pass the exam, they go to Japan in April of the following year. After a year of Japanese language education school, they matriculate at a university / vocational school / technical college. Since it is a national expense, the amount of scholarship contributions and treatment are excellent, and they are able to enroll in prestigious universities such as the former Imperial University. It is also advantageous for the graduates to go on to higher education and find employment at top universities in Europe and the United States. (211 people in total)
- ③ "Studying abroad through recommendation" pattern (about 5-10 people a year):
The school will be selected based on the score of the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU).
→ If the partner university interviews online and decides to pass, they will study abroad through a scholarship from the partner university.

日本の高大接続における課題と新モンゴルからの提言を申し上げる前に本校の卒業生たちの留学パターンについて簡単に紹介します。ご覧の通り、私費留学パターン、国費留学パターンと推薦留学パターンが多いです。

パターン①の場合 (6月卒)

高校3年次:

- 受験勉強
- 進路の最終決定
- 留学までの計画を立てる

6月~9月:

- 国内の大学の受験
- EJU、TOEFLなどの受験
- サマースクール参加

9月~11月:

- 国内大学での勉強開始
- 秋スクールに参加
- EJU2回目の受験

11月~12月:

- 出願書類の準備
- EJUの結果発表
- 英学会財団、提携大学の校内選抜

1月~2月:

- 出願書類の提出
- 短期滞在ビザを取得し、受験のために渡日

3月~4月:

- 合格発表
- 入学手続き
- ビザ資格変更申請
- 若倉市・千葉県にて寄宿
- 卒業生の助成金、勉強会
- それぞれの大学に入学

2月~3月:

- 日本の大学の受験
- 合格発表

日本留学の流れ

パターン①の場合 (6月卒)

High School 3rd year:

- Studying for standardized tests
- Final decision on course
- Make a plan to study abroad

June-September:

- Taking domestic university entrance exams
- Examinations such as EJU and TOEFL
- Summer school participation

September-November:

- Start studying at a domestic university
- Participate in autumn school
- Second EJU exam

November-December:

- Preparation of application documents
- Announcement of EJU results
- Scholarship foundation, selection of affiliated universities

January-February:

- Submission of application documents
- Obtain a short-term stay visa and go to Japan to take the examination

February-March:

- Taking an examination at a Japanese university
- Result publication

March-April:

- Result publication
- Admission procedure
- Visa qualification change application
- Training camp in Iwakura City and Chiba Prefecture
- Study abroad students session
- Enroll in each university

Steps of studying in Japan

私費留学の場合は、高校入学から毎年の夏休みに開催される日本語夏期講習「サマースクール」に3回参加するほか、3年生では、日本留学試験、国費留学試験対策の春スクールと秋スクールを開講しています。さらに、高校を卒業した後に、彼らを本格的に受験勉強させています。

Challenges that can be seen from the results of the Examination for Japanese University Admission for International Students:

As you can see, every year, there is constant increase in grades from June to the time of graduation in November, which proves the effect of the summer school in July-August in grade.

The score of "Japanese" is lower than the world average, being a country.

In some years, the scores for Mathematics Courses I and II are relatively higher than the world average.

Characteristics and issues of our school as seen from the results of the Examination for Japanese University Admission for International Students (New Mongolia and the World)

こちらは各科目ごとに日本留学試験の点数を比較したものであります。本校は日本語学校ではないため日本語の点数が世界平均より少々低いです。理数系は、世界平均を上回っております。

日本留学試験の成績から見える課題:

毎年、6月(卒業)から11月の成績の伸びがみられる。7月のサマースクールの効果が大きい。

「日本語」の点数は世界平均より低い。非漢字圏であることも大きい。

「数学コース1」の点数は世界平均より比較的高い年もある。

「数学コース2」の点数は世界平均より比較的高い年もある。

「数学コース1、2」の点数は世界平均より比較的高い年もある。

これまでに直面した諸課題 (キャリア開発センターの経験に基づいて)

- 日本の大学へ留学する際の直面する壁
 - 求めている学生像の曖昧さ
 - 日本語能力を過剰に高く求める大学が多い。(非漢字圏諸国の留学生への配慮が不足) → 優秀な学生は出願時に日本語能力が高い場合が多い。彼らは出願資格すら得られない
 - 国立大学の場合、制度上の柔軟性に欠けるケースが多い。(出願資格などについて検討してもらい、認められる場合は「翌年以降」になる。(時間がかかる))
 - 特に国立大学は、大学間や学部間の連携が弱い。(S大学の例、同じ経歴の学生であるにもかかわらず、同じ大学の異なる学部には出願できない。| 留学前の受検日が全て同日である等)
 - 渡日受験後、在留資格変更に伴う諸問題 (近年、観光ビザ→留学ビザへの切り替えが難しくなったため、学生は一旦帰国せざるを得なくなり、家庭の経済的負担がますます大きくなっている) 等
- その他の事務的な手続き上の課題
 - 事前出願資格審査など、多くの重要な手続きを要する (大学によって異なる場合があり、体制がバラバラである)
 - 11月の日本留学試験の結果が出る前に出願期間が終了する大学がある
 - キャンパスにて対面試験を行う大学 (面接のみの場合、オンラインでも可能にしてほしい)
 - TOEFLなど英語点数の原本証明書をEIS経由で提出を求められることが増えている。
 - 定期座がない状況下、郵送・持参での書類提出を求める場合がある (間に合わない場合もある)
 - 検定料の支払い方法が日本国内でしか対応できないようになっている。等。

このような大学の保守的な姿勢が国際学生に有利な環境を構築しにくい。可能な限り、日本以外の海外へ留学して欲しい。

日本留学試験の成績から見る本校の特徴と課題 (新モンゴルと世界)

Challenges faced so far (based on the experience of the Center for Career Development)


- The challenges you face when studying abroad at a Japanese university
 - Ambiguity of the student image you are looking for
 - Many universities demand excessively high Japanese proficiency. (Insufficient consideration for international students in non-Kanji-speaking countries) → Excellent students in science often do not have high Japanese proficiency at the time of application, so they cannot even qualify for application.
 - In the case of national universities, there are many cases where institutional flexibility is lacking. (If the application qualifications are examined and approved, it will be "next year or later" (it will take time))
 - Especially in national universities, the cooperation between universities and faculties is weak. (Example of university: Students with the same background cannot apply to different faculties of the same university / The examination dates of the medical school are all the same day etc)
 - After taking the entrance examination to Japan, various problems associated with the change of status of residence (in recent years, it has become difficult to switch from a tourist visa to a student visa, so students have to return to Japan once, and the burden of family expenses is increasing, etc)
- Other administrative problems
 - Many written procedures such as pre-application qualification examination are (It may not be available depending on the university, and the system is different)
 - Some universities have their application period expired before the results of the Examination for International Students in November are available.
 - Universities that conduct face-to-face examinations on campus (if you only have a conduct online)
 - Students are required to submit the original certificate of English scores such as TOEFL
 - In the absence of regular flights, students may be required to submit documents (time)
 - The payment method of the examination fee can only be handled in Japan, etc.

Such a conservative attitude on the part of the university makes it difficult for many excellent students who have high basic academic ability and high potential for growth to apply, and limits the possibility. As a result, they will study abroad in foreign countries other than Japan.

次に、高大接続に直面している課題ですが、まず、大学側の保守的な姿勢により理数系の優秀な学生が日本の大学に入学できなくなるケースがあげられます。御覧のとおり、こちらにて具体的な内容ををまとめましたので皆さん、ご

ゆっくり御覧ください。

先進的な高大接続に関連した入試システム例としての、アメリカの「Common Application (コモンアプリケーション)」（共通出願システム）のメリットと特徴




- ◆ 英語圏の諸国を中心とした15地域の916の大学へ出願できる
- ◆ 多くの大学が共通に使える**オンライン出願システム**（出願書類の提出が一回で済む）
- ◆ 受験生は、自分の出願した**全ての大学の書類準備過程をシステムで確認できる**
- ◆ 高校の担任・進路指導スタッフも受験生の**出願過程を一覧で管理できる**
- ◆ 入試に関する一歩のプロセスがCommon App上でできる（大学調べ、募集要項の確認、出願書類の準備・提出など）。
- ◆ **一切、紙の書類不要なし**
- ◆ 私費外国人留学生の場合、高校の先生による**抽選制の免除制度**など

しかし、日本でもオンライン入試への対応を始めている大学が増えてきている！

- ◆ 大学ごとのシステムになっている → **共通オンライン出願プラットフォームの必要性**
- ◆ オンライン出願とはいえ、郵送する必要性 → **完全な「オンライン出願」へ**
- ◆ 出願書類での直筆の必要性による手間 → **ペーパーレス化の推進**

21

Advantages and features of the American "Common Application" as an example of an entrance examination system related to advanced high-level connections.



- ◆ Students can apply to 916 universities in 15 regions, mainly in English-speaking countries.
- ◆ **Online application system** that can be used in common by many universities (application documents only need to be submitted once).
- ◆ Candidates can check the document preparation process of all the universities they applied for with the system.
- ◆ High school homeroom teachers and career guidance staff can also manage the application process of examinees in a list.
- ◆ The process of admission can be done on the Common App (university research, confirmation of application requirements, preparation and submission of application documents, etc.).
- ◆ **No paper documents required**
- ◆ For privately funded international students, a system of exemption from examination fees at the discretion of high school teachers, etc.

However, an increasing number of universities in Japan are beginning to support online entrance exams!

- ◆ A custom made system for each university → **Necessity of a common online application platform.**
- ◆ Although it is an online application, it is necessary to mail it. → **Go to the complete "online application".**
- ◆ Efforts due to the need for handwriting in application documents. → **Promotion of paperless office.**

21

日本が参考にしていただきたいのは米国のCommon Application (コモンアプリケーション) という共通出願システムであります。これは、全ての大学の情報や書類準備過程を確認、さらに出願までできるオンライン出願システムであり、紙の書類が一切必要なく、学生が各々の望む大学に受験できるので、日本の大学に是非ご検討していただきたく思います。

新モンゴル学園から日本の大学入試、高大接続に対する提言

- 1. アジアの（日本式学校の）高大接続でいかなる能力を求めるべきか、再検討を。**
 本学は日本式学校とはいえず、日本語学校ではないため、日本語教育は3年間で週4時間に限定される。サマースクールを加えても、日本語能力はまだまだ漢字圏諸国（中国、韓国）には劣る。また、教育理念は基礎学力のある知・徳・体のバランスの取れた人間を育てることであり、理数系をはじめとした学問体系的な習得を重視している。教育目的は受験ではない。従って、日本語能力を重視した大学への出願資格は、最初から規制されてしまう現状がある。入学後に伸びる生徒は、必ずしも日本語能力が高くない
 →日本語能力に偏重せず、その他の基礎学力、コミュニケーション能力なども重視した入試制度へ
- 2. 直接の高大接続であることに配慮した入試制度へ**
 新モンゴル高校からの日本留学は、その大部分が日本語学校を通じた留学ではない。こうした、アジアの日本式学校に対して、日本語学校を介さない「直接留学」のパターンを今後さらに模索していくことが、新たな高大接続のあり方の可能性を提供するかもしれない
- 3. オンライン入試/出願の積極的な導入**
 オンライン入試、出願によって、モンゴルの多くの優秀な卒業生が日本の大学に留学できる道がますます開ける。また、これまで大学によっては、モンゴルに入試関係者が出向いて、出張入試を行っていた。

22

Recommendations for Japanese university entrance exams and high school connections from the Shine Mongol Academy

- 1. Reexamine what abilities should be sought in Asian (Japanese school) high school connections.**
 Although our school is Japanese style school, it is not a Japanese language school, so Japanese language education is limited to 4 hours a week for 3 years. Even with the addition of summer schools, Japanese proficiency is still inferior to that of Chinese-speaking countries (China, South Korea). In addition, the educational philosophy is to nurture human beings with a good balance of knowledge, virtue, and body with basic academic ability, and emphasizes the acquisition of academic body types such as science and mathematics. The purpose of education is not to take an examination. Therefore, the qualifications for applying to universities that emphasize Japanese proficiency are currently restricted from the beginning. Students who grow up after enrollment do not necessarily have high Japanese proficiency.
 → To an entrance examination system that emphasizes other basic academic ability, communication ability, etc. without focusing on Japanese language ability
- 2. To the entrance examination system considering that it is a direct high school connection**
 Most of the study abroad programs in Japan from Shine Mongol High School are not through Japanese language schools. Further exploring the pattern of "direct study abroad" without going through a Japanese language school for Japanese-style schools in Asia may provide the possibility of a new way of connecting high schools and universities.
- 3. Active introduction of "online entrance examination / application"**
 Online entrance exams and applications will open up more and more ways for many talented Mongolian graduates to study abroad at Japanese universities. In addition, depending on the university, people involved in entrance examinations have been sent to Mongolia to conduct on-site entrance examinations.

22

最後に、本校から日本の大学への提言があります。上述したように、本校は日本語学校ではないため、基礎力とコミュニケーション能力を重視した入試制度の他、オンライン入試制度の積極的な受け入れ、さらにその拡大が実現できれば、数多くの優秀な学生が日本に留学できると考えております。

御清聴ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

連絡先

Email: galbadrakh@shinemongol.edu.mn

Tel: +976-11-461122

23

Thank you for your attention

Contact Information

Email: galbadrakh@shinemongol.edu.mn

Tel: +976-11-461122

23

(江口) ガルバドラッハ先生、ありがとうございました。

(ガルバドラッハ) すみません。

(江口) いいえ、ありがとうございます。

信男教育学園（上海文来高級中学校中日班， 深圳第三高級中学校日本名校留学班）[中国]

信男教育学園理事長 魯 林



信男教育学園理事長 魯 林

(江口) 次は、信男教育学園の御発表になります。御発表いただきますのは、理事長をつとめておられます魯林先生になります。

簡単にではございますが、魯林先生の方をご紹介します。

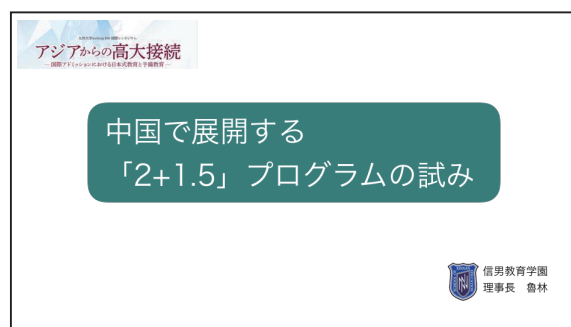
魯林理事長は1988年に日本に自費留学した際に、多様な学習と体験を通して、中国での人間教育の重要性と必要性に気づき、1995年中国の安徽省で信男教育学園を立ち上げました。

さまざまな試行錯誤もありましたが、九州大学大学院人間環境学府の竹熊先生の研究室で、国際教育について研究を重ね、日本式学校教育をより深みを持って、中国に導入することに専念しています。

現在、創設していた高校の「2 + 1.5」方式のこの留学コースは日本の私立高校24校と姉妹校として提携しています。上海校、深圳校では、日本の教材や、カリキュラム、並びに日本人教師による教育を導入しています。

さらに、今年9月に成都、長沙にも開校する予定です。十年以来、約400名の卒業生が日本の上位大学へ進学しています。信男教育学園は九州大学教育学部海外高大接続教育研究拠点であり、中国の高校の第一目目の存在として注目されています。それでは、魯林先生御発表の方を

お願い致します。



(魯) 今、紹介された信男教育学園の魯林と申します。どうも皆さんこんにちは。今日は、九州大学から、このような発表の機会をいただいて、非常に感謝しております。時間の関係で、すぐに主題に入ります。

信男教育学園は2010年に中国の上海に設立して、ちょうど今年が10年目です。「国際的視野に立つ新時代のエリートの育成」を教育理念として、生徒一人一人の個性と能力を重視する教育方針に基づき、生徒たちが自らの力で夢を実現し、世界で活躍するために、いち早く日本式教育を中国に導入して、実践してまいりました。



設立当初は17名しか入学生がおらず、また2年目は東日本大震災などの影響で一時的に生徒募集が非常に困難な状況だったんですが、上海教育委員会の協力や教職員一同に「人間教育」の実施を徹底させることで、年々生徒数が増加していった、2019年9月には上海校のほか、深

圳校を展開することとなりました。

今は、上海だけでも大体年間1学年150名の枠で入学させますが、応募者はその3倍から4倍ぐらいの生徒がいます。今年は、中国の四川省の成都、湖南省の長沙に学校を9月にオープンする予定です。

今まで信男教育学園からは、1,000名以上の学生を日本に留学させた実績がありまして、生徒達はそれぞれ自分の理想に合った大学に進学及び留学し、社会人として活躍しております。その中では、日本の大学院、または博士号を卒業された学生も多くいます。

近年、信男教育学園が積み上げた実績を各界から認めていただき、九州大学、その他国立有名大学と連携することもできました。

「2+1.5」コースを作った理由
The reason this school created the "2+1.5" course
(2 years China+1.5 years in Japan)



設立当初は17名の入学生でスタートし、2年目は東日本大震災などの影響で一時的に生徒募集が困難となったものの、上海教育委員会の協力や教職員一同に「人間教育」の実施を徹底させることで、年々生徒数が増加し、2018年9月には上海校の他、深圳校を展開することとなりました。本年度は四川省、湖南省において学校設立を予定しております。今まで信男教育学園からは1000名以上の学生を日本に留学させました。生徒達はそれぞれ自分の理想に合った大学に進学及び留学し、社会人として活躍しております。近年、信男教育学園が積み上げた実績を各界から認めていただき、中国国立同濟大学や日本国立九州大学など国立有名大学と連携することができました。

私たちがやっている2プラス1.5コースというのは、中国の高校で2年間勉強した後、日本の私立高校に編入することです。中国は9月から入学、日本は4月からスタートということで、半年の期間多くなって、日本の高校2年後半に編入して日本の大学を目指していきます。

本校の生徒は、日本語の習得以外、日本の有名大学に進学するという目標を持っているため、中国教育部門で規定された課程と同時に日本の高校で規定された課程も履修します。日本語科のカリキュラムに沿って「あいうえお」から日本語の学習を進め、1年修了時点では、多くの生徒が日本の教育内容を日本語で理解できる学力を身につけます。日本の理数のカリキュラムは日本の教科書を用いて日本の高校と同じ教育内容で勉強します。以前、大阪大学などの先生が視察に来られた際も、その学生たちの日本語のレベルの高さに驚いておりました。

さらに、中国の「高校卒業認定試験」に合格

すれば、中国の高校卒業資格と同時に、日本の姉妹校卒業資格を取得することもできます。日本の高校に1.5年間編入して勉強し、日本の高校も卒業してから大学へ進学すること自体、とても大きな意味があると認識しています。

こういうプログラムは、以下の大きなポイントがあると私は認識しています。日本語学校や大学では体験のできない学校教育を受けることができます。また、日本文化をより身近に受けることができ、より深く日本語を理解することができます。また、時間と経済の面では、両方節約できて、日本留学の負担を軽くすることができます。その他にもいろいろとメリットがあると私は認識しています。

「2+1.5」コースでは、中国国内で2年間学習した後、日本の姉妹校（提携校）に編入し、日本の大学を目指します。本校の生徒は、日本語の修得以外、日本の有名大学に進学するという目標を持っているため、中国教育部門で規定された課程と同時に、日本の高校で規定された課程も履修します。日本語科のカリキュラムに沿って「あいうえお」から日本語の学習を進め、1年修了時には、多くの生徒が日本の教育内容を日本語で理解する語学力を身につけます。日本の理数のカリキュラムは日本の教科書を用いて日本の高校と同じ教育内容を学習します。以前、大阪大学の先生が視察に来られた際もそのレベルの高さに驚いておりました。さらに、中国の「高校卒業認定試験」に合格すれば、中国の高校卒業資格と同時に、日本の姉妹校卒業資格を取得することができます。

日本の高校に1.5年間編入して勉強し、日本の高校にも卒業してから大学へ進学すること自体はとても大きな意味があると認識しています。

- 日本語学校や大学では体験できない学校教育を受けることができる。
- 日本文化をより身近に受けることができ、より深く日本を理解できること。
- 時間と経済の面、両方節約できて、日本留学の負担は軽くすることができる。
- その他

今まで、指定校推薦、EJU その他の方法で日本の上位大学に多く合格しています。10年来、1,000名以上の学生を日本の高校へ編入させ、30%以上の卒業生が日本のMARCH以上の大学へ進学してきました。また、99%の卒業生が日本の大学へ進学という実績を確保しています。




今まで指定校推薦やEJU、その他の方法で京都大学、九州大学、筑波大学はじめ国立私立の上位大学へ進学しています。

10年以來、約1000名の生徒を日本の高校へ編入させ、約30%の卒業生がマーチ以上の大学へ進学しています。99%の卒業生が大学へ進学しています。

これは、日本式のいろいろな学校の写真ですね。日本式と言えば、我々日本人の先生をたくさん採用していますし、日本のカリキュラムも導入しています。また、日本の学校と同じカリキュラムであると同時に、部活など日本の私立

学校とほぼ同じ教育システムで運営している学校なので、いわゆる日本式教育を用いた中国ローカルの学校をうちが初めてやっています。日本の高校に進学させることも含めて、「人間教育」の一環として力を入れ、国際的な舞台で活躍できる人材の育成を目指しています。



- 本校の大きな特徴は、日本の高校に進学させることを最終目標としていないことです。「人間教育」に力を入れ、国際的な舞台で活躍できる人材の育成を目指しています。1年次から日本語教育のみならず、日本の文化・習慣・礼儀作法に至るまで、「日本」を理解するために中日の教員が協力して教育活動を推進しています。日本の生活に適応するために、日々の授業・委員会活動・清掃活動・行事やHR運営などさまざまな場面を通して、日本独特の生活習慣を定着させるとともに、主体性・協調性・他を思いやる心・リーダーシップを養っていきます。2年次には修学旅行で日本の姉妹校を訪問します。修学旅行は本校の必修科目であり、毎年北海道から九州まで各地の姉妹校を訪問し、姉妹校の皆さんとの心温まる交流を通じて「日本」との絆を深めています。見聞を広めるだけでなく、多くの出会いと感動が生徒たちの人生の糧となっていくと確信しております。
- 日本では多様性の受容が大きな課題となっており、人口減少の影響からも、今後留学生の受け入れ人数は益々増加することが予想されます。しかしながら、日本の文化・習慣は独特で、大学入試システムも複雑です。1人1人の生徒に適した大学入試方式を選択するためには多くの問題を解決する必要があります。

1年次から、日本語教育のみならず、日本の文化・習慣・礼儀作法に至るまで、「日本」を理解するために中日の教員が協力して教育活動を推進してまいります。日本の生活に適応するために、日々の授業・委員会活動・掃除活動・行事、またHR運営など様々な場面を通して日本独特の生活習慣を定着させるとともに、主体性・協調性・その他思いやる心、リーダーシップを培っていきます。

2年次には、修学旅行で日本の姉妹校を訪問しています。修学旅行は本校の必修科目であり、毎年北海道から九州まで各地の姉妹校を訪問し、姉妹校の皆さんとの心温まる交流を通じて、日本という絆を深めていきます。見聞を広めるだけでなく、多くの出会いと感動が生徒たちの人生の糧となっていくと確信しています。

日本では多様性の受容が大きな課題となっており、人口減少の影響からも、今後留学生の受け入れ人数はますます増加することが予想されます。しかしながら、日本の文化・習慣は独特で、

大学入試システムも複雑です。一人一人の生徒に適した大学入試方式を選択するためには、多くの問題を解決する必要があると認識しています。



信男教育学園では、リサーチをやっておられる九大の先生方に講義を行っていただく取組を進めてまいりました。残念ながら、去年はコロナ感染拡大の影響で実施できませんでしたが、大学の講義に触れることは、大学の学問に興味を持ち、進学意欲を向上させることにもつながっています。医学の授業で実際に聴診器に触れ、血圧測定の実習を行っていただきましたが、生徒たちは、初めての体験に緊張しながらも真剣に実習に取り組んでいました。

教科書でどれだけ多くの知識を得るよりも、大学の先生方の講義や実習を受講するほうが何倍も教育効果があると感じます。大学や産業界など、高校の先にある世界に触れることは、視野を広げ、自分の将来を見つけるための貴重な経験になると思います。自分自身で自分の進路を選択し、国際社会に貢献できる人材を育成することは本学の教育理念の一つです。このおかげで高校卒業後に九大に進学した生徒も何人かいましたし、希望する生徒も増えてきています。



私がつくった、この2プラス1.5方式は、上海

の高校で2年間学習し、卒業認定に必要な単位を取得した後、日本の高校に留学させるということをお先ほども申し上げましたが、卒業認定試験に合格すれば、中国の高校の卒業資格も得られます。さらに、本校は日本のカリキュラムに沿った内容で学習を進めておりますので、単位交換も容易で、日本の高校の必修科目要件を満たすため、日本の高校に2年生後期から編入しても、日本の高校の卒業資格を得ることができます。

日本語もN2からN1レベルで、英語も日本の英語検定準1級以上のレベルがあります。学生たちが高校1年生のときから日本の文化を学び、高い志を持って留学しておりますので、指定校の校内選抜で日本の生徒に負けないぐらいの評価を得ているそうです。指定校推薦の校内選抜において、日本の生徒と推薦枠を競って、多くの優秀な大学の指定校に合格しています。その中で、慶応、早稲田、同志社、ICU、東京理科大など、大体日本の上位大学に全て生徒が入っています。

●EJUの利用との矛盾

しかしながら、中国と日本の2つの高校の卒業資格を持っていることが日本の大学入試には不利になる場合があります。指定校推薦で大学に進学する場合、大学によっては中国の高校の卒業資格を放棄する必要がある大学もあります。また、大学によっては日本の高校に3年間在籍している事を出願の条件にしている場合もあり、校内選考で選抜されても指定校推薦を利用して大学に出願できないケースもありました。EJU試験を利用して外国人留学生として入試に参加する場合は、日本高校卒業資格があると出願資格がない大学も多く、その際は、日本の高校の卒業資格を放棄して中国の卒業資格を受験せざるを得ません。日本の高校での努力は単に短期留学の参考単位にしかならないのです。優秀な生徒達はEJU試験を利用して早稲田、慶応、九大、北大医学部等優秀な大学に合格しております。2つの高校の卒業資格を持つ優秀な生徒が、日本の大学の入試制度により一方の卒業資格を放棄するという現状は、今後の留学生の受け入れの大きなブレーキになると懸念されます。



しかしながら、中国と日本の二つの高校の卒業資格を持っていても、日本の大学入試には不利になる場合もあります。指定校推薦で大学に進学する場合、大学によっては、中国の高校の卒業資格を放棄する必要がある大学もあります。また、大学によって日本の高校に3年間在籍していることを出願の条件にしている場合もあります。校内選考で選考されても、指定校推薦を利用して大学に出願できないケースもありました。

EJU試験を利用している外国人留学生として入試に参加する場合は、日本高校卒業資格があると出願資格がない大学も多く、その際は、日

本の高校の卒業資格を放棄して中国の卒業資格で受験せざるを得ません。

日本の高校での努力は、単に短期留学の参考単位にしかならない、その事実、非常に優秀な生徒たちはEJU試験を利用して京都大学などの大学に合格していますけれども、二つの高校の卒業資格を持つ優秀な生徒が、日本の大学の入試制度により、一方の卒業資格を放棄するという現状は、今後の留学生の受け入れの大きなブレーキになるのではないかと心配しています。私はそう思っています。

●「2+1.5」コースは真の日本留学を推進できる方式です

現在、日本では学力のみでなく、総合的な人間力を評価する入試改革・教育改革が進められています。単に高点数を取るだけでなく、生徒の多面的な総合力を重視し評価に繋げるためには、本校の生徒のように日本の文化や習慣への関心が高く、日本人が苦手とするグローバル思考や自己表現力の高い留学生を受け入れることは大変重要になると感じます。



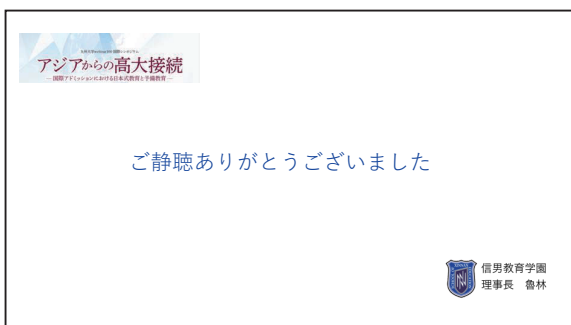
現在、日本では、学力のみでなく、総合的な人間力を評価する入試改革・教育改革が進められています。単に高点数を取るだけでなく、生徒の多面的な総合力を重視し、評価につなげるためには、本校の教育のように、日本の文化や習慣への関心が高く、日本人が苦手とするグローバル思考や自己表現力の高い留学生を受け入れることは大変重要になると感じます。

生徒たちの日本の高校での1.5年間の留学生活はかなり重要な意味があります。成人という日本文化の中の大きな区切りで単なる大学の留学だと、ある意味では日本文化の真髄は体験できない場合が多いと、私は自分の経験で分かります。よって、成人前の高校時代の日本留学、日本の高校教育を受けることにより、日本での人育てや先生による細かい生活指導などで日本の文化の中身がより理解できるのではないかと思います。日本がより身近な存在になると思うし、留学の本当の意味と効果が大きくなってくると信じています。



世界が大きく変わりつつある中で、人材に求める内容や資質も当然大きく変化しています。AI時代の到来を前に、グローバル化を理解し、国際的な視野、さらに革新的な創造力を持った人格者を育成することが学校教育に与えられた使命であると実感しています。

信男教育学園では、今後も初心を忘れず、日本式教育を基本に、国際人材育成のために誠心誠意努力してまいります。当学園の教育理念に賛同していただける日本の高校や大学と連携して、さらなる中日間の民間教育交流に貢献したいと考えています。



今日はありがとうございます。簡単ではございますが、以上、私の信男教育学園の紹介です。よろしく申し上げます。

(江口) 魯林先生、ありがとうございました。

(魯) どうもありがとうございました。

(発表資料)

●信男教育学園の紹介

信男教育学園は2010年に上海校を設立してから10年目を迎えることになりました。

「国際的視野に立つ新時代のエリートの育成」を教育理念として、生徒一人ひとりの個性と能力を重視する教育方針に基づき、生徒たちが自らの力で夢を実現し世界で活躍するために、一早く日本式教育を中国に導入し実践してまいりました。

設立当初は17名の入学生でスタートし、2年目は東日本大震災などの影響で一時生徒募集が困難となったものの、上海教育委員会の協力や教職員一同に「人間教育」の実施を徹底させることで、年々生徒数が増加し、2019年9月には上海校の他、深圳校を展開することとなりました。本年度は四川省、湖南省において学校設立を予定しております。今まで信男教育学園からは1000名以上の学生を日本に留学させました。生徒達はそれぞれ自分の理想に合った大学に進学及び留学し、社会人として活躍しております。近年、信男教育学園が積み上げた実績を各界から認めていただき、中国国立復旦大学や日本国立九州大学など国立有名大学とも連携することができました。

信男教育学園の高校は、中国国内で2年間学習した後、日本の姉妹校（提携校）に編入し、日本の大学を目指します。本校の生徒は、日本語の修得以外、日本の有名大学に進学するという目標を持っているため、中国教育部門で規定された課程と同時に、日本の高校で規定された課程も履修します。日本語科のカリキュラムに沿って「あいうえお」から日本語の学習を進め、1年修了時には、多くの生徒が日本の教育内容を日本語で理解する語学力を身に付けます。日本の理数のカリキュラムは日本の教科書を用いて日本の高校と同じ教育内容を学習します。以前、大阪大学の先生が視察に来られた際もそのレベルの高さに驚いておりました。さらに、中国の「高校卒業認定試験」に合格すれば、中国の高校卒業資格と同時に、日本の姉妹校卒業資格を取得することができます。

本校の大きな特徴は、日本の高校に進学させ

ることを最終目標としていないことです。「人間教育」に力を入れ、国際的な舞台で活躍できる人材の育成を目指しています。1年次から日本語教育のみならず、日本の文化・習慣・礼儀作法に至るまで、「日本」を理解するために中日の教員が協力して教育活動を推進しています。日本の生活に適應するために、日々の授業・委員会活動・清掃活動・行事やHR運営などさまざまな場面を通して、日本独特の生活習慣を定着させるとともに、主体性・協調性・他を思いやる心・リーダーシップを養っていきます。2年次には修学旅行で日本の姉妹校を訪問します。修学旅行は本校の必須科目であり、毎年北海道から九州まで各地の姉妹校を訪問し、姉妹校の皆さんとの心温まる交流を通じて「日本」との絆を深めていきます。見聞を広めるだけでなく、多くの出会いと感動が、生徒達の人生の糧となっていくと確信しております。

日本では多様性の受容が大きな課題となっており、人口減少の影響からも、今後留学生の受け入れ人数は益々増加することが予想されます。しかしながら、日本の文化・習慣は独特で、大学入試システムも複雑です。1人1人の生徒に適した大学入試方式を選択するためには多くの問題を解決する必要があります。

●大学の入試制度について

本校は上海教育局から認可された2+1.5方式を採用しております。この方式は上海の高校で2年間学習し、卒業認定に必要な単位を履修した後、日本の高校に留学させるというものです。卒業認定試験に合格すれば中国の高校の卒業資格が得られます。さらに本校は、日本のカリキュラムに沿った内容で学習を進めておりますので、単位互換も容易で日本の高校の必修要件を満たすため、日本の高校に2年生後期から編入しても日本の高校の卒業資格を得ることができます。日本語N2～N1レベル、英語も日本の英語検定準1級以上のレベルがあります。高校1年の時から日本の文化を学び高い志を持って留学しておりますので、指定校の校内選抜で日本の生徒に劣らない評価を得ているそうです。指定校推薦の校内選抜において日本の生徒と推薦枠

を競い、多くの優秀な大学の指定校（慶応、早稲田、同志社、ICU、東京理科大、立教等）を頂いております。

しかしながら、中国と日本の2つの高校の卒業資格を持っていることが日本の大学入試には不利になる場合があります。指定校推薦で大学に進学する場合、大学によっては中国の高校の卒業資格を放棄する必要がある大学もあります。また、大学によっては日本の高校に3年間在籍している事を出願の条件にしている場合もあり、校内選考で選抜されても指定校推薦を利用して大学に出願できないケースもありました。EJU試験を利用して外国人留学生として入試に参加する場合は、日本高校卒業資格があると出願資格がない大学も多く、その際は、日本の高校の卒業資格を放棄して中国の卒業資格で受験せざる負えません。日本の高校での努力は単に短期留学の参考単位にしかならないのです。優秀な生徒達はEJU試験を利用して早稲田、慶応、九大、北大医学部等優秀な大学に合格しております。2つの高校の卒業資格を持つ優秀な生徒が、日本の大学の入試制度により一方の卒業資格を放棄するという現状は、今後の留学生の受け入れの大きなブレーキになると懸念されます。

現在、日本では学力のみでなく、総合的な人間力を評価する入試改革・教育改革が進められています。単に高点数を取るだけでなく、生徒の多面的な総合力を重視し評価に繋げるためには、本校の生徒のように日本の文化や習慣への関心が高く、日本人が苦手とするグローバル思考や自己表現力の高い留学生を受け入れることは大変重要になると感じます。

●まとめ

世界が大きく変わりつつある中で、人材に求める内容や資質も当然大きく変化しています。AI時代の到来を前に、グローバル化を理解し、国際視野、更に革新的な創造力を持った人格者を育成することが学校教育に与えられた使命であると実感しています。信男教育学園では今後も初心を忘れず、日本式教育を基本に国際人材育成の為に誠心誠意努力してまいります。当学園の教育理念に賛同していただける日本の高校

や大学と連携してさらなる中日間の民間教育交流に貢献したいと考えています。

柳川高等学校附属タイ中学校，柳川高校国際科 [タイ]

柳商学園理事長 古賀 賢
柳川高等学校附属タイ中学校副理事長 テムラック・チャオ



柳商学園理事長 古賀 賢



柳川高等学校附属タイ中学校副理事長
テムラック・チャオ



柳川高等学校附属タイ中学校事務局長 天野 健太

(江口) 次は、柳川高等学校附属タイ中学校，柳川高校国際科の御発表になります。御発表いただきますのは、柳商学園理事長，古賀賢先生，柳川高等学校附属タイ中学校副理事長，テムラック・チャオ先生です。

まず古賀理事長について，御紹介させていただきます。

10年間のイギリス留学経験から，次世代を担う子供たちの心のグローバル化の必要性を強く感じ，古賀理事長自身が経営する柳川高等学校にグローバル学園構想を立ち上げました。その第1弾として，日本国内初の現地の学生を対象にした柳川高等学校附属タイ中学校を開校なさ

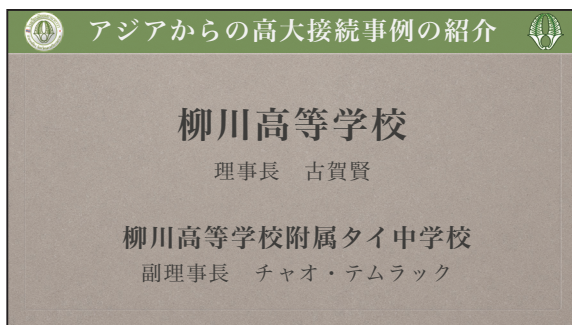
いました。その後，アジア7か国とオーストラリア，イギリスの合計9か所に事務所を設置しました。ICT技術導入により，教育環境を整え，世界各国から生徒が集まる学校へと現在も歩みを進めておられます。

次に，テムラック・チャオ副理事長について御紹介させていただきます。タイ南部のナコーンシータマラート県に生まれました。1992年に天理大学日本語別科に入学し，2年間，日本語を学習なさいました。金沢星稜大学経済学部商学科を卒業し，1998年に金沢大学大学院経済学研究科修士課程を修了しました。大学院を修了した1998年から2年間，ICT関連について，オー

オーストラリアで学びました。2000年、タイに帰国し、故郷のナコーンシータマラート県に戻り、ICT関連の事業や対日関連事業を立ち上げました。

2015年には、柳川高等学校と提携し、柳川高等学校附属タイ中学校を設立しました。タイの子供たちを対象とした日本式教育により、柳川高等学校への留学準備を行い、タイと日本のかけ橋になるような人材育成に取り組んでおられます。

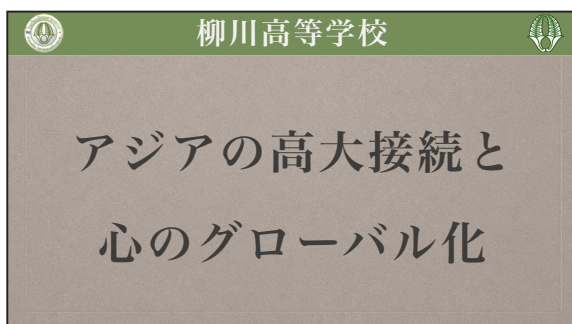
それでは、古賀先生、御発表をよろしく願います。



(古賀) ありがとうございます。

柳川高校の古賀と申します。本日は、貴重なセミナーに御招待いただきまして、どうもありがとうございます。後ほど附属タイ中学校のチャオ副理事長からも御挨拶させていただきます。

時間も限られておりますので、本校のアジアに対する動きについて、紹介をさせていただきますと思っています。



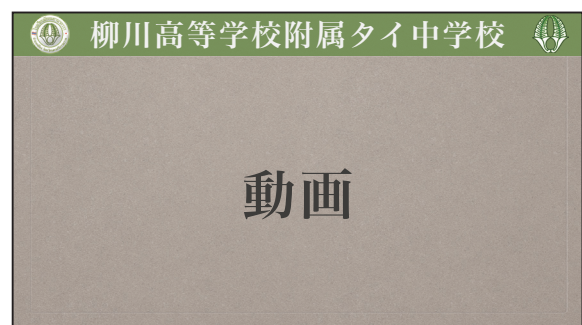
柳川高校ですけれども、実社会、この世の中が大きくダイバーシティー化、グローバル化をしていく中で、本校の柳川高等学校グローバル学園構想というものを2016年、今から5年前に立ち上げました。

そのフラッグシップといたしまして、先ほどから御紹介させていただいていますように、柳川高等学校附属タイ中学校、それはタイの南部、ナコーンシータマラートに本校の附属のタイ中学校を設立いたしました。

この学校ですけれども、建てた後に文科省の人から情報をいただいたんですが、これは日本の学校法人として初めての現地の子供たちを対象とした学校であると、この学校は、日本語教育というものは当然ですけれども、日本式の教育を取り入れた学校として、今現在、運営をしていっているところです。そして、その希望者は、本校の柳川高校に入学をしてきて、そして日本の大学を目指すシステムでございます。



今、設立して5年目と言いましたけれども、初めはいろいろ学校のことを認知していただくということに苦勞もいたしまして、1年目は、新生が16名からスタートいたしまして、第1期生4名が本校のほうに入学をしてきて、第2期生は少し増えてまして24名、そして8名が柳川高校に入学をしてきている状況です。



それでは、少しタイの中学校のほうの状況を見ていただければと思います。5分間の動画でまとめております。そこでチャオ副理事長の御挨拶もありますので、5分ほど動画を視聴いただければと思います。よろしく願いいたします。

(チャオ) 皆さん、こんにちは。柳川高等学校附属タイ中学校副理事長、テムラック・チャオと申します。どうぞよろしくお願い致します。

タイといいますと、どんなことを考えていますか。バンコクですか。チェンマイ、アユタヤ、スコタイ、サムイとプーケット、それぞれの場所があると思います。しかし、今日は柳川タイ中学校を設立したところを御紹介したいと思います。タイの南のナコーンシータマラート県です。そこは私が生まれたところです。どうぞ御覧ください。

(動画視聴)



さて、柳川タイ中学校の中に入っていきます。自然の中にあります。ランブータン、マンゴスチン、様々な木がたくさんあります。学生は自然とともに住むことができます。



もちろん学生たちは日本の文化、習慣を勉強できます。金曜日には浴衣を制服として着ること。日本の料理を食べること。それと、日本語教育システムを導入したということは何かといいますと、毎朝、ホームルームのときに小テストをすること。小テストは、月曜日、日本語。火曜日、英語。水曜日、数学。そうやって回っているんですよ。学生が1限目を準備するためには、やっぱり日本のシステムとして小テストが必要です。



日本の教育システムで学生たちを育成することでは、三つのことを考えています。一つ目、日本の子供たちは規則を守っていること。二つ目、責任感を持つこと。そして、人に迷惑をか

けない。人を尊敬すること。三つのことを導入した結果、大変効果がありました。



また、学校にはPBLというものがあります。PBLというのは問題を解決、問題を取り上げて、プロジェクトをつくることであります。1学期に1回ぐらいのプレゼンテーションがあるんですよ。年2回。これを大変楽しみにしているという学生がほとんどでございます。

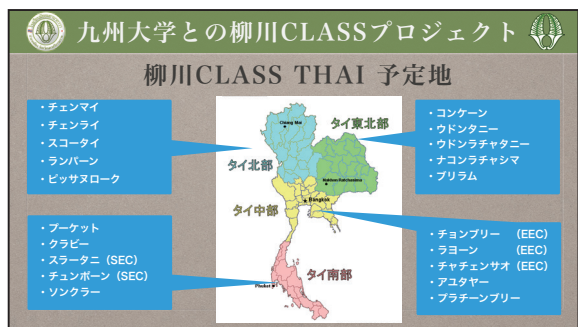
柳川タイ中学校の目標というのは、タイの子供たちが、日本のことを学びながら、日本の文化、習慣を理解した上で、将来的に柳川高等学校のほうに留学することです。今までは年間10名程度ですけれども、将来的には毎年30名程度タイ人が日本語に留学することになると思います。その後はどこに行くかという、日本の大学に入って、大学院を卒業して、博士まで行く可能性もあります。タイに戻りまして、日系企業のために役に立つと思います。タイに戻ってから、日タイ友好親善の仕事ができるようにと思っております。

どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(動画終了)

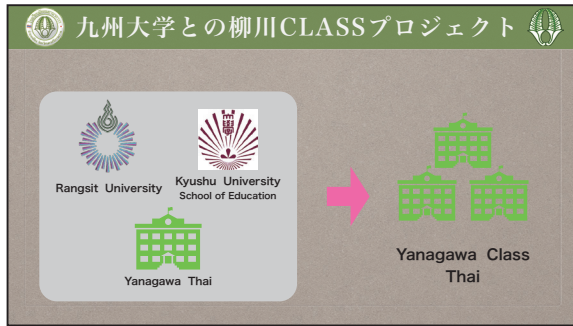


(古賀) タイの中学校の状況を動画のほうで御覧いただきまして、ありがとうございます。このタイの中学校の取組というものを評価していただきまして、九州大学、御校の教育学部のほうで、冒頭の御挨拶、河野先生のほうからお言葉がありました、アジア高大接続教育研究拠点、いわゆる事務所的なものをタイの中学校の中に開設していただきました。このことによって、タイの優秀な学生が九州大学へ入学することができる道筋につながったのではないかな、そういう取組になったのではないかなと我々は理解をしているところです。



そして、そこから数年たっていきまして、新たな、今現在始まったばかりの展開がありまして、これは、タイの教育省の大変な大きなバックアップがありまして、タイ全県、1都76県あるんですけれども、この全県の小学校、中学校に柳川クラス—いわゆる日本語クラス—というもの全県の小学校、中学校に導入していきましようということを閣議決定していただきまして、九州大学の教育学部の皆さんと一緒に日本語教育の展開というものをタイ全土に今現在始

めているところです。

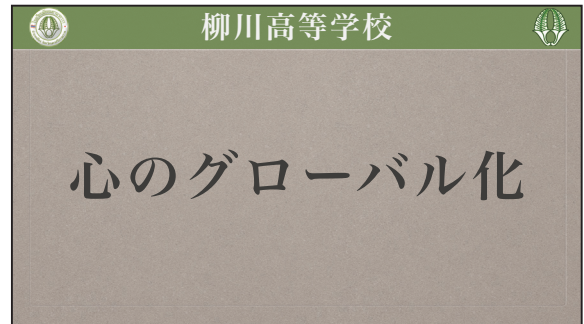


このような仕組みで、ほかのもう一つ、タイの大学とも組んで一緒に進めていこうとしております。



続きまして、本校の留学生の九州大学への進学状況です。今、留学生としては3名が進学が決まっていますか、あるんですけども、一番左の理学部に入学した生徒さんは、先ほど信男の魯理事長の御挨拶がありました。魯理事長のところから編入してきた大変優秀な生徒さんで、これは本当に日本人と同レベルでの受験の成績で九州大学の理学部に合格をいたしました。

それから、今年の4月に入学をしていく真ん中の生徒さんは台湾から、そして右の生徒さん、教育学部がタイのほうからといったところで、この2名は、今日のタイトルにもあります、アジアからの高大接続という、いろいろな難しさを考えて設置された留学生試験での入学で決定している状況です。



それでは、話を柳川高等学校のグローバル学園構想に戻させていただきます。このグローバル学園構想の大きな目的というのは、日本の生徒たちの育成にとどまらず、世界中の学生たちの心のグローバル化ということを大きく目標と掲げているところです。

特に、これからASEAN中心として発展していく経済の流れの中で、アジアの子供たちが、この学校に来て、集って、いろいろな交わり合う力であったり、人と人のネットワークをつくれる場所といったところも意識をして、このようなグローバル学園構想を掲げています。



そして、これから、学校全体の生徒さんたちが世界各国から集まってくる学校に成長させようとしているところなんですけれども、どのような体制で世界から学校に子供たちを集めているかとしているところは、今、タイのほうに附属の中学校を開設したという話をさせていた

だきまして、そこを皮切りに、ASEANを中心として、8か所に事務所を開設させていただいております。

そのネットワークの中で、今現在いろいろなところから、生徒さんたち、留学生が来ているような状況でして、この一、二年でASEAN全土に事務所開設を考えておりますし、また、ASEANにとどまらず、世界主要都市にも事務所を開設していきたいなと思っています。

柳川高校留学生在籍数 (78名)		
CHINA 27名	KOREA 6名	TAIWAN 9名
VIETNAM 5名	THAI 27名	INDONESIA 4名
2021年2月末日時点		

それで、全校生徒が約1,000人おまして、そのうち、コロナの状況で留学生の数もちょっと減っているような状況なんですけれども、中国から、メインに魯さんのところから来ていただいている27名、韓国から6名、台湾から9名、ベトナムから5名、タイから27名、インドネシアから4名と合計78名の留学生が、今現在、本校に留学生として在籍をしております。

留学生 大学進学 of 課題
日本の高校留学を 躊躇する制度

それでは、終わりのほうになりますけれども、本日のテーマでもありますアジアからの高大接続、あえて課題として話をまとめさせていただきたいと思います。

我々、ASEANのほうでいろいろと募集活動、リクルーティングをやっている中で、いつも直面するのは、日本への高校留学というものを躊躇する生徒たちが少なくはないということです。

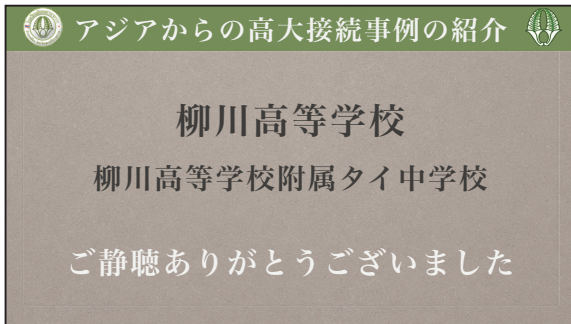
この現状をぜひともお知りおきいただきたいと思っています。先ほど魯理事長からも話が出ておりましたけれども、日本の高校へ進学することによって、留学生枠から外れて、日本人と同等である形で大学受験というものを求められるからです。

この事実を実は数年前、九州大学主催のセミナーでお話をさせていただきまして、教育学部のほうでは、いろいろと協議いただいて、それで留学生試験につながったのではないかなと思っています。

高校から来る留学生たちというのは、本当に日本の習慣にも慣れて、3年という月日を終えて、ホームシックというのは付き物、それを乗り越えて、語学力、語学の力以上に大学にとっては大変メリットが僕はいっぱいあるのではないかなと思っています。けれども、日本人と同等の入試はハードルが高いといったところが実情です。

柳川高等学校
アジアの高大接続と 心のグローバル化

高校留学生というものは、心のグローバル化というものを兼ね備えています。ぜひとも、だからこそ、最後に申し上げたいことは、アジアの子供たちが躊躇することなく、日本の高校を選択できるアジア高大接続の入試制度改革といったものが本当に必要なのではないかなと思っています。そういう思いで今日はお話をさせていただきました。御清聴ありがとうございました。



(江口) 古賀先生, 御発表ありがとうございました.

日本国際学校 [ベトナム]

日本国際学校理事長 ダオ・スアン・ホック



日本国際学校理事長 ダオ・スアン・ホック

(江口) 次は、日本国際学校についての御発表になります。御発表いただきますのは、理事長を務めておられますダオ・スアン・ホック先生になります。

先生の御紹介をさせていただきます。

ホック先生は、トウイロイ大学で32年以上、教鞭を執り、11年間、学長、副学長として従事なさいました。2007年に農業農村開発省の副大臣として任命され、水分野や自然災害のマネジメントを担当していらっしゃいました。2012年、ベトナムの国家気候変動委員会の専門副議長でありました。2013年から2015年まで、気候変動に関するベトナムの国連開発計画の顧問でもありました。2016年、ベトナム国内に日本式教育の基本的な価値観をもたらし広げていくことを期待して日本国際学校を創設したという御紹介です。

それでは、ホック先生、御発表のほうをよろしく願いたします。



(ホック)

Dear Professor, Dear colleagues and friends,
First of all, I would like to thank you so much for giving me the chance to present to you about the Japanese International School in Hanoi and why JIS was born..

1. Introduction JIS

1. Reason of forming

- Had not a chance to learn in Japan
- Have opportunities to work with dedicated Japanese Prof. and Experts
- Have visited Japan many times
- Make me a very good impression about the Japanese people and Country
- Have talked to our Prime Minister when he was still a DPM:
 - “Japan is not behind any other country in the world about science ...
 - The whole world admires Japanese people for their moral education.
 - The cultures of two countries are similar
 - That is why we should bring Japanese education into Vietnam”

• With the trust and cooperation from investors, JIS was established

For the introduction, I would like to mention the recent reform in JIS. I did not have the chance to learn in Japan, but I had the opportunity to work with a lot of dedicated Japanese professors and experts. I have visited Japan many times, which gave me a very good impression about the Japanese people and the rest of the country.

I have talked to our Prime Minister when he was still a Deputy Prime Minister. that “Japan is not behind any other country in the world about science, technology, economic and social management. Regarding social management, the whole world admires Japanese people for their social awareness, responsibility and trust... These must come from moral education since their childhood. Besides, Japan and Vietnam share a lot of cultural similarities. That is why we should bring Japanese Education into Vietnam”.

1. Introduction JIS (Cont.)


2. About JIS

a. Our Mission:

- Trains students from Kindergarten to Highschool
- Providing Japanese Curriculum and Cambridge Curriculum
- Applying Japanese's educational model of ethic, discipline and style
- With the hope to bring in and expand this model throughout to Vietnam
- JIS is one of the bridge to connect culture, economics, society and science between Vietnam and Japan

b. Our Vision:

- To be the top of the country in educating personality



II. JIS's Situation

- JIS is first school in Vietnam to train students with the Japanese model of education.
- JIS has been running for 5 years, with more than 500 students
- Home room teachers are all Japanese Teachers
- All subjects: Mathematic, Science, Civic, It, Social, Family... are taught directly by Japanese teachers about 18-22 periods/week
- Besides, 6 periods for English and 6-8 periods for Vietnamese/week
- The result of education of students is good:
 - After more than 4 years, 18 of 20 students achieved N2 (in JLPT exam)
 - Regarding the discipline, style and ethic are high improved

And with the trust and cooperation of investors, JIS was established. Talking about JIS, our mission is to train students from kindergarten to high school, providing Japanese curriculum and Cambridge curriculum, applying Japan's educational model of ethic, discipline and style, with the hope to bring in and expand this model throughout Vietnam. JIS is one of the bridges that connect culture, economics, society and science between Vietnam and Japan and global community.

Our vision is to be the top school of Vietnam in educating personality. JIS's students will have good ethic and personality, be disciplined and well-behaved. Having adequate knowledge, creativity, and confidence for integration.

1. Introduction JIS (Cont.)

c. Our Core value:


- Personality education

d. Our Education Philosophy:

- High intelligence is essential, but to have good personality is even more important.

e. Our Target:

- To train the Wisdom students



Our core value is personality education. Our education philosophy is that high intelligence is essential, but to have good personality is even more important. Our target is to train the wisdom of students.

On the JIS situation now, JIS is the first school in Vietnam to train students with the Japanese model of education.

Until today, JIS has been established for almost 5 years, with more than 500 students, of which 230 students are Japanese's curriculum. From the kindergarten to grade 12, the homeroom teachers are all Japanese teachers. Students learn Japanese from Kindergarten upward. All subjects such as mathematics, science, Civic, IT, social and Family and Calligraphy are taught directly by Japanese teachers in Japanese language, of total 18 to 22 periods per week. Besides students also take six periods for English, and six to eight periods for Vietnamese per week.

The result of the education of students I think is good now. Last October 2020, 20 JIS students at grade 9 and 10 (who have been joining JIS for only 4 years and 2 months) participated in the JLPT exam and made a remarkable achievement. 18 students have achieved N2 Japanese level, and the other 2 students achieved the N3 level. We have a strong believe that in the later years, the students who enter the school from grade 1 will definitely have better Japanese test results with better literacy capability. Interaction skills in Japanese of our students are judged as good as Japanese native students, as per assessment of Japanese teachers who visited or worked at JIS

Regarding the discipline, ethic and style, even though it is not yet as expected, but a lot of improvements have been achieved compared to the first time that the students enrolled to JIS. With science lessons, the students still have some difficulties in learning due to new terminologies.

To sort this out, teaching assistants are provided to support students if and when necessary.

III. Advantages and Difficulties

1. Advantages

- JIS's students and their parents all love Japanese Culture
- All of our students want to learn in Japanese Universities
- Japanese Teachers are very dedicated, profession
- JIS has received attention and visited
 - By Sir Suzuki Norikazu, Vice Minister of Foreign Affairs.
 - By Japanese Ambassador in Vietnam
 - By Education Department of Kyushu University and some other universities



Talking about the advantages and difficulties, the advantages include that JIS's students and their parents all love Japanese culture. Most of the students wish to be able to study in Japan one day. Japanese teachers are very dedicated with Vietnamese students. JIS has received attention and was visited by Sir Suzuki Norikazu, Vice Minister of Foreign Affairs, by the Japanese Ambassador to Vietnam, by the Education Department of Kyushu University and some other universities.

III. Advantages and Difficulties (Cont.)

2. Difficulties

- JIS's students have to learn up 3 languages - 6.0 IELTS
- Japanese books are not really compatible – Example:
 - Mina no Nihongo books is suitable for foreigners but for adult people
 - Japanese Children books are too difficult for our students
 - Vietnamese children Japanese books are too easy for our students and not relate to subjects like Math, Science, Civic, It, Social, Family ...
- Our students could not take the Japanese certificate after high school
 - After learning 12 years, even 15 years in Japanese language, they have to take examination in Vietnamese.
 - After taking Vietnamese certificate, they have to take examination in Japanese for entrance Japanese Universities

The difficulties include that JIS students have to learn three languages; Japanese, English and Vietnamese. With English, they need to reach 6.0 IELTS.

This creates quite a pressure for the students. Average performing students may hardly catch up the requirements.

The Japanese textbooks are not really compatible: for example, the Mina no Nihongo textbook is suitable for foreigners, but only for adults. The textbooks for primary students in Japan are suitable for the children but they are for the children

who are Japanese native speakers, so it is quite difficult for the Primary students at JIS. On the other hand, the Japanese textbooks for the Vietnamese students, who only take 2 periods of Japanese per week, are too easy and do not link with other Japanese subjects such as Math, Science, Civic, IT, Social and Family.

Our students who study with Japanese curriculum for 12 years, even 15 years since kindergarten, are not allowed to participate in the Japan's national exam and cannot receive the Japan high school graduation certificate.

In the contrast, they have to take the Vietnam's national exam in order to receive the high school graduation certificate; and again take the University's entrance exam in Japan.

IV. Recommendation

1. Allow a Japan high school to collaborate with JIS
 - In charge of managing curriculum, teaching quality at JIS
 - Graduation exam and certificate for qualified students of JIS
2. Universities allow JIS's students to take part in the admission, and encourage to grant students scholarship depending on their ability and personality.
3. Support and collaborate with JIS to develop new Japanese textbooks
4. Allow JIS to be a school that can admit intern teachers and exchange students from Japanese Universities, JIS can provide free accommodation.

Regarding recommendations, we set up a mechanism where Japan high schools are authorized to collaborate with JIS. These schools will be in charge of managing curriculum and the teaching quality at JIS, managing testing and graduation examinations. These schools will be able to grant graduation certificate to qualified JIS students.

We would like Japanese universities to allow qualified JIS students to take part in the admissions and to encourage grant student's scholarship depending on their ability and personality.

Regarding the textbook, if Kyushu University or other organizations can support and collaborate with JIS to develop new textbooks that are suitable for young foreign students at kindergarten or primary level learning Japanese as the second language.

We would like to be coming a school that receive

intern teachers and exchange students from Japanese Universities, especially teachers specialized in teaching Japanese for foreign students. JIS will provide free accommodation for these language teachers.



(江口) ホック先生、ありがとうございました。

(日本語訳)

先生方、同僚・友人の皆様、この度は、日本国際学校 (JIS) について、そして JIS が設立された理由についてご紹介する機会を与えていただき、ありがとうございました。

まず、紹介として、最近の JIS の改革について、お話ししたいと思います。私は日本で勉強したわけではありませんが、多くの熱心な日本人の先生方や専門家の方々と一緒に仕事をする機会に恵まれました。また、何度も日本を訪れていますが、日本という国だけでなく、日本人に対してとても良い印象を持っています。

私は、ベトナムの総理大臣がまだ副総理だった頃に、「科学技術や経済運営に関しては、日本は世界のどの国にも遅れをとっていない」と話したことがあります。社会運営に関しては、全世界が日本人の社会意識、責任感、信頼感を賞賛していますが、これらは子供の頃からの道徳教育から生まれたものです。また、日本とベトナムは文化的な類似点が多いです。だからこそ、私たちは日本の教育をベトナムに持ち込むべきなのです。

そして、投資家の皆様からの信頼と協力を得て、私たちは JIS を設立しました。

私たちの使命は、JIS は幼稚園から高校までの

生徒を教育しており、日本式カリキュラムとケンブリッジ式カリキュラムを日本の教育モデルである倫理、規律、スタイルを適用しながら提供します。日本の教育モデルをベトナム全土に広めていくために、日本とベトナム、そして世界の文化、経済、社会、科学をつなぐ架け橋となることを目指しています。

私たちのビジョンに関してですが、人格教育では、ベトナムのトップを目指します。JIS の生徒は、優れた倫理と人格を持ち、規律正しく、行儀の良い人間です。また、十分な知識と創造性を備え、社会に出て自信を持って活躍できる人材を育成します。

私たちのコアバリューは、人格教育を行うことです。私たちの教育理念は、高い知性は、必要ですが、優れた人格であることは、さらに重要であるということです。私たちの戦略目標は、“良識のある生徒を育てる” ことです。

JIS の今日の状況についてですが、JIS は、日本の教育モデルで生徒を教育するベトナムの最初の学校です。JIS が設立されて約 5 年となる現在までに、500 人以上の生徒が在籍しており、その中で、日本式カリキュラムに在籍する生徒は、230 人にのぼります。幼稚園から 12 年生まで、担任は全員日本人の先生です。幼稚園から日本語を学ぶことができ、数学、理科、公民、IT、社会、家庭、書道などの教科は、毎週およそ 18 時限から 22 時限を日本人教師が日本語で教えています。また、英語は約 6 限 / 週、ベトナム語は約 6 ~ 8 限 / 週の授業があります。

現在、良い教育結果が得られていると思っています。2020 年 10 月に、9・10 年生 (わずか 4 年 2 ヶ月間、JIS に在籍している生徒) が、日本語能力試験を受験し、注目に値する成果を得ました。18 名が N2 レベル、残りの 2 名が N3 レベルを取得しています。後年に、1 年生から入学した生徒は、読み書きの能力も向上して、間違いなく日本語のテストの成績が良くなっていることを強く信じています。JIS に来ている日本人教師のグループは、本校の生徒の日本語能力を日本人生徒とほぼ同等と評価しています。

規律や倫理、スタイルについては、期待通りではないとしても、入学当初に比べれば改善点

が多く見られています。理科の授業では、新しい用語のため、学習に、少し、苦勞しています。この苦勞を改善するため、必要な時に生徒をサポートするためにティーチング・アシスタント制度が設けられています。

アドバンテージと困難についてお話いたします。まず、アドバンテージですが、JISの生徒や保護者は皆、日本や日本の文化が大好きということがあります。ほとんどの生徒がいつか日本に留学したいと思っています。また、日本の先生方は、ベトナムの生徒に対して、とても献身的ということもあります。さらに、JISは、注目され、多数の閣下が来校していることも挙げられます。たとえば、鈴木憲和・外務大臣政務官、駐ベトナム大使、九州大学やいくつかの他大学の教育部門の代表です。

困難として、JISの生徒は、3ヶ国語（日本語、英語、ベトナム語）まで学習しなければならず、英語力もIELTS6.0点に達する必要があるため、学習面でのプレッシャーが大きく、平均的な生徒はほとんどついて来られない可能性があります。

また、日本語の教科書の相性が悪いということがあります。例えば、教科書『みんなの日本語』は外国人向けですが、大人向けです。日本の小学生向けの教科書は子ども向けですが、日本語を母国語とする子ども向けなので、JISの小学生にはかなり難しいです。

一方、週に2時間しか日本語を履修しないベトナム人向けの日本語の教科書は簡単すぎて、数学、理科、公民、IT、社会、家庭のような他の日本の教科との連携が取れていません。

日本のカリキュラムで12年から15年（4年前に入学した学生は少なくとも7年）勉強した生徒は、日本の国家試験を受験することができず、日本の高校卒業資格を取得することができません。それどころか、彼らはベトナムの国家試験を受験して高校卒業資格を取得し、日本の大学入試を受験しなければなりません。

提案として、日本の高校がJISと連携する権限があるメカニズムを構築することがあります。これらの学校は、カリキュラムの管理、JISの授業の質、試験の管理、卒業試験の採点を担当し、

資格のあるJISの高校生に卒業証明書を発行することができるようにします。

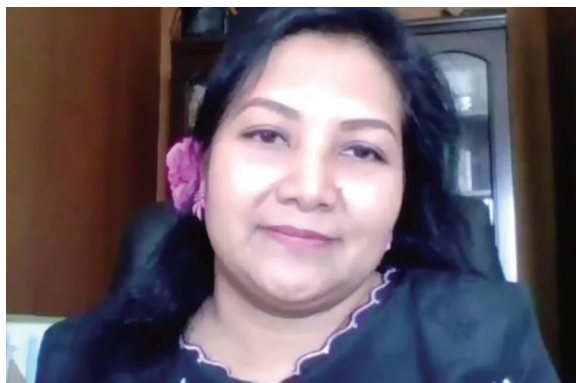
日本の大学に、資格のあるJISの生徒が入試を受験できるようにしてもらい、能力やパーソナリティによって、生徒に奨学金を支給することも奨励することも希望します。

教科書については、もしも九州大学とJISとが協力できるなら、外国人児童生徒が幼少期に日本語を第二言語として学習するための適切な新しい教科書を作成することが挙げられます。

JISが九州大学の教育実習生や交換留学生、特に日本語教育を専門とする教員を受け入れ可能な学校になれるようにします。JISは九州大学からの教育実習生や留学生に無料で宿泊施設を提供します。

マラヤ大学予備教育部日本留学特別コース [マレーシア]

マラヤ大学予備教育部日本留学特別コース
AAJ プログラムコーディネーター ジャミラ・モハマド



マラヤ大学予備教育部日本留学特別コース
AAJ プログラムコーディネーター
ジャミラ・モハマド

まず、マラヤ大学予備教育部日本留学特別コースは、マレー語では、「Rancangan Persediaan Khas Jepun - RPKJ」といいますが、これはプログラムの名前です。また、センターの名前は、「Ambang Asuhan Jepun」で、これは日本への門という意味です。一般的には、こちらの名称から「AAJ」と略して呼ばれています。ですので、本日の発表では、マラヤ大学予備教育部日本留学特別コースをAAJとし、その概要、現状、課題についてお話しします。

UNIVERSITI MALAYA

九州大学 webinar100 国際シンポジウム 2021年3月15日(月)

マラヤ大学予備教育部日本留学特別コース

Rancangan Persediaan Khas Jepun (RPKJ)
Ambang Asuhan Jepun (AAJ)
Pusat Asasi Sains, Universiti Malaya, Kuala Lumpur, MALAYSIA

Japanese Special Preparatory Program
Centre for Foundation Studies in Science, Universiti Malaya, Kuala Lumpur, MALAYSIA

ジャミラ・モハマド (JAMILA MOHD)
上級講師 / コース・コーディネーター
(Senior Lecturer / Course Coordinator)

AAJの概要: 場所 Location

マレーシア・クアラルンプール・マラヤ大学・予備教育部

(ジャミラ) 皆様、こんにちは。初めまして。ただいま御紹介にあずかりましたマラヤ大学予備教育部日本留学特別コースのジャミラ・モハマドです。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、マラヤ大学予備教育部日本留学特別コースについて御紹介したいと思います。

先ほど、竹熊先生が御講演の中で御紹介くださいました。ありがとうございました。

AAJは、マラヤ大学の予備教育部にあります。マラヤ大学は、マレーシアの首都クアラルンプールにあります。

UNIVERSITI MALAYA

発表の内容 Content

RPKJ = 「Rancangan Persediaan Khas Jepun (日本留学特別コース)」
AAJ = 「Ambang Asuhan Jepun (日本への門)」

1. AAJ の概要
2. AAJ の現状
3. AAJ の課題

UNIVERSITI MALAYA

九州大学の先生方のAAJご訪問 A Visit from Kyushu University

2019年12月

九州大学人間環境学研究院 教育学部門
竹熊 尚夫 教授
木村 拓也 准教授

2019年12月に、こちら九州大学人間環境学研究院教育学部門の竹熊尚夫先生、そして木村拓也先生がAAJを訪問してくださいました。先生方がAAJにいらしたときにお会いできなくて本当に残念でした。こちらは、木村先生に頂いたそのときの写真です。竹熊先生、木村先生、本

当にありがとうございました。




AAJの概要:プログラム設立の経緯 **AAJ Establishment Background**

- 1981年 マハティール首相(当時)が「東方政策」を提唱
- 1981年 日本政府が協力を表明
- 1982年 Universiti Kebangsaan Malaysia にて日本留学特別コース開講
- 1983年 同コースUniversiti Malaya に移管
- 2020年 39期生入学

次に、プログラム設立の経緯です。

1981年に当時のマハティール首相が、東方政策を提唱し、そのすぐ後に日本政府が協力を表明してくださいました。おかげで1982年にユニバーシティ・ケバンサアン・マレーシアの大学で日本留学特別コースが開講されました。その後、1983年にAAJはマラヤ大学に移管され、それ以来、今日まで続いています。2020年には39期生を迎えました。



AAJの概要:プログラムの目標 **Objectives of AAJ**

- ① 日本留学に足る確かな基礎学力を育成する
- ② 協働の精神と自主・自律の態度を育成する
- ③ マレーシアの発展のため、工学分野での自らの責任と役割を自覚させる
- ④ 日本文化を理解しつつ、社会の一員としての倫理観を育成する

(2020年度AAJ教育指針から)

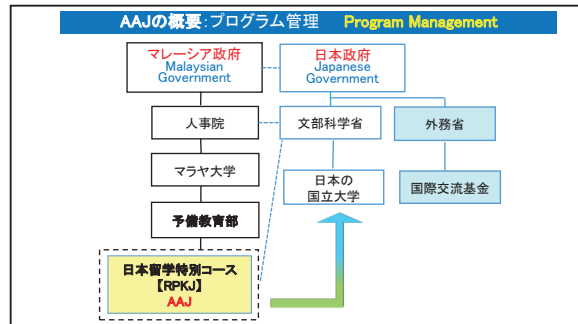
AAJのプログラムの目標としては、次の四つが柱になっています。

まず、一つ目は、日本留学に足る確かな基礎学力を育成すること。


二つ目は、協働の精神と自主、自立の態度を育成すること。

三つ目は、マレーシアの発展のため、工学分野での自らの責任と役割を自覚させること。

そして四つ目は、日本文化を理解しつつ、社会の一員としての理論感を育成することです。




プログラムの管理については御覧のようになっていて、運営については、日本政府、各関係機関の御協力の下、マレーシア政府人事院の管轄で行われております。



AAJの概要:構成 **AAJ Structure**

- ・ 2年間・4セメスターの予備教育
- ・ 高校卒、SPM (Sijil Pelajaran Malaysia) マレーシア教育修了証明試験の成績優秀者
- ・ 工学部を志望する学生
- ・ プミプトラ対象
- ・ 国費留学生
- ・ 日本の国立大学学部1年次に入学

次は、AAJの概要について説明いたします。コースは2年間、計4セメスターの予備教育です。対象となる学生は、高校を卒業して、「SPM—Sijil Pelajaran Malaysia」というマレーシア教育終了証明試験を受けた学生のうち成績優秀者で工学部を志望する学生です。プミプトラ政策に基づき、学生は全員、マレー系住民及び先住民のみになっています。また、AAJの学生は、マレーシアの国費留学生として日本の国立大学学部1年次に入学します。



マレーシアの教育制度 **Education System in Malaysia**

- ・ マレーシアでは基本的に初等教育6年 (Standard 1 - Standard 6)、中等教育5年 (Form 1 - Form 5)、大学予備教育1年～2年。
- ・ 年齢については、初等教育は7歳から12歳、中等教育は13歳から17歳まで。
- ・ Form 3 (15歳)では Penilaian Menengah Rendah - PMR という試験を受け、その結果によって文系か理系かに分かれる。

先ほど高校やSPMの話が出ましたが、イメージしやすくするために、マレーシアの教育制度を簡単に紹介いたします。

マレーシアでは、基本的には初等教育は6年で、Standard1からStandard6まであります。これは日本と同じです。次に、中等教育はForm1からForm5まで5年間あります。こちらは、日本と違って、中学校と高校に分かれていません。次は、大学予備教育で1年から2年かかります。

また、年齢については、初等教育は7歳から12歳で、中等教育は13歳から17歳までです。

Form3では、「Penilaian Menengah Rendah — PMR」という試験を受けて、その結果によって、文系か理系かに分かります。

マレーシアの教育制度 Education System in Malaysia

- ・ Form 5 の終わりに SPM(卒業試験)を受ける。
- ・ 成績が良ければ、大学進学が可能。
- ・ この場合、大学の予備教育で1-2年学ぶ必要があり、その後入学・留学できるようになる。

- ・ Form 5 の後、Form 6 に進むこともできる。
- ・ この場合、Form 6 の終わりに STPM という試験を受け、成績が良ければ、大学の1年次に入学できる。

Form5の終わりに、SPMを受けて、成績がよければ大学進学が可能になります。この場合、大学の予備教育で1年あるいは2年学ぶ必要があります。その後、入学あるいは留学できるようになります。また、Form5の後、Form6という特別な学年があってそこに進むこともできます。この場合、Form6の終わりに、STPMという試験を受け、成績がよければ、大学の1年次に入学できます。

AAJの現状:学習システム AAJ Academic System				
学年 Year	セメスター Semester	科目番号 Subject Code	科目名 Subject Name	コマ/週 Lesson / Week
1年目 First Year	セメスター1 使用言語: 英語、マレー語、日本語	FAE1001	日本語 1	22
		FAE1003	数学 1	3
		FAE1005	物理 1	4
		FAE1007	化学 1	4
		合計		33
	セメスター2 使用言語: 日本語	FAE1002	日本語 2	18
		FAE1004	数学 2	7
		FAE1006	物理 2	6
		FAE1008	化学 2	4
		合計		35

1コマ=50分

では、話をAAJのほうに戻します。AAJの学習期間と内容についてです。

学習の期間は2年間、4学期に分かれています。学習内容については御覧のとおりです。

まず、1年目はセメスター1とセメスター2

に分かれていて、セメスター1では、数学、物理と化学の科目は英語及びマレー語で勉強します。日本語はもちろん日本語で学びます。

セメスター2になると、全ての科目を日本語で学ぶことになります。ちなみに一コマの授業は50分の単位になっています。

AAJの現状:学習システム AAJ Academic System				
学年 Year	セメスター Semester	科目番号 Subject Code	科目名 Subject Name	コマ/週 Lesson / Week
2年目 Second Year	セメスター3 使用言語: 日本語	FAE2001	日本語 3	11
		FAE2003	数学 3	8
		FAE2005	物理 3	8
		FAE2007	化学 3	7
		合計		34
	セメスター4 使用言語: 日本語、及び英語(英語科目)	FAE2002	日本語 4	11
		FAE2004	数学 4	8
		FAE2006	物理 4	6
		FAE2008	化学 4	5
		FAK2001	英語	3
合計		33		

1コマ=50分

2年目はセメスター3とセメスター4に分かれていて、全ての科目を日本語で学びます。ただ、セメスター4には、英語の科目があって、それは英語で学びます。

AAJの現状:教員 (2021年度) AAJ Staffs (2021)



日本人教員:
日本語科 - 8名
教科 - 19名

マレーシア人教員:
日本語科 - 9名
(マレーシア人教員のうち7名がAAJ卒業生)

AAJの教員は、日本人教員とマレーシア人教員から成り立っています。現在、日本人教員27名のうち、日本語科が8名で、教科は19名おります。一方、マレーシア人教員は9名おまして、全員日本語を教えております。ちなみに、そのマレーシア人教員の9名のうち7名が、AAJの卒業生です。実は、私もAAJの第9期生で、1990年から1992年までAAJにいました。

AAJの現状:九州大学への合格実績 AAJ Students to Kyushu University					
AAJの九州大学への合格実績			現在九州大学に留学中のAAJ学生(新4年生)		
第1期生～第39期生			工学部	電気情報工学科	
男	女	計	工学部	電気情報工学科	
48	23	72	工学部	地球環境工学科	
			35期生		

AAJの学生は、AAJを修了した後、日本全国にある国立大学に入学します。こちら、九州大学へも多くの学生が入学しています。合格実績を上げてみたところ、1期生から39期生までの学生のうち、全部で72名が合格しています。

去年1名の学生が九州大学に合格しましたが、あいにくコロナで前期の時期には登校できなくなりました。後期入学では日本に行けるようになりましたが、九州大学では後期の入学を受け入れなかったため、日本の違う大学に入学したという次第です。現在、九州大学に留学中の学生は3名おまして、全員、新4年生です。

AAJの課題: AAJでのチャレンジ Challenges in AAJ	
①	日本語のハードル: セメスター2からは日本語で教育を行うため、日本語を短い期間でマスターしなければならない
②	非漢字圏の学習者: 漢字学習の難しさ
③	教科、特に物理の日本語が独特で難しい
④	マレーシアの高校の数学教育との違い: 電卓使用、解答プロセスを重視しない
⑤	コースでの勉強: 定期試験とEJU対策との両立が大変

さて、ここから、このプログラムで、日本留学する学生たちにとっての難しさ、課題、チャレンジについて述べたいと思います。まずは、AAJでの学生のチャレンジについてです。

まず一つ目、日本語のハードルが高いです。特に、セメスター2からは、日本語で教育を行うため、日本語を短い期間でマスターしなければほかの教科の勉強にも大きく影響してしまうという難しさがあります。

二つ目は、また、日本語と関連するのですが、ほとんどの学生が非漢字圏の学習者なので、漢字学習の難しさというのが高い壁となります。

三つ目も日本語に関係しますが、教科、特に物理の日本語が独特で難しいようです。

四つ目は、マレーシアの高校の理系の教育との違いが大きく、慣れない学生が多いということが挙げられます。特に、マレーシアの数学の勉強では電卓が使用され、また、回答プロセスについてはあんまり重要視されないのですが、日本ではそうではないので、計算力をつけること、プロセスをきちんと学ぶことというのは、学生たちにとってなかなか難しいことのようにです。

最後の五つ目は、コースでの勉強、そして定期試験とEJU対策との両立が大変だということです。EJU、つまり日本留学試験は、御存じのとおり、留学生にとって進路決定に関わる重要な試験で、AAJの学生も2年目の11月に受験するのですが、時間のない中、コースでの学習と並行してEJUのための対策も同時に進めていくことが大変だということでした。

AAJの課題: 日本でのチャレンジ Challenges in Japan	
①	AAJと日本での大学生活との間にある、使用される日本語の差
②	AAJでは先生や大学からのサポートが手厚いが、日本では大学により差があること
③	宗教や食事、文化などの生活の違いによるストレス
④	気候の違いによるストレス
⑤	自由な生活による気のゆるみ
⑥	目標の喪失によるモチベーションの低下

次に、日本留学してから、日本の大学で直面する課題、チャレンジについて述べます。

まず、一つ目は、AAJで学んできた日本語と日本での大学生活で使用される日本語の違いが難しさになっているようです。AAJで学ぶのは標準語ですが、いろいろな地方では方言が使われています。また、話すスピードも速いので、これらに慣れるまで時間がかかります。

二つ目は、AAJでは、先生や大学からのサポートが手厚いが、日本では、大学によって差があるということです。あまりサポートがない大学では、学生は生活面、学習面、どちらも大変なようです。

三つ目は、宗教や食事、文化など、生活の違いによるストレスです。マレーシアと日本の生活では大きな違いがあり、そこに様々なストレスが生じていて、うまく解決できなかったら、

徐々に勉強にも影響が出てしまいます。

四つ目は、気候の違いによるストレスです。特に冬や寒い地方に進学する学生は、慣れない暗さや寒さに寂しく感じたりつらく感じたりすることが多いようです。

五つ目は、自由な生活による気の緩みです。ゲームやアルバイトなどに夢中になってしまい、勉強と生活のバランスが崩れてしまうケースもあるかもしれません。

最後の六つ目は、留学を果たした後、目標をなくしてしまい、モチベーションが低下するケースもしばしばあります。

このようなチャレンジを多くの学生が経験していますが、問題があった場合、早い段階で解決しないと、留年や退学につながるようになります。



UNIVERSITI MALAYA

AAJの課題: 日本の大学への要望 Requests to Japanese Universities

- ① 先生や大学から学生への手厚いサポート
- ② 成績が悪い学生への早期からのカウンセリング
- ③ 欠席が多い学生への早期からのカウンセリング

そこで、最後に日本の大学への要望について述べたいと思います。

まず、一つ目は、大学側には、お手間がかかることで大変恐縮ですが、できましたら、先生や大学から学生に手厚いサポートをしていただきたいです。学生が授業についていけない分りにくい科目に先生やチューターによる個別指導を行ったり、日本人学生との学習グループをつくるための支援を行ったりしていただければと思います。

二つ目は、各学期の学生の成績を分析し、成績が悪い学生の早期からのカウンセリングを行うということも大変大事だと思います。

三つ目は、成績管理と同様に、欠席が多い学生への早期からのカウンセリングを行っていただけると状況が悪化することを防ぐことができると思います。



説明する時間はありませんが、最後に AAJ での学生たちの様子や AAJ の歴史的出来事の写真を用意しましたので、御覧いただけたらと思います。



以上です。御清聴ありがとうございました。TERIMA KASIH.

(江口) ジャミラ先生、ありがとうございました。(ジャミラ) ありがとうございました。

帝京マレーシア日本語学院日本留学準備教育課程 [マレーシア]

帝京マレーシア株式会社取締役社長 大野好弘



帝京マレーシア株式会社取締役社長
大野好弘

(江口) 次は、帝京マレーシア日本語学院日本留学準備教育課程になります。

こちらは、帝京マレーシア株式会社取締役社長の大野好弘先生に御発表をお願いします。

大野先生は、1979年に研究開発のエンジニアとして現在のセイコーエプソンに入社なさいました。20年間、半導体、液晶技術、磁気ハードディスクなどの薄膜技術の開発に従事し、その後10年間は、環境、CSR、CS部門でセイコーエプソン本社、事業部、海外子会社などの方針策定をし、実施の責任者として活躍なさいました。

最後の5年半、セイコーエプソンの海外現地法人であるエプソンプレジジョンマレーシアの社長としてマレーシアに赴任なさいました。

これまで教育関係とは全く無縁でしたが、2017年から縁があって帝京マレーシア日本語学院のマネジメント会社にあたる帝京マレーシア株式会社の社長として赴任なさいました。

帝京マレーシア日本語学院
Pusat Bahasa Teikyo

帝京マレーシア株式会社
大野好弘



内容

- 1 帝京マレーシア日本語学院について
- 2 マレーシアからの留学生と教育制度
- 3 帝京マレーシア生徒の推移
- 4 外国大学の留学生獲得戦略
- 5 日本の課題とメリット（私の立場から）

それでは、大野先生、御発表のほうよろしくお願いたします。

(大野) それでは、始めさせていただきたいと思ひます。ただいま御紹介いただきました帝京マレーシア株式会社社長をしております大野と申します。

まず、当校の御紹介とマレーシア学生が日本に留学するときの課題を御説明できる機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

この最初のページで、先ほども御紹介にありましたように、学校なのになぜ株式会社の社長が出てくるんだと違和感を覚えられると思ひますが、実はマレーシアには学校法人という仕組みがございません。教育は学校、経営は会社と二分されております。会社は、大学でいえば、理事会という位置づけと御理解ください。

帝京マレーシア日本語学院



創立 1997年
資本金 35万リンギット（帝京大学100%出資）

Chairman(Board of Governors) Dato' Zulkifli Bin Abudul Malek
校長 清宮 衛
日本語教師数 15名（1名非常勤）
基礎教科教師数 8名（2名非常勤）
計 23名（日本人22名、マレーシア人1名）
生徒数 209名（2020年9月30日現在）

御説明する内容はこの5項目でございまして、帝京マレーシア日本語学院は1997年に創立されております。日本語教員数は15名、教科の教員数は8名で計23名。日本人が22名、マレーシア人1名、その1名のマレーシア人は英語教師と

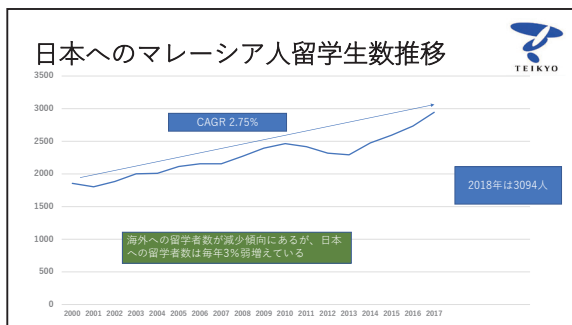
いう体制で、生徒数は大体毎年200名から230名
 くらいの学校を運営しているわけでございます。

教育理念

日本と東南アジアの
友好を深め
世界平和に資する
国際性豊かな人材を
育成する

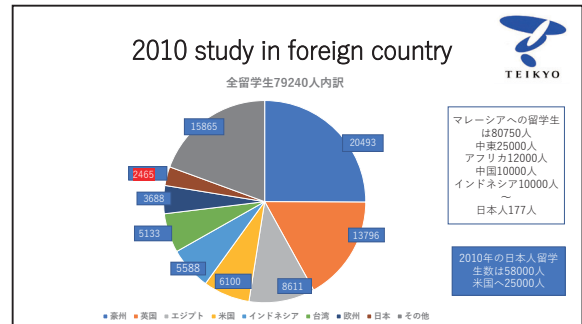
これが教育理念でございまして、日本と東南
 アジアの友好を深め、世界平和に資する国際性
 豊かな人材を育成するというこの理念に基づい
 て日々の運営を致しております。

マレーシアからの留学生と教育制度について、
 簡単に御説明したいと思います。

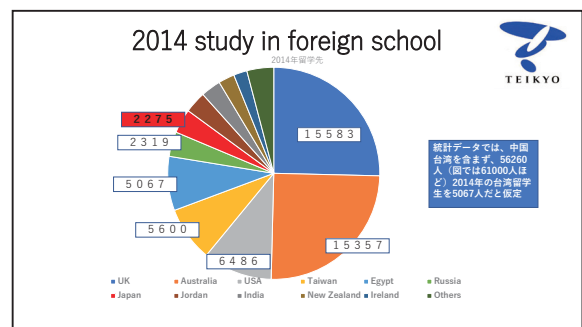


これが日本へのマレーシア人留学生数の推移
 です。2000年から2017年まで。2000年は1,800人
 くらいだったわけですが、このグラフには入り
 ませんが、2018年には3,094人、2019年には
 3,050人くらいの留学生が毎年日本に
 いるわけでございます。年平均2.75%ぐら
 いの増加率でマレーシア人の学生が増えてい
 っているわけでございます。これが全体像でござ
 います。

これから2枚が、マレーシアの学生はどの国
 へ留学するかを示した図です。このデータはあ
 まり見つからないものですから、2010年と、次
 のページで2014年のデータをお見せいたします。

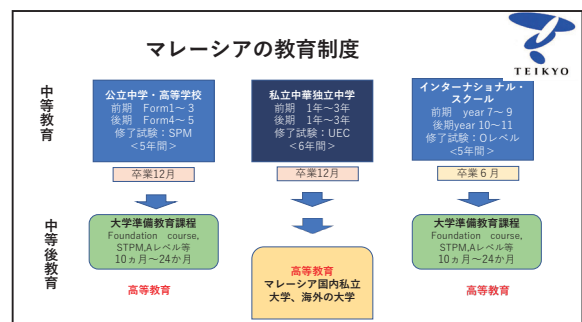


2010年が約8万人の留學生で、上位がオース
 トラリア、イギリスという二つの国になります。
 日本は8位くらいというのが2010年の状況です。



2014年は、実は2010年よりも人数が減って
 おります。もともとの統計データには中国と台
 湾が入っておりませんので、ここでは、2010年
 の台湾のデータをそのまま横スライドしてここ
 に入れております。ですから、図では6万1,000
 人ぐらいになっております。すなわち、4年間
 で2万人近く減少しているというわけです。

この年でも、やはりオーストラリア、イギ
 リスへの留學生が多くなっておりまして、日本
 は7位か8位。2019年ぐらいで全体の7位と聞
 いておりますが、このように、マレーシアの留
 學生が毎年減っていく中で、日本への留學生は、
 少しずつでありながらも増えているというのが
 マレーシアの状況でございます。



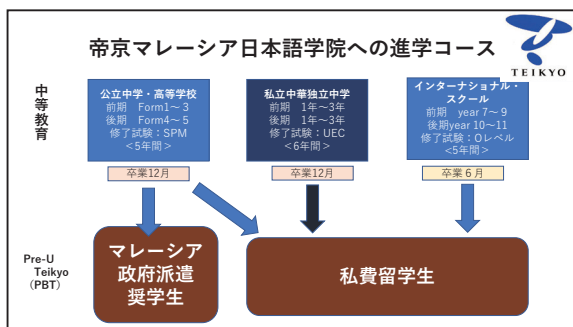
次に、マレーシアの教育制度でございますが、先ほどAAJのジャミラ先生が、御説明になりましたけれども、こんな形になっておりまして、中等教育に公立学校、私立中華独立中学、それからインターナショナルスクールと大きく三つに分かれております。そのほかにも、ホームスクール、あるいは飛び級というのがありますので、なかなか日本人では理解できないところがございます。

公立中学の場合は、中等教育は5年間、修了試験がSPMと呼ばれるもの、先ほどの御説明にございました。

私立中華独立中学の場合は修了試験がUECと呼ばれるもの。ここは特殊で、6年間の中等教育。日本と同じですね、6・3・3という形になります。

インターナショナルスクールは、5年間の教育期間で、修了試験はOレベル（オーレベル）とかIGCSEと呼ばれる試験になります。

それぞれ卒業年月日も少しずつ違っております。インターナショナルスクールは6月になります。公立中学の場合は卒業後、大学準備教育課程に入りまして、1年から2年の教育を受けて大学に行きます。私立中華独立中学の場合は、マレーシアの国立大学には進学できませんでして、国内の私立大学か海外の大学へ行く。インターナショナルスクールは、大学準備教育として高等教育機関、大学のほうに行くという、こういった大きな違いがございます。



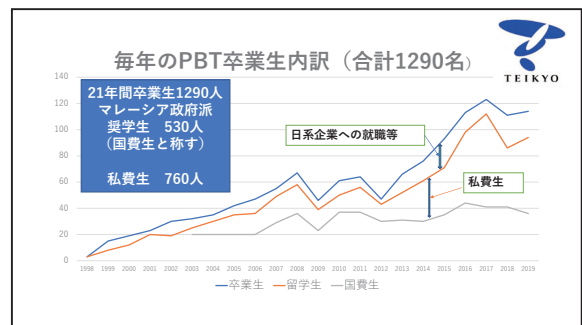
私どもに入ってくる生徒は、こんなルートですね。公立中学高等学校のマレー系の優秀な人は、マレーシア政府派遣奨学生として、私どもに入ります。そのほか、公立中学高等学校で、中等教育を受けた中で優秀な人は私費留学生と

して入る。私立中華独立中学、インターナショナルスクールからも入ってくるという、こういったルート入学してきます。私どもはマレーシア政府派遣奨学生と私費留学生の二つのコースがございます。

修了試験	卒業学校	
SPM	公立学校	Sijil Pelajaran Malaysia マレーシアの国立大学もOK
UEC	中華独立中学	マレーシア国立大学には入学できないが、私立大学、海外の大学はこの試験結果を用いる
O-レベル、IGCSE	インターナショナルスクール	IGCSE イギリス国際中等義務教育国家資格試験 Oレベルはほぼ同じ

ここに簡単にまとめました。修了試験、この修了なのか、終了のほうか、ちょっと迷いましたけれども、公立学校の場合は、SPMと呼ばれるもの。中華独立中学はUECと呼ばれるもの、インターナショナルスクールはこういったOレベル（オーレベル）、IGCSEと呼ばれる試験を受けて入学してまいります。

これからは帝京マレーシアの生徒の推移について簡単に御説明したいと思います。



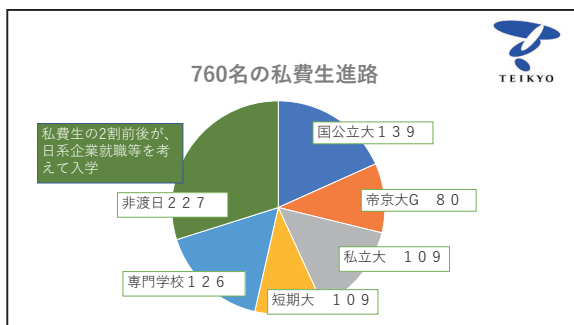
ここに毎年のPBTと書きましたけれども、帝京マレーシア日本語学院は、Pusat Bahasa Teikyoとマレー語でいいまして、その省略形としてPBTという名前を使っております。

1998年に最初の卒業生が出ましたけれども、そこから2019年までの21年間で、一、二年でトータル1,290名の卒業生が出ております。

この灰色のところはマレーシア政府派遣奨学生（我々は国費留学生と呼びますが）、ブルーのラインが卒業生の合計でございます。それまでで奨学生として、トータル530人が卒業いたしました。

す。私費生は760人が卒業いたしました。毎年、当校に入っている生徒の1割から2割ぐらいは、日本の大学に進学を希望しない。当初から、日本語だけ勉強して、日系企業へ就職するという学生がおりますので、2割ぐらいが日本の大学には行きません。

昨年特に顕著でしたが、経済状況の悪化によって、日本の大学に御家庭から授業料が支払えないため、日本の大学に進学を諦めた学生も出てきております。



これが当校の760名の私費生全体の進路になります。国公立大学にトータル132名、帝京大学グループに80名、ほかの私立大学に109名という内訳です。帝京マレーシア日本語学院という名前にはなっておりますけれども、実際に帝京大学グループへ進学する私費生は、全体の1割ぐらいしかおりません。

外国の大学の留学生の獲得戦略について、簡単に私が理解しているところを紹介したいと思います。



クアラルンプールに循人（ツンジン）中学という日本で言えば高校に当たる学校があります。マレーシアの中でもトップテンに入る進学校でございます。この写真は2018年循人（ツンジン）中学の入り口のボードでして、私が写真を撮っ

てきたものです。学校の卒業生は毎年330人くらいだそうです。そのうち、海外に留学する学生が150人、ここには260名の顔写真が入っております。留学に合格した大学、黄色の冠がついているのが奨学金をもらった大学です。260名の合格者の中で、奨学金を受けた学生は120名です。ここをよく見ますと、中国へ進学した人は62名、マカオが22名、台湾が21名です。

先ほどの2010年と2014年のマレーシア人の留学先であったイギリス、オーストラリアを見てみますと、イギリス3人、オーストラリア3人、アメリカ1人で、日本にも、真ん中あたりに日本の立命館アジア太平洋大学が1名となっております。

中華独立中学全体ですけれども、最近では、優秀な学生は、授業料免除、食住無料という、そういう奨学金をもらって中国の大学に進学しています。私の経験では2017、18年頃から始まった傾向でございます。

中国 大学の戦略（2018年頃から）

募集方法
 ・ UECの結果+面接試験（在馬ホテル或いはオンライン）
 UECの結果がA（9～11個で北京大学）
 一部の独立中学 校長に一任（UECの結果、30人ほど決定）
 奨学金 合格時に授業料免除+生活費がわかる

台湾も同様 但し 奨学金は授業料免除相当
 国立台湾大学はUEC+書類選考

2018年 当校からも成績優秀者2名が退学→北京大学

中国の大学の戦略、今やっていることなんですけれども、まず、募集方法は、中国の大学などで中華独立中学校を中心に応募をかけているようです。合否判定はUEC、修了試験の結果及び面接試験だけで決定します（中華独立中学2校からの情報です）。彼らはマレーシアに来て、ホテルで面接するか、あるいは昨年のような状態ですとオンラインで面接して、それで結果を出します。中国へ試験を受けに来いというようなことはございません。

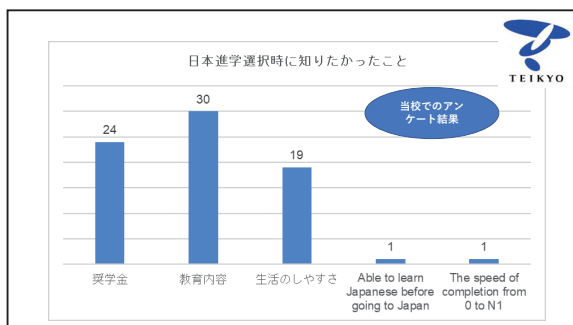
これは、ツンジン中学に聞いた話ですけれども、例えば、UECの結果で、Aが9個から11個あれば北京大学に進学できるそうです。ほかの独立中学に聞いたところによりますと、校長に一任でUECの結果で30人ほどを決めていただ

けないかと言われているそうです。当然、奨学金は授業料及び生活費を支払いますということだそうです。私が、日本の大学に進学する生徒はいませんか？とお聞きすると、じゃあ、何人で幾ら奨学金を頂けますかというのが、その独立中学の校長先生のお返事でした。

また、台湾も合否判定は日本と比較して簡略化されています。奨学金は授業料免除相当だそうです。受験の合否は、国立の台湾大学では、UECの結果及び書類選考で、面接試験も筆記試験もないとのことでした（ツンジン独立中学）。

この傾向が始まったのが2017、18年頃だというのがなぜ分かるかと申しますと、私は2017年2月にこの学校に赴任しまして、3月に各学校へ留学生の状況を聞きに行きました。その時お伺いした二つの中華独立中学からは、卒業生は中国ではなくて台湾に行くんですよというお話でした。2018年に改めて、中華独立中学へ生徒の進学状況を聞きに行くと、いや、もう中国なんだと。奨学金をたくさんくれるし、生徒はみんなそちら側に行きますよという説明でした。

また、2018年に当校に入学した非常に優秀な成績の2名が、途中で退学して、北京大学に進学しています。2名とも日本に行きたいということだったんですけれども、御両親から見れば、授業料が完全免除で生活費がフルで支払われるということであれば、日本の大学に行く必要はないということで、2名、6月に退学して北京大学へ進学しております。



これは当校のアンケート結果なんですが、日本を進学に選択、日本に行こうと思ったときに知りたかったことは何ですかという質問への回答です。まず一つは、先ほどのように、奨学金であり、もう一つは教育内容がよく分からない

ということなんです。日本でどんな教育がされているのか、どういうことが学べるのかというのが、ほとんど分かってない。



これは、マレーシアの海外大学の分校です。三つだけ写真を載せました。モナシユ、バッキンガムと中国のシャーマン大学です。

独立中学の先生とお話をすると、日本の大学の教育内容が全く分からないので心配で行かせられないというようなことをおっしゃるんです。他の国の学校というのは、分校がマレーシアの中にございまして、その分校の授業内容からその国の大学の学科内容が想定できるということで、日本の大学の説明が不十分だよねというのが、彼らの言い分でした。

以上で大体言いたいことは終わったんですけれども、最後にまとめとして、日本の大学の課題とメリットということで、私が見聞きした点からまとめたいと思います。

日本の大学の課題とメリット (私の認識)

課題

- 合否判定時期 EJUの結果→修了試験 (SPM,UEC等)の結果
- 奨学金 額と時期 JASSO (明確)、大学の奨学金 (不明)
- 大学の教育内容が不明
- 卒業後の活躍の場

日本のメリット

- 770の大学で多種多様な教育が可能
- 先進国で留学生に大学卒業後、残ってほしいという国は日本、カナダだけ。

まず、日本の大学の課題といたしましては、合否判定時期が、中国、他の大学と比べると遅いことです。日本の大学はEJUの結果を基にして合否判定されていますが、修了試験、SPMとかUECの結果で一時的に決めてしまっていて、あと日本語がしっかり勉強できれば入学させられることができると、マレーシアの学生にとって

日本進学ハードルが低くなると思います。

二つ目は、奨学金ですね。額と時期がなかなか分かりにくい。JASSOさんの奨学金については、金額と時期が明確なんですけれども、大学からも奨学金が出るんですよというお話をすると「そうか」と。でも、その基準と、幾らなのか、いつもらえるのか、そういったところが非常に分かりにくくなっています。調べれば出てくるんですけれども、生徒にとってはなかなかそこまで調べ切れないというようなことでございます。

それから、大学の教育内容が不明というのは先ほど申したとおりです。私のほうでは、日本には700以上の大学と3,000を超える専門学校があるので、何をやりたくても日本で教育はできるよという説明をするんですけれども、何しろ近くに具体例がない、あるいは、日本の大学にも来ていただいているんですけれども、なかなか説明が学生、高等学校まで浸透しないということで、「行きたいんだけどよく分からない」というのが、高等学校の先生あるいは御両親の気持ちです。

それから、卒業後の活躍の場、これもよく聞かれる質問です。「卒業してどうなるんですか」という質問ですね。

実は、その下にメリットを書きましたけれども、先進国で留学生に、大学卒業した後、残ってほしいという国は日本とカナダだけだと聞いています。オーストラリアもイギリスも、外国人には「是非私の国に留学してください、こちらで勉強してください」と積極的にPRしています。しかし、卒業したら、じゃあ、母国へお帰りくださいという仕組みなわけです。その中で、日本はこれだけ大きな産業構造を持った国なのに、安倍首相自ら、日本に残ってほしいと発言されていました。これは留学生にとって、大変大きなメリットです。

当校に入学する生徒の親御さんからも、日本以外の国は、大学を卒業した留学生は基本的に母国に帰れと言うんですよと聞いています。留学生の皆さんに留学先の国に残ってほしいという発言をしている国は、本当にないんだと思います。この辺りの日本の受入れ体制、卒業され

た卒業生が、どんなところでどう活躍しているのが見えるようになれば、もっともっと優秀な人が日本の大学に進学したいと思うんじゃないかなと思っています。

ご清聴
ありがとうございました

以上、短いですが、私の簡単な認識も含めまして御説明いたしました。御清聴ありがとうございました。

(江口) 大野先生、ありがとうございました。

これもちまして、第2部のほうを終了させていただきます。先生方、どうも御発表ありがとうございました。

第3部 九州大学における国際アドミッションの 現状と課題

工学部

九州大学工学研究院教授 松村 晶



九州大学工学研究院教授 松村 晶

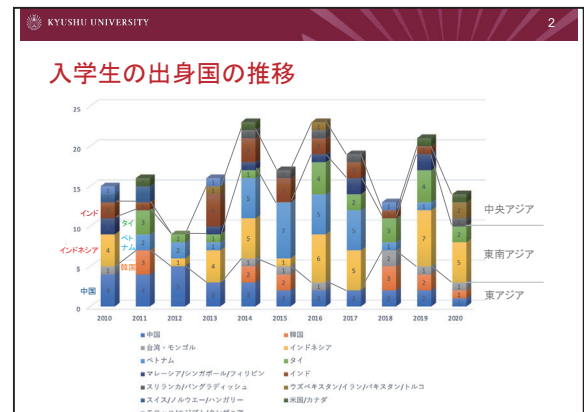
九州大学におきましては、スライドの1ページ目に示すように2010年にグローバル30に採択されて、私の発表の後に農学部の土居先生からも御紹介がありますけど、その年に工学部と農学部が同時に、全て英語のみを用いて4年間の学士課程の教育を行う学士課程国際コースを開設いたしました。

開設当初は応用化学、建設都市工学、機械、それから航空宇宙工学の四つのコースでしたけれども、2017年に機械と航空が一つのコースにまとまると同時に、電気情報工学が加わって、より広い分野の教育コースになって現在に至っています。

九州大学における国際アドミッションの現状と課題
工学部
国際コースの留学生獲得の現状と課題

九州大学工学研究院
松村 晶, 田村 美香, 田中彩果

九州大学webinar100-国際シンポジウム
「アジアからの高大接続-国際アドミッションにおける日本語教育と予備教育」
2021年03月15日(月)



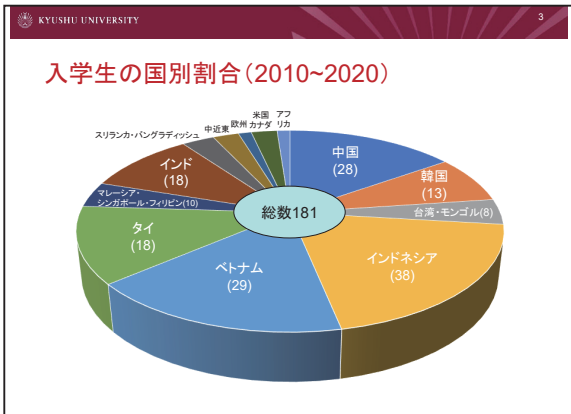
(松村) 皆さん、こんにちは。九州大学工学部、工学研究院の松村といいます。国際担当の副研究院長を拝命しております。よろしくお願いいたします。

2ページ目にこれまでにどういう国から留学生が来たかという変遷を示します。なかなか分かりにくいですが、グラフの下の方が中国や韓国などの東アジア地域です。それから真ん中付近がインドネシア、タイなどの東南アジア、それから一番上がインド等の中央アジアの地域になります。全体としては、インドネシアは結構多く、東南アジアからの留学生が多いという傾向があります。

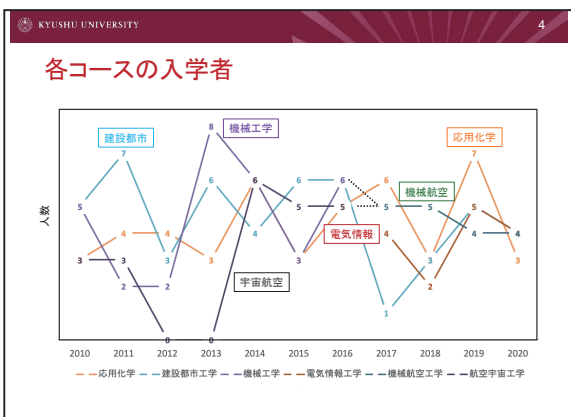
1

工学部学士課程国際コース

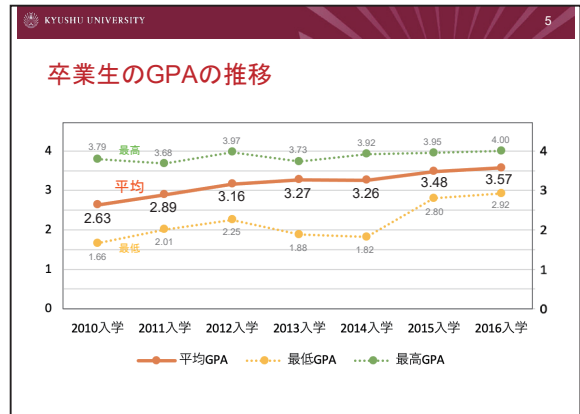
- ✓ 2010年4月: 文科省「国際化拠点整備事業(グローバル30)」を開始(本学を含めて全国13大学)
- ✓ 2010年10月: 農学部とともに全ての教育を英語で行う「学士課程国際コース」を設置
応用化学, 建設都市工学, 機械工学, 航空宇宙工学の4コース
- ✓ 2017年10月: _____
応用化学, 建設都市工学, 機械航空工学, + 電気情報工学



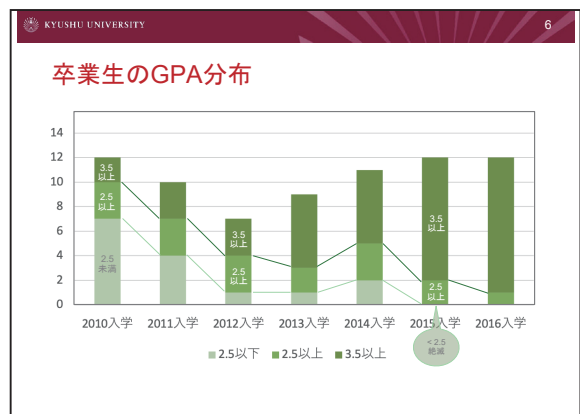
3 ページ目の円グラフでこれまでの11年間の総数の割合を示していますが、先ほど申し上げましたように、インドネシア、ベトナム、タイという東南アジアが半分ぐらい、中国、韓国、東アジアが1/4ぐらいで、それ以外が残りの約1/4といった割合です。



4 ページ目に各コースの毎年の入学者数を示しますが、全体で20名ほどのコースですので、毎年それぞれのコースの人数は数人程度しかおらず、これを見ていただくとわかるように、乱高下というかその都度揺らいでいます。宇宙航空は2年間にわたって入学者ゼロということもありました。先ほど申しましたように、2017年に機械と航空のコースを一つの機械航空コースにまとめて、その年に電気情報がスタートしています。特に4コースで大きく特徴が異なるということなく遷移しております。



5 ページ目が、その受け入れた学生さんの卒業時の GPA、成績の推移ですが、見ていただくとお分かりのように、この10年間にわたって全体に右肩上がりに推移をしています。当初は平均で2.63程度、3.79が最高で、1.66が最低でした。最高値は学生個人の努力次第のところ強く、そのような勉強熱心な学生が一人でも居るかないかで決まります。一方、平均値はグループの特性をより強く表しており、年々上がって昨年は3.5を上回りました。このときの最高点は全てが満点の4.00を達成しており、ちょっと驚きます。それから最低のレベルも、大体右肩上がりということで、これから年々学生の成績が上がってきているということがわかります。



6 ページのグラフが、成績の分布です。3.5以上、2.5以上、2.5未満に分けていますが、最初の頃は分布に広がりがありましたが、2.5未満の割合が年々減少していき、ここ2年の卒業生には2.5未満の学生がいないという状況に至りました。大半が3.5以上という GPA からすると修学成績が開設当時から比べて、非常に上がってきているということがわかります。

それは、今日の話題である留学生のレベルが上がってきていることを端的に示していると言えませんが、一方で、こちらがオファーしているカリキュラム自体が、当初の頃に比べて学生が優秀になってきたために相対的に平易になってきており、少し内容のレベルアップをすべきなのかな、というような点を表しているのかもしれない。10年が経過してそろそろカリキュラムの内容について検討する時期に来ているように思います。どちらにしても、優秀な学生の獲得に今のところ成功しているのではないかということ、このグラフは物語っていると思います。

KYUSHU UNIVERSITY 7


リクルート活動(～2019)

➢ 現地学校訪問・ガイダンス

- 毎年、教員+事務職員で東アジア・東南アジアの6カ国・30～40校への
- 訪問校は、各国のトップサイエンススクール、有名高校、過去に入学実績があるインターナショナルスクール等
- 九大現地オフィスや在校生の協力を得てプロモーションを実施

➢ JASSO日本留学フェア

- 入学者が多い国への積極的参加



台北市立第一女子高級中学校(北一女子)(台湾のトップ女子高校)の理系特別クラスでのコース説明

そのような優秀な学生の獲得のために、7ページに示すように、私どもとしても専門の教員と職員を配置して、6カ国の30から40の学校に赴いてガイダンスするなど、それなりに努力はしております。訪問先も、九大の現地オフィスや出身の在校生の協力を得ることで、優秀な学生が多くいるスクールを選んでおります。それから、JASSOの日本留学フェアというのも可能な限り利用してきました。このような現地に赴くリクルート活動は、コロナが発生する前の2019年まで行っておりました。

KYUSHU UNIVERSITY 8

広報物



ポスター(A3)



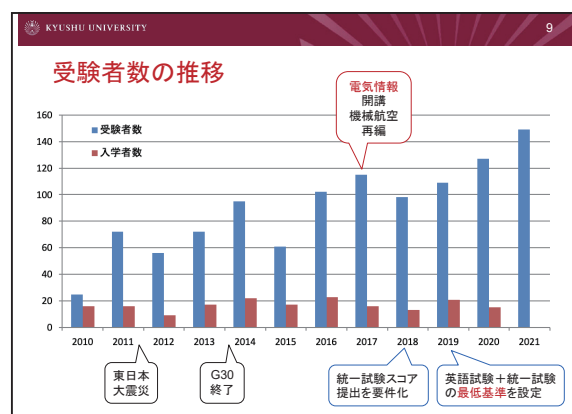
パンフレット(B5)



学生制作ニュースレター(B5)

ウェブサイトでの情報を充実して、小型の冊子類を広範に配布

実際にどういうふう宣伝しているかということですが、もちろん8ページに示すようなポスターやパンフレットを準備していますが、今の時代ですのでウェブサイトでの広報を充実して、パンフレットはなるべくコンパクトにして数多くを配布することに重点をおいています。



これまでの受験者数の推移を9ページ目のグラフで示します。青い棒が受験者数で赤い棒が入学者数になります。2010年から開始して、翌年には数日前に10周年を迎えました東日本大震災が起こったり、スタート事業だった文科省のグローバル30のプログラム支援が2013年度に終わったり、いろいろと状況の変化がありました。2017年にはコースの再編を行い、その翌年には入学試験にいろいろと数値的な条件を付加するようになってきましたが、幸いに受験者数はこのように全体的に増えてきており、その中から優秀な学生を選抜することができている状況がうかがえます。

10

リクルート活動 (2020年以降: コロナ禍)

- 農学部と共同でプロモーション
 - 農工
- JUC (Japan University Consortium) 加盟
 - 現在国際コースを持つ15大学で構成
 - 毎月イベント開催
- 中東・北アフリカへの活動展開
 - J-MENAオフィス、カイロオフィス、アンカラオフィスの協力
 - J-MENA Platform
- APUとの連携によるオンライン・ウェビナー
 - 新たな地域への活動拡大
 - Shape your world APU Ritsumeikan Asia Pacific University

残念ながら昨年からの新型コロナ禍によって、先ほど申しましたように現地に赴くというリクルート活動ができなくなってしまいましたので、この後に農学部の土居先生からも御紹介があると思いますが、なるべく効率よくプロモーションを行うために、農学部と共同で活動したり、我が国の大学コンソーシアム (JUC) に加盟することによって、そこが実施している毎月のイベントで広報する、それから海外オフィスの協力によって広報活動を行っていただくなどで対処しています。さらには、別府市にあります立命館アジア太平洋大学、あそこはどちらかというと文系の大学ですので、そういった意味では工学部とは競合しませんから、APUが行っているウェビナー等を利用していただくことによって、今まで行ってなかったような地域での広報活動を拡大するということが昨年から進めております。

11

入学試験選抜

1次試験: 書類審査

- 基礎学力(統一学力試験スコア)
- 英語運用能力試験のスコア
- 高校の成績
- 志望動機(エッセイ)

最低ラインを設定

2次試験: オンライン面接 国際教育支援センターの外国人教員(司会) コース専任教員(2-3人)

- 専門知識と学力
- 論理的思考・説明能力
- 英語での説明能力
- 人柄
- 志望動機

入学試験については先ほどから少し話題になっていますが、11ページに示すように、工学部では一次試験と二次試験の2段階で進めており、一次試験では書類審査をおこなっています。

先ほど申しましたように、学力試験並びに英語能力試験についての最低ライン、最低基準を設けています。それで選考した学生については、次に2次で面接を行いますけれども、オンラインでコースの専任教員と外国人教員を含めてやっております。二次試験では主に人柄というか、説明能力とか、そういった実際の人間力というものを判定することになります。

12

統一学力試験・英語能力試験の最低基準

統一学力試験

コース	科目	試験
電気情報工学	数学・物理	EJU, SAT科目テスト GCE-ALレベル, IB-High
応用化学	数学・化学	
建設都市工学	数学・物理/化学	EJU, SAT科目テスト
機械航空工学	数学・物理	

基準スコア SAT科目テスト: 数学2と化学/物理の合計スコアが1350以上
GCE-ALレベル: 数学と化学/物理の組み合わせがB-C/C-B以上
IB-High: 数学(HL)と化学/物理(HL)の組み合わせ5-5以上

英語運用能力

試験	基準スコア
TOEFL iBT	80 以上
IELTS	6.5 以上

中等教育で4年以上、英語で教育を受けた受験者はスコアの提出を免除

各コースでは12ページの表に記した統一学力試験を判定に使っており、ちょっと数字が小さいですけど、表の下に記したそれらの基準レベルを設けることによって、優秀な学生を選抜しています。それから英語についても同様にスコアの基準点を設けております。

13

基礎学力の高い入学者の選抜

2019年 入学生	英語検定		SAT成績			現状 GPA
	TOEFL	IELTS	数学2	物理	化学	
A	8.0		800		800	3.91
B		7.0	800	800		3.88
C		7.5	800		800	3.82
D	91		800	800		3.75
E		7.5	800	800		3.75
F			800		800	3.74
G			790	800		3.73
H		7.5	770	710		3.73
I			720	720		3.66
J		6.5	770	800		3.65
K		8.0	740	660		3.63
L		6.5	800	800		3.42
M		6.5	790	800		3.27
N		7.0	750	700		3.14
O	81		780		760	3.04

これらの統一試験の入学時のスコアと入学後のGPAや就学態度を比較すると、13ページの表を見ると分かりますように、非常にいい相関関係が見られます。

KYUSHU UNIVERSITY 14

学生獲得の主な課題

- ▶ 海外のトップクラス大学(米国、欧州、シンガポール、香港などの大学)や国内の旧帝大系(東大、京大、東北大、名大など)との競合
- ▶ 大学のランキング、条件のいい奨学金の有無は選ばれる上で重要なポイントになっている
- ▶ 特に優秀な学生は大学の研究内容を重視する傾向にある

もちろん、九州大学への入学を志望するといっても、優秀な学生さんはほかの海外のトップクラスの大学や、日本でも主に東大等の大きな大学と志望を兼ねるといようなことがございますので、そういった他大学との競合において、大学のランキングだとか奨学金といった条件は、留学生が進学先を決める大きなポイントになろうかと思えます。

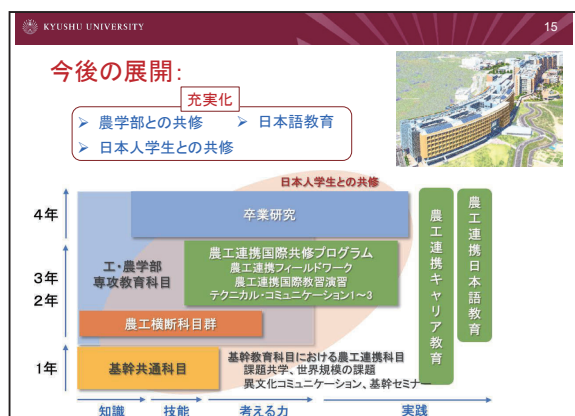
もう一つは、優秀な学生は大学でどういう教育を受けるのか、またそこでの研究内容というものを非常に意識していますので、こういうところについて、九大の特徴というのをより鮮明にしていく、高度にしていくということは非常に重要であると考えております。

来日して4年間を日本で生活する訳で、その意義を高めてもらい将来につなげていただくための日本語教育、さらには日本人学生との共修、これは留学生だけではなくて日本の学生にとっても非常にいいことでありますので、こういった3点を今後充実していくために新たなカリキュラムを制定していく予定にしています。

以上、「九大の工学部国際コースのアドミッションに関する現状と課題」についてご紹介いたしました。どうぞご静聴ありがとうございました。

(江口) 松村先生、どうもありがとうございました。

(松村) どうもありがとうございました。



最後に、今後の国際コースの展開についてですが、これについてもこの後に土居先生から農学部に関する御説明でも触れられると思います。幸いにして来年度からの国費留学生の枠が認められました。それに当たって、ちょうど工学部と農学部が、この新しい伊都キャンパスで建物で隣同士になり物理的に近接しましたので、農学部と一緒に共修すること、それから、折角

農学部

九州大学大学院農学研究院教授 土井 克実



九州大学大学院農学研究院教授 土井 克実

(土居) 農学研究院の土居と申します。よろしくお願ひします。このような紹介の場をいただきまして、誠にありがとうございます。

九州大学教育学部 国際シンポジウム
「アジアからの高大接続→国際アドミッションにおける日本語教育と予備教育」

九州大学における 国際アドミッションの 現状と課題 ：農学部国際コース の事例

農学部国際コース長
土居 克実

2021/3/15

私は、先ほど松村先生から御紹介いただいたように、工学部と農学部がG30プログラムで、この英語の国際コースを始めたときから、しばらく関わって、その後ちょっと離れて、去年から国際コース長を拝命しております。開始から10年たちますので、この10年のまとめと今後の課題、展望等を御紹介させていただきます。

農学部における 国際アドミッションの 現状について

TUP - Bioresource and Bioenvironment 2021/3

まずは、国際アドミッションにおける現状について御紹介いたします。

Admission Condition

- 工学部国際コースとはほぼ同等な条件
- 数学、科学（物理、生物、化学、地学）中2つを選択：多くの学生が生物や化学を選択
- Standardized Test：EJUその他、各種同等割合の構成
- English Score：TOEFL iBP 80、IELTS 6.5程度

	Engineering	Bioresource and Bioenvironment
Application Form	⊙	⊙
Receipt of Payment of Screening Fee (310,000)	⊙	⊙
Official High School Transcripts & Graduation Certificate	⊙	⊙
Score Report of a Standardized Test	EJU, SAT, GCE-A Level, IB, etc.	EJU, SAT, GCE-A/AS Level, CSAT of South Korea, or IB
English Proficiency Test	TOEFL or IELTS	TOEFL/TOEIC/IELTS/Cambridge ESOL Examinations

志願者のStandardized Testの構成(2020)

TUP - Bioresource and Bioenvironment 2021/3/15

まず最初に農学部の受験の条件です。これは工学部の国際コースとほぼ同等な条件になります。この下の左のほうの表に示しておりますように、工学部と農学部で二重丸がついているところは同じです。丸の色が違うところが農工で違うところなんです。まず科目としては、理系科目でありますので、数学、そして科学の中には物理、生物、化学、地学のうち2科目を選択するというふうになっています。

農学部の場合、どうしても生物と化学を選択する学生さんが多いことが特徴です。そして、Standardized Test—標準テストは、EJU, SAT, GCEのAもしくはASレベル、そしてCSAT、そしてインターナショナルバカロレアというところから選んで受験することができます。

そして、英語のスコアですが、英語のスコアも基準点というか、足切り点はございません。大体、先ほど松村先生にお話しいただいたように、TOEFL IBTで80前後、そして、IELTSで6.5程度は必要かなと思っています。なぜならば、これは全て英語で行うクラスですので、英語力はある程度担保しておかないといけないと思います。

2020年度の志願者の Standardized Test の構成は、ほぼSATとGCE、IBが大体同じぐらいの割合というのが現状です。

Admission Condition

<日本国籍者の受験>

- 大学入学共通テストの受験者を対象

<受験状況>

- 2018からスタート
- 2018～2020年度受験、各年1名の志願有
- 2020年度初めて最終合格者（登録せず、一般コース入学）

◆ Admission Types and Application Documents

Admission Type	Eligibility and Application Documents
<p>IUP School of Agriculture</p> <p>Total Quota: 10</p> <p>Application Instructions</p>	<p>Students who take the Japanese University Entrance Examinations 大学入学共通テスト受験者</p> <p>1. □ Application Form (Download from our website)</p> <p>2. □ 令和2年度大学入学共通テスト成績請求書</p> <p>3. □ 請求書</p> <p>4. □ 英語能力試験の成績証明書 (TOEFL, TOEIC iLR, IELTS, ケンブリッジ英検, GTEC, 英検)</p> <p>【センター試験科目科目】</p> <p>□ 数学: 「数学I・数学A」必須</p> <p>「数II」選択、「簿記・会計」、「情報処理基礎」から1科目</p> <p>※注: 「数II」選択、「情報処理基礎」選択する場合は、高等学校2科目程度相当の科目において、2科目科目を履修し、1科目又は2科目科目の認定を受けた人等が受験資格を有する(課外)に限り、</p> <p>□ 理科: 物理・化学・生物・地学から2科目</p> <p>□ 外国語: 英語(リスニングを含む)</p>

そして、工学部と1点違うところといたしましては、我々がずっと課題と考えていたのは、日本人学生との共修をつくって、今回のシンポジウムの話でもあります日本式の学習を受けた学生と国際的な学生の共修の場を提供したいということで、日本国籍を持った方で大学共通テストを受験した人を対象とした、タイプAと我々が呼んでいる受験制度がございます。これは、大学入学共通テストを受けていただいて、その成績を出して、国際コース、留学生と一緒に学ぶ日本人、日本国籍を持って日本の高校を卒業した学生が入るといったものです。

2018年度からこのプログラムを始めまして、毎年1名は志願者がございます。2020年度に初めて最終合格者が出たんですが、その方は、同じ九大農学部に入っていたいたんですけれども、一般コースのほうに入っていたいて、日本の高校を出て国際コースに入ったという例はまだ出ておりませんが、近々こういう人も出てくるのではないかと期待しています。

Applicants : Where the applicants come from?

- 2010～2020 志願者: 27か国、176高校、211名
- (ベトナム) HANOI - AMSTERDAM HIGH SCHOOL FOR THE GIFTED (12名)
- (インドネシア) SMA SANTA URSULA BSD (5名)、SMA SANTA URSULA (4名)、MAN INSAN CENDEKIA SERPONG (4名)

The nationality of applicants' school / 志願者の出身高校の所在国	School Numbers / 学校数
中国 China	38
日本 Japan	17
韓国 South Korea	11
インドネシア Indonesia	28
タイ Thailand	13
ベトナム Viet Nam	11
台湾 Taiwan	10
アメリカ USA	7
その他 others	9

The nationality of applicants' school / 志願者の出身高校の所在国

では、志願者はどこから来ているのかというと、工学部の松村先生の御説明と同じような説明なんですけれども、農学部の場合は、これまで10年間に27か国、176の高校から211名の方が志願しています。左の下の表ですが、この表の中には、各国で何校の高校から受けたかというのを表しています。中国は38校ですが、インドネシア28校、日本17校というふうになっています。

そして、特徴的なのは、例えばベトナムのハノイにありますアムステルダム高校からは、12名の方が出願されています。インドネシアもSMA サンタウルスラ BSD の高校から多くの受験生が受けています。この右側の円グラフが、その志願者の出身高校の所在を示していますが、大体東南アジアに今のところ、かなりの割合の出願者がいることが分かります。

Enrolled Students : Where the students come from?

- 2010～2020 入学者: 13か国、59高校、75名
- (ベトナム) HANOI - AMSTERDAM HIGH SCHOOL FOR THE GIFTED (5名)
- (中国) NORTHEAST YULCAI FOREIGN LANGUAGE SCHOOL (5名)
- (インドネシア) SMA SANTA URSULA BSD (4名)

The nationality of enrolled students' school / 合格者の出身高校の所在国	School Numbers / 学校数
中国 China	11
日本 Japan	5
韓国 South Korea	6
インドネシア Indonesia	12
タイ Thailand	6
ベトナム Viet Nam	6
台湾 Taiwan	5
その他 Others	8

The nationality of enrolled students' school / 合格者の出身高校の所在国

これは、出願ではなくて合格者の所在、出身校を示しています。中国、インドネシア、ベトナム、そして韓国などが多いのですが、中でも、先ほど申しましたハノイのアムステルダム高校からは8名の合格者、そして中国では、東北育

才学院から5名、そしてインドネシアのSMA サ
ンタウルスラ BSD から4名の合格者が出ており
ます。このようにトータルでは13か国、59高校、
75名の合格者が出ております。これらの高校の
所在国もこのように非常に、東南アジアに限っ
てですが、多様性があると思われま

Promotion: How do they know us?

- (工学部合同) 在学生・卒業生の出身高校を訪問
→ Webinar, 出身校や地域の在学生が参加 (図1 & 2)
- (農学部) 日本人学生向けオープンキャンパスで出展
- APUとの合同Webinar (図5 & 6)
- JASSO, JUC, J-MENAでの出展 (図3 & 4)

図1. Indonesia - Penabur Fair (20/09/21)
図2. Philippines: Vinh Phuc High School for Gifted Students (20/12/21)
図3. The logo of J-MENA
図4. The logo of J-MENA
図5. The logo of APU
図6. APU合同Webinar for 香港

IUP... Bioresource and Bioenvironment 2021/3/15

これも松村先生の御説明がありましたので、簡単に説明しますと、工学部と農学部合同で、在学生や卒業生の出身国を訪問しています。先ほどの御紹介の中で、大学で何をしているか分からないというのは私たちも実感しております、それを解決するための一つの手段としては、今、我々の農学部のIUP、国際コースで学んでいる卒業生に、その高校にウェビナーで参加してもらって、自分は今こんなことをしているよとかいうのを紹介してもらっています。

そのおかげというか、今年の出願者の中でも、今、九大に在学している学生の卒業校から受けてくる学生さんもいるので、そういうことがこれから主流なると思われま

また、APUとの合同ウェビナーとかこれまでやってこなかった他大学、他学部との合同説明会などもやっております。また、先ほど申しましたように、日本国籍で日本の高校に学ぶ高校生をリクルートするために、日本人学生向けのオープンキャンパスに、農学部の国際コースを出展しています。

Students after enrolling

- 入学時の奨学金獲得可否が一つの目安
- しかし、Case 1と4のように在学中の成長も見られる
：卒業時には3.5/4.0以上の成績で卒業 (予定)
- IUPコース学生の多くはインターシップに興味がある
：国内外を問わず、研究機関がメイン

	Case 1	Case 2	Case 3	Case 4
国籍	USA	ベトナム	インドネシア	韓国
出身高校	日本・Fukuoka International School	ベトナム・Hanoi-Amsterdam High School for the Gifted	インドネシア・Sekolah Pelita Harapan Lippo Village	韓国・Hanyang High School
奨学金	九大奨学金	MEXT奨学生	九大奨学金	奨学金なし
在学中	・毎年成績向上 ・国内研究機関でインターシップ	・学年トップ成績 ・国内外研究機関でインターシップ	・トップクラス成績維持 ・SGU奨学金へ選抜	・毎年成績向上 ・九大奨学金獲得 ・FAO(インターシップ)に選抜
卒業後	九大進学	国外進学 (EU)	九大進学	国内進学予定 (東大)

IUP... Bioresource and Bioenvironment 2021/3/15

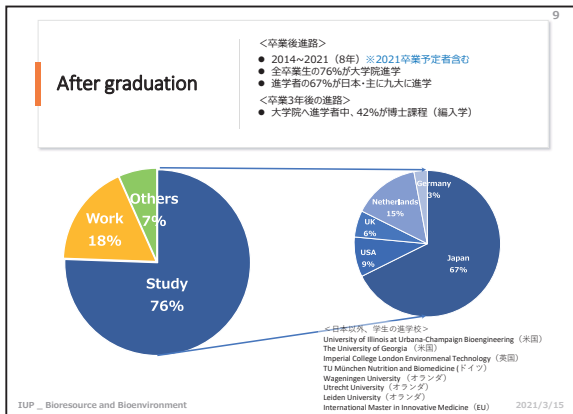
先ほどから、これも盛んに話題になっております奨学金の話です。奨学金の獲得の可否というのは、学生が入学したとき、入学時のレベルというか、合格の順位みたいなものですので、そこで何となくクラス分けができるのですが、ここに示していますケース1とか4のようなケースは、そこまで入学時期には成績がトップではない学生でも、入学後、一生懸命勉強していただいて、徐々に成績が上がっていくときに奨学金獲得のチャンスがある例を示しています。例えばケース1番の場合ですと、米国国籍で福岡のインターナショナルスクールを出た学生さんは、九大奨学金を取ったんですが、その後、年々GPAが向上しています。学部卒業後は九大の農学部の大学院に進学しています。

そして、4番目は韓国の高校生ですが、この方は入学時には上位の合格者ではなかったのに奨学金が得られなかったんですが、毎年毎年勉強を十分やっていただいて、成績が向上して最終的には九大の奨学金を獲得できるまでになりました。そして、我々としては大変残念なんですが、東大の大学院に進学することが決まっています。

そのほかにも、MEXTの奨学金を獲得した学生さんは、さすがにずっと学年トップの成績で来て、最終的にはEUの大学院に進学した例もあります。または、インドネシアの留学生は九大奨学金を得ていましたが、最終的にはSGUの奨学金を得るほどに学力がアップして、九大の大学院に進学するといった例がございます。

また、在学生のほとんどがインターンシップに興味を持っておりますので、我々としては、国内外、例えば基礎生物学研究所とかFAOのイ

インターンシップを勧めて、そういうインターンシップに多くのIUPの学生が参加しています。また、今年から海外インターンシップへの応募も勧奨しています。最終的には、卒業時の成績はGPA3.5から4ぐらいの非常に高い成績で卒業する学生が多くなっております。



卒業後の進路ですが、まだ8年目ですので、そう多くの例はないんですが、全卒業生の76%が大学院に進学しています。その大学院に進学している中の67%が日本、主には九大に進学しています。そして、卒業3年後、すなわち修士が終わった後どうしているかを調べましたところ、そのうちの42%が博士課程に進学していることが分かりました。日本以外の大学でどこに進学しているかという、アメリカのイリノイ大学やジョージア大学、オランダのヴァーヘニンゲン大学やドイツのミュンヘン工科大学、イギリスのインペリアル・カレッジ・ロンドンなど、優秀な非常に有名な大学に皆さん進学しているのが今までの結果です。

International Co-learning with Japanese Students

- ＜日本国籍学生の在学状況＞
 - 10～20%の日本人学生と同じクラス
- ＜日本人学生との共修環境＞
 - 同じクラス：農学部のみならず他学部も
 - 課外活動：学生会など活動、地域交流
 - 卒業研究：研究室メンバー

入学年度	男子学生*	女子学生*	全体入学者
2015年10月	1名	0名	1名
2018年10月	3名	1名	4名
2019年10月	1名	0名	1名
2020年10月	1名	1名	2名

*入学時二重国籍者含む

入学年度	日本高校	海外高校	全体入学者
2015年10月	1名	0名	1名
2018年10月	1名	3名	4名
2019年10月	1名	0名	1名
2020年10月	1名	1名	2名

＜International School in Japan＞

- FUKUOKA INTERNATIONAL SCHOOL
- LINDEN HALL HIGH SCHOOL
- OSAKA INTERNATIONAL SCHOOL OF KWANSEI GAKUIN
- TSUKUBA INTERNATIONAL SCHOOL

＜Abroad High School＞

- STOVER SCHOOL
- HARROW INTERNATIONAL SCHOOL
- BRITISH SCHOOL IN COLOMBO
- THE INTERNATIONAL SCHOOL OF PENANG UPLANDS

IUP_Bioresource and Bioenvironment 2021/3/15

日本人学生との共修ですね。日本人学生と共修させるのをどうしているかという、日本人、日本国籍を持った学生もある程度います。この左の下の表がそれですが、毎年1名以上の日本国籍を持った国際コースの学生がおります。この学生たちは、10%から20%ぐらいの割合で日本人学生と同じクラスに入っています。また、農学部ならず、このプログラムは工学部と非常に密接な関係があって、授業も相乗りしておりますので、工学部の授業も受けたり、そのほかの学部の授業を受けていた学生も多数おります。

また、この国際コースの学生さんたちは非常にアクティブな人が多いので、課外活動もやっておりますし、地域交流も盛んに行っています。農学部の場合は3年後期から研究室配属になっていますので、そうすると、日本人学生との共修は、必ず行われることになります。

日本人と日本の国籍を持った学生さんはどこから来ているかというのが、この下に書いてある表になっていますが、日本国内のインターナショナルスクール、もしくは海外の高校を卒業して九大の国際コースに入学してきています。



次は、アドミッションの課題と改善についてのお話をさせていただきます。

それともう一つ、私たちが考えていることは、

Issues and Initiatives in International Admission

【課題 Issues】
 ● 全世界から優秀な学生の誘致
 ● プログラムの多様性向上を加速

【Initiatives 1 取組み 1】 多面的アプローチによるコースの周知
 > Hybrid型プロモーション&リクルート活動
 ■ 工学部と共同でプロモーション
 ✓ 在学生・卒業生のWebinarへ協力：出身高校の訪問
 ■ JUC (Japan University Consortium / JUC) 加盟
 ✓ 国際コースを持つ15大学で構成 (2020年4月)
 ✓ 毎月イベント開催
 ■ 中東・北アフリカへの活動展開
 ✓ J-MENAオフィス、カイロオフィス、アンカラオフィスの協力
 ■ APUとの連携によるオンライン・ウェビナー
 ✓ 新たな地域への活動拡大

【Initiatives 2 取組み 2】 魅力あるプログラムの充実
 > 九大・農学部を中心としたネットワーク拠点化
 ■ 学内連携：農工連携国際共同プログラム ※工学部の発表にて紹介済み
 ■ 学外連携1：アメリカ・アリゾナ大学Dual-Degree Program
 ■ 学外連携2：3カ国（日本・タイ・フランス）の Collaborative Online International Lecture (COIL)



IUP - Bioresource and Bioenvironment 2021/3/15

我々、10年この国際コースをやってまいりまして、問題というか課題となるのは、全世界から優秀な学生を誘致して、国際的な優秀なグローバルリーダーを育成することが目的ですので、なるべく多様性を広げたい、そして、プログラム自体の多様性も広げたいということを考えています。その取組を幾つか御紹介いたします。

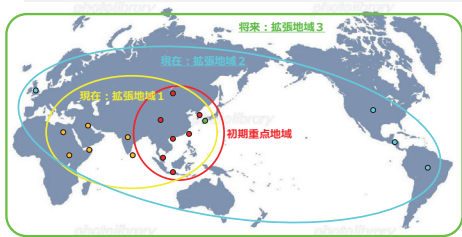
まず、最初の取組としましては、多面的アプローチによるコースの周知ですね。これは先ほどから松村先生にも紹介いただいているように、工学部と共同でハイブリッド型のプロモーションとリクルート活動を行っております。

そして、もう一つとしましては、魅力あるプログラムの充実としまして、これから説明させていただきますデュアル・ディグリー、そして、COIL 授業などがあげられます。

【多面的アプローチ：Hybrid型プロモーション&リクルート活動】

Multi-faceted Approach for getting the outstanding students

＜目的＞
 ● 優秀な学生の誘致を軸に、IUPコースの多様性を加速
 ● 九州大学からグローバルリーダー育成に貢献
 ＜方法＞ Hybrid型 Promotion & Recruiting
 > Offline：高校訪問、コース資料の郵送
 > Webinar：特定高校、各種ツアー出張、B&B独自イベント
 > 体制：専任教員やスタッフが事務の連携
 > IUP専任教員・部局国際推進室を活用したリクルーティング活動



IUP - Bioresource and Bioenvironment 2021/3/15

我々は、最初の目的地域というのは、やはり東南アジアだろうと。東南アジアを初期の重点対象国としてリクルート活動、誘致活動を進めてまいりました。ところが、受験生の出身国などを見てみると、だんだん広がっていている

ことが分かりました。現在は、アジア以外にアフリカ、中東、そして、北米、南米、欧州も視野に入れて、今、活動を行っているところです。

そしてまた、広報としまして、ハイブリッド型のプロモーションやウェビナーによる広報活動などを行っているんですが、この4月から部局に国際推進室を設置させていただきますので、その部局国際推進室とIUPの教員が共同してリクルート活動を盛んにしていこうと考えております。

そして、多様なプログラムの例として、デュアル・ディグリープログラム—DDP, これを御紹介したいと思います。

【九大・農学部を中心としたネットワーク拠点】

Dual-Degree Program (DDP)

九州大学 (KU) 農学部のIUPでは、2021年度からアメリカのノーザンアリゾナ大学 (NAU) と共同で「デュアルディグリープログラム」というプログラムを実施します。これは、4年間の修学期間で九州大学とNAUの学士号を取得できる国際的なアカデミックプログラムです。KUの休学や追加授業料は必要ありません。

★FIRST in Japan National University

日本の国立大学の中で、日本人学生だけでなく留学生にも開かれた体系的デュアルディグリープログラムを提供するのは、九州大学農学部が初めてです。



IUP - Bioresource and Bioenvironment 2021/3/15

アメリカのノーザンアリゾナ大学、この大学は非常に環境教育に力を入れておりまして、教育面も非常に優秀な大学です。我々、九州大学農学部は、この大学と我々の大学で二つの学位を取れる仕組み、デュアル・ディグリープログラムを実施します。今度の3月、国際交流専門委員会で御承認いただければ、このプログラムは実際走り出すんですが、このプログラムでは、4年間、アディショナルな学期が必要なく、4年間の修学期間で、九大農学部とNAUの学位、学士号が二つ取得できます。それを4年間で取るために休学も必要ありませんし、追加の授業料も必要ございません。

これは面接のときにすごく感じたのですが、多くの学生さんたち、本音はアジアの大学ではなくて、欧米や北米の大学に行きたいという人が多いのですが、やはり学費の問題等でなかなか実現できない。それを考えたときに、学費の安い日本に留学して、アメリカの学位を取れる

ということは魅力的ではないかと考えて、こういうプログラムを提供することを考えました。実際、面接時にこの話をすると、ほとんどの学生さんが目を輝かせて、ぜひ参加したいと言ってくれますので、取組としてはいいのではないかと考えています。

ただ、このプログラムはかなり難しいところがありまして、なかなか理系で、4年間で二つの学位を取るのには難しいと考えておりましたが、何とか農学部の方の御尽力もあって実現できることになりました。私たちが知っている限りでは、日本人学生だけではなく、留学生にも開かれた理系のデュアル・ディグリープログラムというのは、日本では多分、九大農学部が初めてじゃないかなと考えております。

参加した学生には非常に高評価で、来年も続けてほしいということをおっしゃっておりますので、我々はこのフードサイエンス以外の科目についても COIL 授業を展開していきたいと考えています。

以上で、農学部の10年の国際コースの歩みを簡単に紹介させていただきました。御清聴ありがとうございました。

(江口) 土居先生、御発表どうもありがとうございました。

【九大・農学部を中心としたネットワーク拠点】

Collaborative Online International Lecture (COIL)

タイ・カセサート大学、フランスAgricampus La Roqueと九州大学農学部が、フードサイエンスを対象として、食品の多様性、加工技術、安全性、嗜好性などをテーマに、3か国の学生が共同して各国の取り組みや問題点を議論する。

本科目を通じて、食に関する現状や問題点を理解するとともに、課題に対する多面的な理解や複眼的な思考力を習得する。

★FIRST in Kyushu University

15

2021/3/15

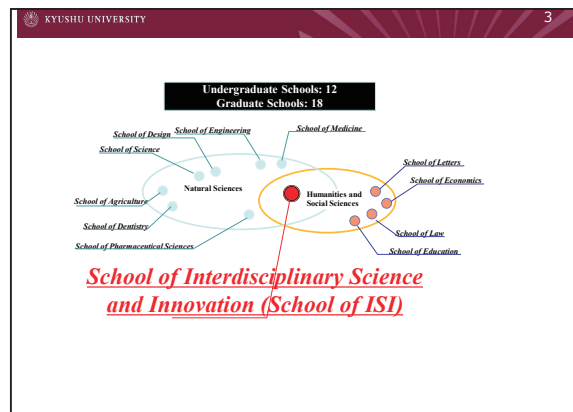
これも、九大では初めての試みだと聞いておりますが、COIL—Collaborative Online International Lecture—といいまして、九大農学部とタイのカセサート大学、そして、フランスのAgricampus La Roqueの三つの教育機関が、学生をオンライン上で交流させています。今年はフードサイエンスを対象とした食品の多様性、加工技術、安全性、嗜好性など、これは、タイと日本とフランスでは全く食文化も食環境も違いますので、この異なった環境に生活する三つの大学の学生がそれぞれチームを組んで、それぞれ調査をやって、いろんなディスカッションを通じて食に関する現状や問題点をお互いに理解する。そして、他の国ではどうやっているのかという多面的な理解や、どれが正解か分からない、いろんな考え方ができる、そういう複眼的な思考を習得するという目的で行っております。

共創学部

九州大学共創学部准教授 李 曉燕



九州大学共創学部准教授 李 曉燕



簡単にご紹介しますと、大学の学部は、文学部や法学部、経済学部などが文系、理学部や工学部、医学部などが理系というように分かれています。共創学部は、文系の学問と理系の学問とを統合した文理融合型教育を行っています。この文理融合型というところが共創学部の重要な特徴になっています。

九州大学における国際アドミッションの現状と課題

共創学部 留学生獲得の現状と課題

九州大学 共創学部 李 曉燕

共創学部紹介

大規模地球変動、生物多様性の減少、民族対立、テロ、世界規模の感染症……

われわれの直面する課題は、地球規模・人類規模である。

個別の学問だけでは、解決できない



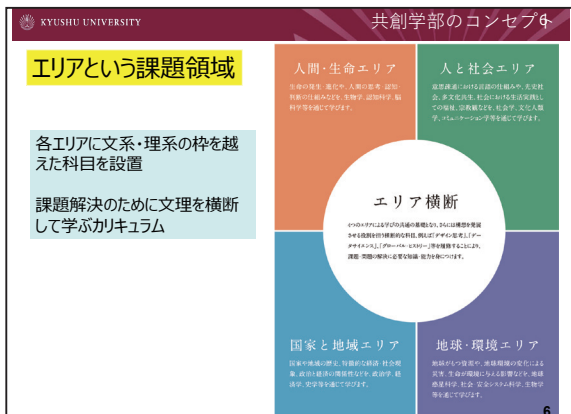
(李) 共創学部の李です。よろしくお願ひいたします。

皆さん、共創学部は2018年に九州大学で52年ぶりに設立された新しい学部です。今のところまだ卒業生が出ていなくて、3期生までしかいません。

共創学部の設立された背景についてですが、皆様もご存じのとおり、この世の中で私たちはグローバルな課題にたくさん直面しております。例えば、テロ問題とか民族対立とか、それから去年からのコロナ禍、世界規模の感染症ですね。こうした課題は、これまでのようにどれか個別の学問だけで解決することはできません。こういう背景の下で、文理融合の視野をもった課題解決力を育成する共創学部が設立されました。



共創学部の教育目標は、現代社会が直面している問題に対して、自ら課題を設定して、その解決に至るアプローチを構想し、異なる専門や知識を持つ多様な人々と協働して、海外留学を通じて得られる経験とあわせて共創のプロセスを繰り返すことを通じて、新たな視野、価値を生み出す共創の専門性を身につけた人材を育成することです。



この点についてちょっと詳しく説明します。例えば、専門科目も、従来のディシプリンベース、学問分野別の学部と違って、科目は4つのエリアからなっています。生物学、認知学、脳科学などを学ぶ「人間・生命エリア」、宗教、文化人類学、コミュニケーションなどについて学ぶ「人と社会エリア」、生物学、地球環境について学ぶ「地球・環境エリア」、政治、経済、歴史について学ぶ「国家と地域エリア」、これら4つのエリアから専門科目を自由に履修することができます。

さらに、この4つのエリアの学びの共通の基礎となる科目、例えば、データサイエンスとかデザイン思考などの科目を提供する「エリア横

断」の科目群があります。これら5つのエリアから、自由に、自分のニーズと関心をもとにして科目を組み合わせる履修することが可能です。

共創学部共創学科 学生定員105名 教員79名 (専任51名、科目担当28名)

人間・生命	5(4)
人と社会	11(6)
国家と地域	7(8)
地球・環境	12(6)
データサイエンス	4(2)
科学論	1(1)
デザイン思考	(2)
物理・数学	5
PBL/TBL	1
日本語教育	2
国際交流(アウトバウンド、インバウンド)	2

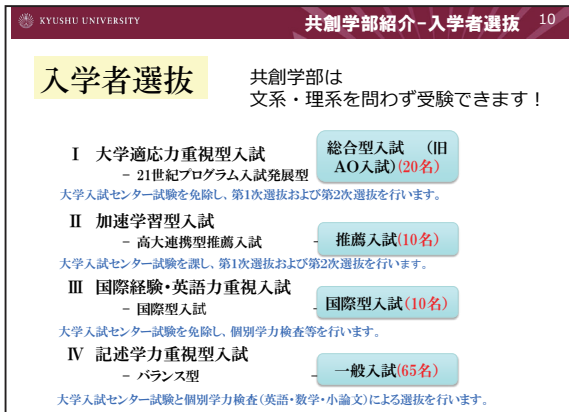
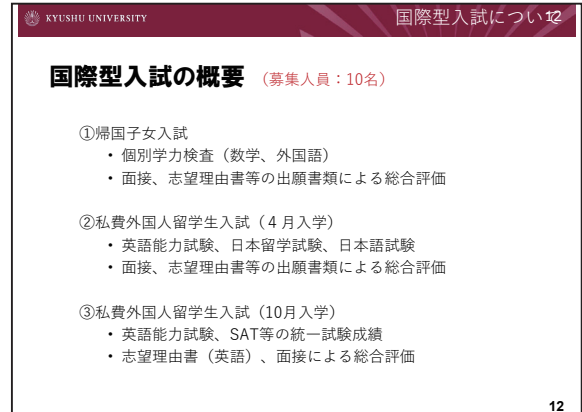
学術部局(23部局)

専任教員: 人文科学研究科, 国際社会科学研究科, 人間知科学研究科, 工学研究科, 経済学研究科, 言語文化科学研究科, 医学研究科, 歯学研究科, 工学研究科, 農工科学研究科, システム情報科学研究科, 経営工学研究科, 看護学研究科, 国際イノベーション研究科, デス・フューニクス(システム)研究科, 国際学術院センター, 科学振興イノベーションセンター, 国際研究センター, 観音寺センター, サイバーセキュリティセンター(2022より), エネルギー・研究開発機構(2022より)

次に、教育体制についてですが、共創学部は全学の23部局から教員79名に集まっています。その内、専任教員は51名います。



共創学部のもう1つの特徴として、特に注目されているのは、全ての学生は留学が必須となっているところです。つまり留学しないと卒業できない、卒業条件となっているところですね。また、留学生とのクラスシェアです。日本人専用、留学生専用という科目は1つ也没有。全ての科目は、日本人学生と留学生の双方に対して提供しております。



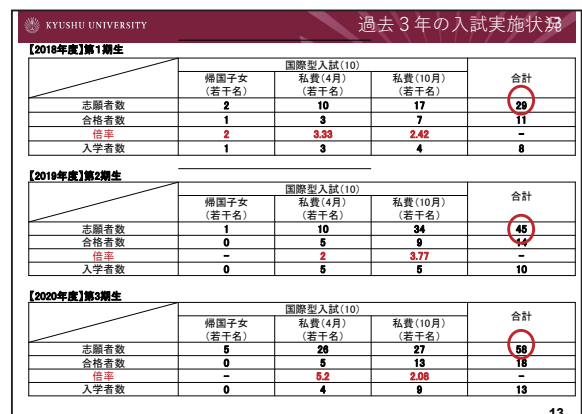
九州大学では、4つの種類の入学試験を実施していますが、共創学部は、その全ての種類の入学試験を実施しています。定員105名の内、総合型つまり旧AO型は20名、推薦10名、国際型10名、一般入試65名となっています。

これからは国際型入試の中の私費留学生入試について詳しくご説明します。

国際型入試は、毎年定員10名ですが、さらに3種類に分けられています。1つは帰国子女、2つ目は4月入学の私費留学生入試、3つ目は10月入学の私費留学生入試です。話を私費留学生入試にしばらくすると、4月入学と10月入学の留学生入試の主な相違点は、4月入学のほうの留学生試験では、日本留学試験及び日本語能力試験のスコアが求められています。つまり、4月に入学してから日本語で科目を受講できるような、割と高いレベルの日本語能力が求められています。それに対して、10月入学の私費留学生のほうは、英語能力試験、またはSAT、IBなどの国際型の統一試験の成績が求められておりますが、日本語能力に関しては不問です。日本語能力はゼロでも構わないということになっています。



この表は、2020年度入試の結果です。この表によると、倍率が一番高いのはAO入試で7.24倍ですが、国際型入試の平均倍率は3.22です。ちなみに、去年の九大の前期日程入試の全学の平均倍率は2.28に対して、共創学部は2.79でした。



先ほどお話ししたように、これまでの3年間で3期生までが入学しており、留学生は全部で30名います。まずは、こちらの表を見るとお分かりになるように、志願者数は年々増えてい

KYUSHU UNIVERSITY 19

海外留学等用の経済支援

共創学部では、共創学部生対象の「海外留学等に係る経済支援」制度を設けています。

単位認定に必要な留学等を行う際、在学期間中、一回を限度として、留学等に係る費用の一部を補助する目的で留学準備金及び奨学金が給付されます。

- 留学準備金一律15万円(渡航費用やビザ取得費用、危機管理及び保険のための費用などを補助)
- 奨学金:月に1万〜5万円(奨学金の金額は、留学先の地域、都市等により異なります) ※他の奨学金と併給可能です。



さらに、共創学部の学生は留学生も含めて、全員平等に1回きりの留学専用の経済支援を受けることができます。留学準備金一律15万円、そして、月に国とエリアによって1万から5万円ぐらいの奨学金をもらえるチャンスがあります。この奨学金は、ほかの奨学金と併給可能ですので、学生が留学する際に非常に手助けになる、と思います。

KYUSHU UNIVERSITY 20

コロナ禍のオンライン留学/インターンシップ

Virtual Internship & Seminar
ITRN 3005 (5 credits)

India: Virtual Internship in Environment, Development, and Sustainability (Summer)

This syllabus is representative of a typical term. Because courses develop and change over time to take advantage of unique learning opportunities, actual course content varies from semester to semester.

Description
This virtual internship and seminar is a summer six-week distance learning course comprised of 225 hours. Students intern with a local community organization, a research organization, a business, or an international NGO. Students will be expected to devote approximately 37.5 hours a week to both on synchronous and asynchronous course activities. Synchronous activities may include orientation sessions, seminar country and theme specific lectures, initial meetings with your internship advisor, group reflection sessions, and project presentations. Frequency, duration, and scheduling of synchronous activities will be determined the first week of the course in conversation with participants to find mutually convenient times. In the event that a student cannot attend a live session, every effort will be made to provide a recording, transcript, or summary for off-line viewing. Asynchronous activities may include seat time at your internship, break-out groups, check-ins with your academic director, internship

去年から皆様ご存じのようにコロナ禍でなかなか海外に行けなくなっています。そのため、共創学部では、オンライン留学、オンラインインターンシップなどを積極的に主催しています。

KYUSHU UNIVERSITY 21

コロナ禍のオンライン留学/インターンシップ

九州大学 共創学部

跨領域学院 TMU iCollege

2021 KYUSHU ISI x TMU iCollege International Co-Creation Exchange Project

台北医科大学 iCollege とのオンライン短期留学プログラム 2021

Collaborative Studies of Social Issues on Good Health and Well-being
海外の学生とチームを作って、健康・福祉・LOHASに関する課題にチャレンジしよう

Students from KYUSHU ISI & TMU iCollege:

- Co-Learning
- Co-Creative Thinking
- System Thinking
- Interdisciplinary and International Team Building and Communication
- Creative Thinking and Generating Innovative Idea

- Co-Field Observation
- Co-Working for Innovation
- Critical Thinking
- Empathy
- Global Adaptation

こちらの写真は、つい先日共創学部が主催した台湾のある医科大学の Interdisciplinary Study (学際教育) 部局とのオンライン交換留学のようすを映したものです。

KYUSHU UNIVERSITY 22

これからの教育のあり方と課題

KYUSHU UNIVERSITY 共創学部のグローバル人材養成 23

E/J環境の充実化

英語/日本語 インターンシップコース	E/J 専門科目
高い言語運用能力を身につけるための1年次の集中した授業。	英語「で」学び、留学への準備を進める。
実践的なPBL/TBL	留学/インターンの必須化
文理の選択も国籍も異なるクラスメイトとの協働学習を通してコミュニケーション能力を高める。	海外でさらなる経験を積み、卒業研究は英語で発表する。

留学のため、共創学部独自の奨学金制度を準備！学生全員が受給できるような仕組みを整備中です。


最後に、これからの教育課題、あるいは教育の在り方について考えてみましょう。先ほどお話ししたように、共創学部では全ての科目は留学生と日本人学生のクラスシェアになっています。しかし、留学生が毎年定員10名なのに対して、日本人学生は95名です。人数的には対等と言えない状況になっています。こうした点もあって、どうしても日本人学生が固まったり、留学

生は留学生同士で交流したりするということがないとは言えない状況があります。

KYUSHU UNIVERSITY 共創学部のグローバル人材教育-徹底した英語教育 24

英語：2コマ×週3回
日本語：入門から上級までの8段階

- ✓ 高い言語運用能力を身につけるための授業
- ✓ **英語で時事問題を議論するなど、英語「で」学ぶ**
- ✓ **日本で生活・就職に必要な日本語力を身につけるための授業**



この点を打開するためにも、英語と日本語が併用される教育環境を充実させることが共創学部の今の教育課題ではないかと思っています。今のところは、1年次の日本人学生に対して、1回2コマ毎週3回の、かなり密度の高い英語インテンシブコースが課されています。それに対して、留学生は、入門レベルから上級レベルまで8段階の日本語科目を履修することができます。こうしたインテンシブコースの目的は、日本人学生には、留学生と英語でディスカッションできるような高い英語力を高めること、留学生に対しては、卒業した後、日本で生活したり就職したりすることができるような日本語能力を身につけることです。

KYUSHU UNIVERSITY 25

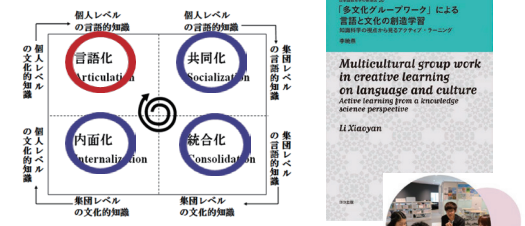


図1 多文化グループワークのASCIモデル

李曉燕 (2017) 『多文化グループワークによる言語と文化の創造学習—知識科学の視点から見るアクティブ・ラーニング—』ココ出版

こちらのモデルは、私自身の研究成果として設定した、多文化グループワークにおける知識共創のモデルです。これまでお話ししたように言語インテンシブコースの到達目標とか、多文化グループワークなどで互いに相手の言葉で

ディスカッションできるように努力することは、言語化することですね。自分が考えていること、自分の文化的な背景、専門的な背景など、グループのメンバーたちと違うから、なかなか伝わりにくい内容を頑張って言葉にして伝えようとするのは非常に大事です。本当に知識共創できるようにになりたいなら、人と自分のアイデアを共有したりして、自分の持っている知識、持っている考えと他人の考えを統合化して、さらにそれらを内面化して、自分の新しいアイデアとして生み出すというサイクルが必要なのです。コロナ禍後には日本人学生はどんどん海外に交換留学に行けるようになり、その分は、海外の協定校の学生も共創学部に来てくれるようになると思います。そうなれば、人数の面だけではなくて、いろいろな意味で留学生と日本人学生が対等な状況になって、もっと充実した多文化グループワークができるのではないかと期待しています。

KYUSHU UNIVERSITY 26

入試とリクルートの見直し（1）

➤ **4月入学の留学生の場合**：旧帝大系（東大、京大、東北大、名大など）及び学際教育専門のある私立大学（慶應大など）との競合

- ✓ 大学ランキング
- ✓ 奨学金
- ✓ 同窓会
- ✓ 就職支援
- ✓ 学習・生活環境



入試とリクルートについての見直しについては、共創学部の場合は4月入学と10月入学については分けて考えるほうが良いと思いました。4月入学の留学生の場合は、既に日本の日本語学校に入っている学生とか、日本の高校などから直接入学する学生が多いのですが、この場合は、九大以外の旧帝大系、東大とか京大とか東北大とかの大学または学際教育、つまり共創学部と同じような教育を提供する慶應大学などの私立大学との競合があると思います。

これの対策としては、例えば九大のランキングについてもっとアピールするようにして、慶応や早稲田に負けない大学であるということも

含めて、リクルート、プロモーション活動が必要ではないかと思えます。それに加えて、九大の充実した奨学金制度とか、留学生に対する就職支援、学習、生活環境が充実している点もアピールしていくといいと思えます。さらに、これから卒業生が出たら、同窓会の活動も充実させたらいいと思えます。

共創学部の課題

10月入学の留学生：海外のトップクラス大学との競合

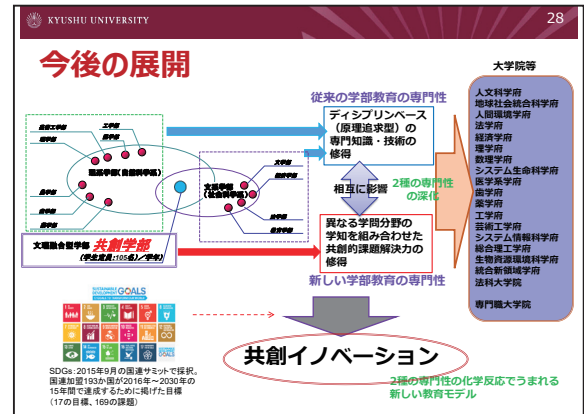
- ✓ 海外プロモーションの強化：学費、生活環境、サブカルチャーなど
- ✓ 国内インターン、交換留学の充実化
- ✓ 学際教育の魅力
- ✓ 日本語教育

福岡県留学生支援

27

10月入学の留学生については、ライバルは、海外のトップクラスの大学です。共創学部の入試の面接は毎年2月に行われ、3月には学生たちは既に合格通知書もらっています。この3月から、実際に九大に入学する10月までの間に、優秀な学生は、幾つか海外の他の大学のオファーを待っている場合があります。実際、これまで、そうした学生が九大ではなくてほかの海外のトップクラスの大学に入学してしまったケースもありました。

こうしたケースに対しては、海外プロモーションを強化する必要があると思っています。海外のトップクラスの大学と比べると、九州大学の学費は明らかに安い、10倍以上安い場合もあります。また、生活環境の良さや日本のサブカルチャーの魅力などをアピールする必要があります。さらに、日本国内のインターンシップ制度の充実、海外協定校との交換留学が可能である点を海外にアピールすること、そして、共創学部ならではの学際教育の魅力、及び九州大学が提供する充実した日本語教育も、もっと力を入れて海外プロモーションしたいと考えております。



最後になりますが、先ほどお話ししたように、共創学部は九大の文理融合の中軸に位置づけられています。こういう新しい学部教育の専門性と従来のディシプリンベースの学部教育の専門性、こういう2種類の専門性がうまく化学反応ができるようになったら、世の中に新しい教育モデルが提供できるのではないかと期待して、一教員として努力したいと思えます。

29

KYUSHU UNIVERSITY

Thank you for listening!

以上です。どうもありがとうございました。
 (江口) 李先生、どうもありがとうございました。
 (李) ありがとうございました。

経済学部

九州大学経済研究院講師 儲 梅芬



九州大学経済研究院講師 儲 梅芬

(江口) 次は、経済学部における現状と課題の紹介になります。御発表いただきますのは、経済学研究員の儲梅芬先生です。

儲先生、お願いします。

(儲) こんにちは。経済学研究院の儲梅芬と申します。

—九州大学webinar100国際シンポジウム—
「アジアからの高大接続」
Current Status and Challenges of International Admission Faculty of Economics
 Monday, 15 March 2021
 Assistant Professor Meifen CHU
 Faculty of Economics, Kyushu University

少し自己紹介ですけれども、私は20年前、中国の上海から福岡に参りまして、2008年から、この国際交流、留学生関係の仕事を担当させていただいております。

今日は、実は今、気がついたんですけれども、皆さんの話とは少しずれがございまして、今までお聞きした話の中は、ほとんど高校の話、学部の話が多いんですけれども、私が準備したものは大学院の話が多いかもしれません。大変申し訳ございません。御了承ください。

九州大学

Outline

- Efforts to recruit outstanding international students
- Double-degree program with Renmin University of China
- International exchanges through the DD program
- International graduate programs
- Student exchange program with National Taiwan University
- International undergraduate program - GProE
- Efforts by the QBS
- Challenges and Future

1

今日の話は、まず経済学部・学府として、今まで国際コースの留学生受入れのため、いろいろな努力をしたことを御紹介させていただきます。次は、経済学部・学府の中の国際コースを御紹介させていただきます。さらに、ビジネススクール、QBSの今までの取組について、少し簡単に御紹介いたします。最後に、課題について少しお話しさせていただきたいと思います。

九州大学

Efforts to recruit outstanding international students

2021年1月1日現在
(current as of 1 January 2021)

課程(Course)	出身地 (Nationality)
学士課程 Undergraduate Course	China, Korea, China (Taiwan), Germany
修士課程 Master's Course	China, Korea, Vietnam, Nigeria, Ethiopia, Mexico
専門職学位課程 MBA (Business School)	China, Korea, China (Taiwan)
博士後期課程 Doctoral Course	China, Korea, Vietnam, Indonesia, Bangladesh, Cote d'Ivoire, Mozambique, Germany, Romania
研究生等 Research Students, etc.	China, Korea, Vietnam, Myanmar, Nigeria

2

まず、この表は2021年1月1日現在のデータでございまして、経済に来ている学生の出身地でございますが、結構たくさんの国——中国、東南アジア、ベトナム、インドネシア、南米とかヨーロッパ、それからアフリカですね、いろんな国から経済学部・学府に在籍しております。



このグラフは2018年と19年のデータでございますが、ここでの留学生の人数は、2018年は138名で、2019年は148名です。私が十数年で見えておまして、大体経済の場合は150名前後の留学生が在籍しております。その中では修士学生が一番多いです。75名です。博士課程の学生は10数名おります。それから、交換留学生と研究生です。また、こちらはQBSの学生ですね。

一番少ないのが学部の留学生ですね。さっきお話を聞いておまして、農学部と工学部の中で学部の国際コースが既に充実されております。これは恐らく経済として将来の課題ではないかなと私は個人的に今考えています。



今まで経済がやってきたことでございますが、2005年には、国費留学生特別選抜と指定校推薦制度を開始しております。この二つの特別の入試を始めたんですね。これは優秀な学生を確保するための新しい制度でございます。指定校推薦の制度ですけれども、もし海外のランキングが高い大学、例えば中国人民大学、南京大学とかから推薦がありましたら、我々としては積極的に受け入れることになっております。試験は

免除できます。ただ、面接を行って受け入れることになっております。

2008年には、中国人民大学とのダブル・ディグリープログラムの協定を締結しておまして、2009年から中国人民大学から修士学生を受け入れることになりました。既に40数名の学生を受け入れました。ダブル・ディグリープログラムは非常に成功しておまして、これは九州大学初のダブル・ディグリープログラムでございます。優秀な学生が九大に来て、ゼミの中でほかの学生に非常に刺激を与えることができ、皆さん、日本人学生とか、来られるそういう留学生さんたち、非常に勉強の意欲が高まることになりました。

2009年には中国国家建設高水準というプログラムがございまして、これも、特別入試を導入しております。

2009年には中国国家建設高水準というプログラムがございまして、これも、特別入試を導入しております。

経済の場合は、大学院国際コースは2010年からスタートしております。これはG30ですね。これは学部コースじゃなくて、大学院のコースでございます。これも非常に成功しておまして、毎年申請者が増加しております。倍率が結構高くて、数十名くらい取っております。

NTU－台湾国立大学との交換留学プログラムは2016年からスタートしております。これは、毎年2名ずつお互い派遣することになっております。これは非常に人気ございまして、九大から台湾大学に派遣する場合は奨学金も提供しておりますし、台湾国立大学も、そもそも日本に近いので非常に学生には人気のプログラムとなっております。

さらに、2018年に学部の国際コース（GProE: グローバル・ディプロマプログラム）をつくることになり、スタートしました。このコースをつくるために我々は非常に時間をかけて、いろいろ議論とか検討をしておりました。一応私も意見を出させていただいておまして、ぜひともインバウンドの学生とアウトバウンドの学生とを混在して勉強させてほしいという意見は採用していただいて、このプログラムの一つの特

徴になっております。

このコースは、2年生からスタートします。1年生は皆さん基幹教育で、いろんなこと、基礎的なものを勉強していただいて、この中で優秀な学生を選抜して、さらに英語能力が高い学生を受け入れております。今年、第3期の学生が決まっております。

もう一つ、これは留学が必要となっております。短期留学と半年以上の長期留学は必須となっております。今コロナという状況で、なかなか難しいときになっております。

我々がやっていることは、制度上はいろいろ改革をして、新しい入試制度を導入したり、あるいは新しいプログラムをつくったりして努力しておりますけれども、やはり学生を受け入れるために、細かく丁寧にいろんなサービスを提供しないとイケないということが非常に大事なことでございまして、特にプロモーション活動は非常に重要でございます。我々は毎年、北京あるいは上海に、特に私の場合は結構中国に行っていて、プロモーション活動を行ってきております。

Efforts to recruit outstanding international students 九州大学

- Conduct **promotion** activities
- Organize **Interviews** with students in China (DD, QBS)
- **Match** graduate students with supervisors
- Apply **scholarships** for students (DD, QBS)
- **Provide services** before/after students' arrival
- Plan **international events** (e.g., study trips, parties, SQA, English / Japanese Corner, **Here2Talk** ...)
- **English tutoring** by supervisors
- Create a new **HP** for international exchanges
<https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~abroad/>
- **Keep instructing students** after departing Japan (DD)

5

さらにもう一つの特徴はDD（ダブル・ディグリープログラム）とQBSの交換留学生を受け入れるプログラムなんですけれども、必ず毎年、中国現地に行き面接を行うことになっております。QBSの場合は、中国の大連に行っております。我々DDの場合は北京に行っております。

さらに、学生と指導教員のマッチングも非常に重要でございまして、我々かなり丁寧にサポートをしております。経済の場合はそういうルールがございまして、選定プロセスにルールを設け

て、非常に丁寧にそういうサービスを提供しております。

先ほどいろんなお話の中に奨学金の話もありました。留学生にとっては非常に奨学金が重要です。優秀な留学生を受け入れるために非常にこれは重要でございます。我々はいろんな奨学金の情報を提供させていただいておりますし、さらにDDとQBSのプログラムについては、事前にJASSOの奨学金を我々は申請しております。毎年少しずつその枠が今減っているんですけども、大体2名の学生が奨学金を受け入れることができるという状況になっております。もちろん日本に来る前と来た後、我々は非常に丁寧にいろんな質問、悩みなどの相談に乗ってあげております。

さらに、私の留学生担当教員としての仕事なんですけれども、留学生さんたちが日本に来られたら、いろんな国際交流活動を企画しております。例えばスタディトリップですね。九州の長崎とか熊本など旅行に行ったりして、いろんなパーティーをやっておりますね。料理パーティーとか歓迎会、送別会、それはもちろんですが、懇談会、ランチ会、あるいは執行部の先生方を呼んで、その学生さんたちと直接対面で会話するというチャンスも設けております。

さらに、経済には一つ、学習サポートできるお部屋がございまして、これはSQAというお部屋です。これは留学生のみじゃなくて、全ての学生に開放しております。もちろん留学生も、もし何か勉強の面で悩み相談がございましたら、そのお部屋に行くといろいろ相談に乗ってくれるんです。

さらに、私としてはいろいろ、英語コーナー、日本語コーナーもやっております。あるいはソフトウェアのサポートもしております。


特に、Here2Talkというのは、去年コロナになった後、5月に新しく開設したオンライン窓口ですね。留学生さんたち、こういう状況になって、どこに相談すればいいか非常に困っていると考えまして、新しくそういう窓口も開設しております。

経済学部の場合は基本的に国際コースが、工学部と農学部とは違って、そういう英語の

授業は少ないんですけども、大学院の場合は、新しい学生さんたちが来られたら、日本語ができない学生が最近増えてきております。教員たちも既に10年前から、英語で授業をする、あるいは指導のとき英語で対応をする先生方がほとんどでございます。最初10年前は特に若い先生たち、慣れなかった先生は多いんですけども、今はほとんどの先生方は英語で対応できております。

もう一つ、私の考えなんですけれども、広報も非常に重要でございます。ホームページが、経済の場合は、国際交流のホームページを新しく作っております。ここをクリックしたら、こういう「留学・国際交流インフォメーション」というページがございます。ここはお知らせで、ここは「海外から九州大学へ」「九州大学から海外へ」、いろんな情報を発信しております。特に入試関係ですね。ここに全て載せておりますので、非常に重要なツールでございます。

DDの場合は、基本的に最大2年間日本に滞在することが可能となっておりますけれども、大体の学生は1年間勉強して、全ての単位をそろえて帰国します。その後も先生が継続して指導を行うなど、かなり手厚く我々は教育、サービスを提供しております。



Double Degree Program

5

九州大学・中国人民大学 共同教育(ダブルディグリー)プログラムの 実施について

プログラムの特徴 1. 九州大学と中国人民大学の2つの大学で修士号を取得します 2. 同年9月より、九州大学大学院経済学部に在籍できます 3. 九州大学の入学科、授業料が免除されます 4. 学生費が利用可能(1年間)です 5. 英語(経済学国際)コースの科目が受講できます 6. 合格者のうち、成績優秀者は奨学金(月額3万円)を受給できます	募集人員 5名
プログラムの趣旨 日本と中国の双方で高等教育を受けることによって、国際舞台で活躍できる人材を育成することをめざしています	出願資格 出願時、経済学修士課程・応用経済学修士課程に在籍する者で (1) 一定程度の語学力を有していること (2) <異なる文化圏で高等教育を受ける> という本プログラムの趣旨に合致していること
	出願時期 毎年3月上旬
	選考方法 口頭試問

プログラムの詳細は教務係経済担当にたずねてください

【お問い合わせ】 人文社会科学系事務部教務課教務係 電話: 092-802-6368 FAX: 092-802-6396

中国人民大学との共同教育(ダブルディグリー) プログラムの実施について


プログラムの特徴 1. 九州大学と中国人民大学、2つの大学から修士号を取得できます 2. 平成29年9月より、中国人民大学経済学部に在籍できます 3. 中国人民大学の入学科、授業料は免除されます 4. 平成29年度から、住居費(学生寮費)は免除されます 5. 平成29年度から、英語コースが無料になります	募集人員 5名
プログラムの趣旨 中国と異なる文化圏で高等教育を受けることによって、国際舞台で活躍できる人材を育成することをめざしています	出願資格 出願時、経済学修士課程経済工学専攻・経済システム専攻に在籍する者で (1) 一定程度の語学力を有していること (2) <異なる文化圏で高等教育を受ける> という本プログラムの趣旨に合致していること
	出願時期 2017年4月10日(月)～4月14日(金)
	選考方法 学術(入試)成績と口頭試問

プログラムの詳細は教務係経済担当にたずねてください

【お問い合わせ】 電話: 092-802-6369 FAX: 092-802-6369

少し御紹介なんですけれども、DDプログラムは、受入れだけでなく双方です。派遣もでございます。派遣のほうがやっぱり課題がございます。最近ようやく1名派遣ができております。

International exchanges through the DD program



- ✓ Promotion
- ✓ Discussion
- ✓ Special lectures
- ✓ Academic exchanges
- ✓ Alumni Meetings

8

このDDプログラムを通して、国際交流活動の活性化を促進することができたということは、私は非常にうれしいことではないかなと思います。そのDDのプログラムを通して、我々がやっていることは、プロモーションとか、毎年先方の先生方といろいろディスカッションですね、DDだけじゃなくて国際交流の話もたくさんし

ております。さらにいろいろ、特別講演会とか
教員同士の研究交流も行ってきております。さ
らに、私は結構北京あるいは上海でいろいろ同
窓会もやっております。

Promotions 九州大学

In Renmin University of China



21 December 2009



3 November 2016

Discussion (2010・2012) 九州大学

In Renmin University of China



26 April 2010



19 April 2012

Discussion (2014・2016) 九州大学

In Renmin University of China



18 April 2014




19 April 2016

いろいろな写真を載せておりますけれども、
これはプロモーションの活動、大体毎年、研究
院長をはじめ、執行部の先生、副院長を除
いて、皆さん、私と一緒に人民大学に行って
おります。いろいろディスカッションをして
おります。

Special Lectures 九州大学

Celebrating the 90th Anniversary
of the Faculty of Economics



テーマ:
「中国経済の現状と行方—資金構造変化の視点から」

講師: 中国人民大学经济学院・院長
楊瑞龍教授

日時: 2014年6月20日(金) 13時~14時半
場所: 箱崎文系地区 大講義室
言語: 中国語 (随通訳)

これは、経済学部90周年のとき、先方の楊
院長をお呼びして、特別講演をしていただい
ております。

International exchanges through the DD program 九州大学




題目: 日本経済停滞の背景:
製造業大國の陥穽と第三産業化の失敗

講演人: 堀井 隆 博士
日本九州大学経済学館 副教授


地点: 明徳法学館0402教室
時間: 2011年3月15日(周二) 下午2:00-3:30

Lecture on March. 4. 2016
"Economic Growth in East Asia and Japan:
Growth Linkage and the Business Cycle"
Prof. Kawanami, Faculty of Economics
Kyushu University


14

我々の教員も派遣することになっておりま
して、こちらの堀井先生は中国語ができる
ので、直接中国語で講義をされました。
こちら、川波先生には英語で講義をして
いただきました。

Academic exchanges 九州大学



March 2015, RUC

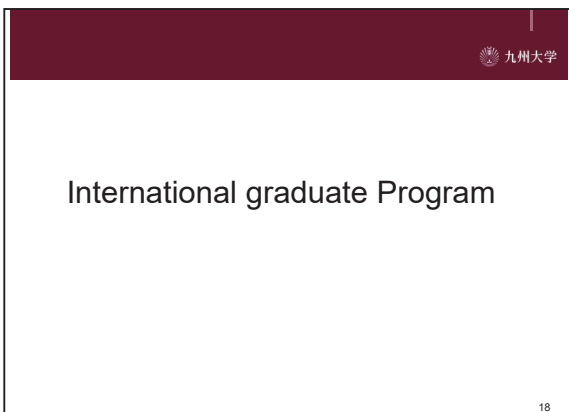


17 March 2017, KYU

教員同士の研究交流も毎年やっております。
これは人民大学でやっています。これは九
大でやっております。



これは同窓会ですね。こちらは上海、北京で、毎年同窓会をやっております。やはり学生が卒業してから本当にどういうふう活躍されるのか、我々としては知りたいし、学生たちのそういう元気な姿を見て非常にうれしく、毎年楽しくそういうイベントをやっております。



経済の国際コースは、まず、大学院の国際コースが設立されておりました...

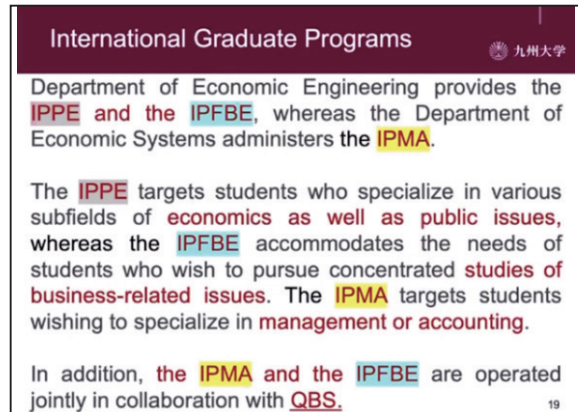


これは2010年、さっきお話ししたんですけれども、G30プログラムが立ち上がっております

て、これは……。

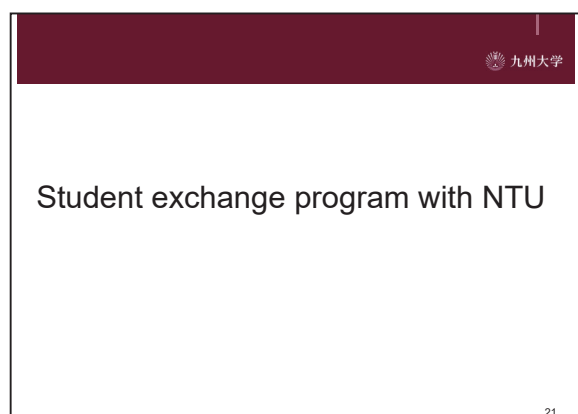
(江口) 儲先生、すみません。ちょっと時間が押していますので、まとめに入っていただきますでしょうか。

(儲) 分かりました。



国・地域	2019	2020
中国	12	14
台湾	1	0
ドイツ	1	1
インドネシア	1	1
ルーマニア	1	1
コートジボワール	1	1
バングラデシュ	1	2
ベトナム	3	5
ナイジェリア	0	1
モザンビーク	1	1
ペルー	1	0
マレーシア	1	0
エジプト	1	0
合計	25	27
修士課程	15	15
博士課程	10	12
合計	25	27

これは大学院の国際コースで、これはNTUとの交流ですね。



Student Exchange Program with NTU 九州大学

九州大学経済学部・経済学直
留学第Ⅱ期生を大募集します!!
国立台湾大学
 台湾の最高学府が君たちを待ち受けているぞ
 九州大学大学院経済学研究所(国立台湾大学社会科学部)が、2014年1月28日に部同間の学生交流協定を締結しました。つきましては、本経済学部・学府が第Ⅱ期の交換留学生を募集します。留学(講義は英語で行われます)に興味がある学生は、学生課(留学)において申請書を受け取って、準備を進めてください。多数の応募をお待ちしています!!



22

GProE: Global Diploma Program in Economics 九州大学

Launched: April 2018
 Special Undergraduate Program in Faculty of Economics to facilitate our graduates more fitted to globalized economy
 10 Japanese and Foreign students, out of 240 of all our faculty's students, will be selected at the end of their first academic year, start their special course at their second year and get special certificate when they graduate.

25

その中で留学生と日本人学生、混在して一緒に勉強することは非常に有意義なことではないかなと考えております。

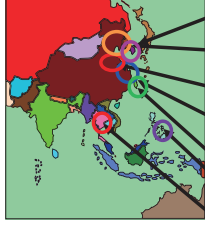
九州大学

International Undergraduate Program

23

学部の国際コースはGProEコースですが、さっきもお話ししております。定員は10名になっておりますが、今年2名ほどオーバーしています。

Efforts by QBS 九州大学



- 韓国: KAIST: 九大提携先 大学間協定
- 吉林: 吉林大学: 大学間協定 東北三省: 大連、瀋陽、長春
 大連: 大連理工大学、東北師範大学: 部局間協定
 瀋陽: 東北大学: 部局間協定、長春
- 北京: 北京大学と中国人民大学: 九大提携先
- 華中: 上海、南京、杭州
 上海: 上海交通大學: 大学間協定
 南京の南京大學と杭州の浙江大學: 大学間協定
 武漢の華中科技大学: 大学間協定
- 台湾: 台湾政治大: 部局間協定
- フィリピン: アタネオデマニラ大学: 大学間協定
- タイ: チュロンコン大学とタマサート大学: 大学間協定

26

これは、QBSも中国のいろんなところに行って、交流活動、学生を積極的に受け入れております。タイとかフィリピンなど東南アジアからも受け入れております。

ジープロイー GProE
 経済学専攻グローバル・ディプロマプログラム
 2018.4 START!

英語講義や留学を通じて、経済学・経営学分野の専門性をグローバルな場で積極的に展開する力身につけます。

- 定員10名。「将来グローバルに活躍したい」という希望を持つ経済学部1年生を対象に、入学後の成績、英語力、志望動機などを審査して選抜。
- 魅力的なプログラムが盛りだくさん
- 2年次: 外国での短期語学研修(奨学金制度あり)、日本の経済や経営に関する英語授業など
- 3-4年次: 外国からの招聘教員による英語集中講義、交換留学制度を利用した長期留学、英語での論文執筆など
- GProE生には大学院進学のための「学部・学府一貫教育プログラム」参加資格も付与!

NEW!
 GProE 選抜学生への奨学金制度
 外国での短期語学研修費用の一部を最大で約20万円補助(予定)!

※本制度は該課長平氏によって創設された「グローバル人材育成 HEAPRA 基金」が運営します。

24

九州大学

Challenges and Future

27

Challenges and future

九州大学

- Recruit more diverse students
- Promote international exchanges between international and Japanese students
- Attract more students to join graduate courses

28

将来としては、私がスライドを作るとき、なかなか図を描きにくいところがございます、もうちょっと多様性があったほうがいいかなと思います。アメリカあるいはオーストラリア、ヨーロッパの学生が来てほしいと思います。中国人の学生が非常に多いですね。ほかの国の学生が非常に少ないという現状なので、これは今後の課題として考えたいと思います。

あとは、日本人学生と留学生との交流ですね。一緒に交じって本当の国際交流をやりたいと思いますし、留学生だけじゃなくて、できれば日本人学生もたくさん今後、大学院、特に博士課程に入っていただきたいと私は個人的に考えております。

九州大学

Thank you for your attention!

29

以上です。どうもご清聴ありがとうございました。

(江口) 儲先生、ありがとうございました。

教育学部

九州大学人間環境学研究院准教授 木村 拓也



九州大学人間環境学研究院准教授 木村 拓也

九州大学における国際アドミッションの現状と課題
教育学部の海外高大連携と国際入試
 H30年度NEEP「アジア研究拠点の展開に資するアジア各国における留学生獲得拠点の形成」の成果報告

九州大学大学院人間環境学研究院(教育学部)
 准教授 木村拓也

九州大学Webinar100「アジアからの高大接続」
 2021年3月15日

九州大学

(木村) よろしくお願ひいたします。教育学部の木村と申します。

私の方からは、「教育学部の海外高大連携と国際入試」というタイトルで発表させていただきます。

九州大学

九州大学教育学部

1949年に学部誕生
 教員養成学部で**教育学研究者養成**
 2代目 教育学部長 **平塚益徳** 先生
 (1960年日本人初のユネスコ本部教育局)
 比較教育文化研究施設(1955-1996)
 (ロックフェラー財団の寄付によって設立)
 比較教育学の伝統
 (海外の教育事情に精通)

ミッションは、**教育学研究者の育成と高度教育専門職の育成**
 特に、**グローバル人材の育成**に定評のある学部

世界の大学入試 (1986)

比較教育文化研究施設

平塚益徳 先生

まず、九州大学教育学部の紹介をさせていた

だきます。1949年に誕生した比較的若い学部でございます。教員養成学部で教える教育学研究者養成を目的につくられた学部であります。2代目教育学部長である平塚益徳先生は、1960年に日本人初のユネスコ本部教育局長をお務めになりました。また、1955年にはロックフェラー財団の寄附により、比較教育文化研究施設を設立、海外の教育事情に明るい学部として昔から知られております。ミッションは、教育学研究者の養成と高度教育専門職の育成であり、特に、グローバル人材の育成に定評のある学部であります。

九州大学

平成30年度教育の質向上支援プログラム採択

九大内の競争的資金
 (Next Education Enhanced Program: **NEEP**)
教育学部、共創学部、文学部、アドミッションセンター
 「アジア研究拠点の展開に資するアジア各国における留学生獲得拠点の形成」(H30-R3年度)

H30年度 7月タイ、8月中国深セン、11月ベトナム、11月中国上海・深セン、3月中国上海・南京、3月タイ

H31年度 7月タイ・ベトナム、9月中国北京、10月モンゴル、10月中国上海・南京、11月韓国、12月マレーシア、2月タイ・ベトナム(中止)、2月中国上海南京(中止)、3月中国北京(中止) **2年間で、7カ国計12回の海外渡航で延べ21の教育機関を訪問**

教育学部では、平成30年に九州大学内の競争的資金でありますNEEPに採択されまして、教育学部、共創学部、文学部、アドミッションセンターと共同いたしまして、「アジアの研究拠点の展開に資するアジア各国における留学生獲得拠点の形成」というプロジェクトを推進してまいりました。2018年度の7月にはタイ、8月には中国深セン、11月にはベトナム、11月には中国上海・深セン、3月には中国上海・南京、3月にはタイに、2019年度の7月にはタイ・ベトナム、9月には中国北京、10月にはモンゴル、10月には中国上海・南京、11月には韓国、12月にはマレーシアを訪問しました。中止となりましたが、2月には、タイ・ベトナム、2月には中国上海南京、3月には中国北京に行く予定で

した。2018年と2019年の2年間で7か国計12回の海外渡航を行い、延べ21の教育機関を訪問いたしました。



今日、御参加いただいた教育機関の皆様の前にも訪問させていただきました。写真は、日本国際学校、AAJ、帝京マレーシア日本語学院、新モンゴル学園を訪問させていただいたときの写真でございます。帝京マレーシア日本語学院様の方では、竹熊先生と私で模擬講義もさせていただきました。



教育学部はこのように、NEEPを通しまして海外高大連携を推進し、国際型入試の開発を行ってまいりました。もともとEEPという学内プログラムで平成27年度から毎年、現在も続いておりますが、国内版のリサーチトライアルという高大連携事業を行っており、毎年、高校生を80名から100名ほど毎年九州大学に招き、教育学と教育心理学の講義を行っております。

そのノウハウを生かし、2016年度より、海外リサーチトライアルを中国の上海、信男教育学園様と共同で実施させていただいております。

福岡は上海と近く、東京に行くのと変わらない距離であるということも要因になっております。また、2018年度からは、少し形は変えておりますが、学生主体でタイでも実施しております。

こうした取組を他学部にもお声がけをさせていただきながら、九大版の海外高大連携活動を続けさせていただければと思っております。また、ほかのアジア各国でも同様に行うことができると思っております。

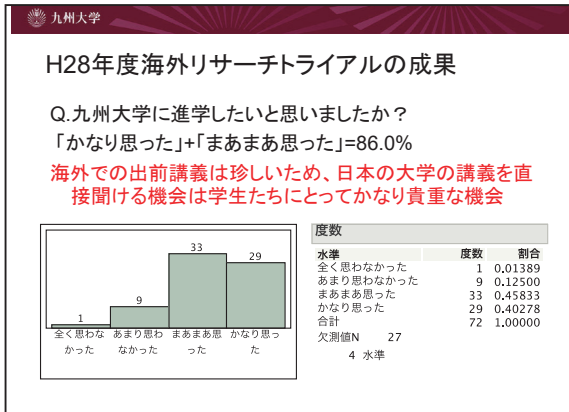
こうした流れで、私費留学生、帰国生徒入試を改革し、新「国際型入試」の開発を行い、平成31年度入試から実施をしております。



次のスライドでは、リサーチトライアルの様子が写っておるかと思えます。共創学部の先生や文学部、経済学部、法学部、医学部医学科の先生などにも御協力いただきました。今日、御講演くださった李先生、先ほど講演いただきました儲先生にも一緒に御同行いただきました。信男教育学園様のほうの講演でも、御案内がありましたように、医学部医学科の先生は血圧測定の実習をしてくださり、また医学の研究も話してくださいました。また、修了証等も生徒に1枚1枚発行させていただいております。

海外の高校生を対象に、主体的・協働的に探求する、「研究型の学び」を体験するというところで、講義と演習を組み合わせ、九州大学の各研究領域の講義を受けた後、同じ先生によって、グループ演習（ゼミ体験）で学ぶことを行っております。こうした取り組みは、(1)「海外版高大連携事業の提案」、(2)「国際型入試のためのパイロットケース」。このことが優秀な留学生の獲得につながります。(3)「アジア圏における

九大全体のプレゼンスの向上」を目指して行っておりま



そうした結果、九州大学に進学したいと思った生徒が多数に上り、また、海外での出前講義は珍しいため、現地の生徒にとって、単なる大学説明ではない、かなり貴重な機会になったのではないかと思います。



また、2018年11月27日と29日には、上海と深圳で、私が他大学の大学入試関係者にお声がけをさせていただきまして、8大学合同の大学説明会も、海外で、信男教育学園様の御協力の下、行わせていただきました。

また、深圳第3高校の開校式や、柳川高校附属タイ中学校の第1回卒業式にも出席をさせていただきました。こうして様々な学校様と関係を深めさせていただいているところでございます。



また、こうしたNEEPの成果といたしましては、2019年及び2020年に3校と三つの教育機関あるいは人材育成機関と協定を結ばせていただいているところでございます。事務所の設置や看板の設置のみならず、高大連携プログラム、これは遠隔も含んでおりますし、学生の交流、学術交流活動の実施などを行わせていただいております。

COVID-19の下では、オンラインで日本語カリキュラム、先ほど柳川クラスの御紹介がございましたが、そうしたものの設計を共にさせていただいたり、オンラインでモンゴルのほうからはインターンシップを実施いただいて、学生に非常に好評でございました。

九州大学

九州大学教育学部 海外高大接続教育研究拠点の設置

1. 全学的な海外高大連携プログラム(海外リサーチトライアル)を本格的に実施する。→海外で九州大学の研究を知ってもらう
2. 九州大学教育学部の「Overseas fieldwork I、II」(海外フィールドワーク演習:7泊8日)、「Overseas Internship I、II」(海外インターンシップ演習)[Overseas Coursework](海外語学研修)を実施し、教育学部生海外の協定校を派遣→海外で活躍できるグローバル教育人材を育成
3. 「学校インターンシップ」を実施し、全学の教職課程の学生を現地の協定校に派遣する。→特徴ある九大ならではの国際化に対応した教員養成を実施
4. 海外における高大連携・高大接続を研究する。

このように、九州大学教育学部では、海外の教育機関とMOUを締結することにより、四つのことを行っております。一つは、海外リサーチトライアルの実施、このことにより九州大学の研究を知ってもらう機会をつくっております。

二つ目は、九州大学教育学部の学生が海外でフィールドワーク、これは短期留学になるんですが、そういったものをしたり、インターンシッ

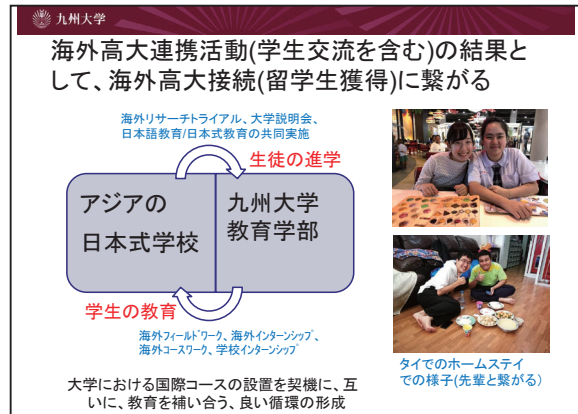
ブをしたり、語学研修したり、そうしたことを当該地域の教育機関の皆様と協力させていただきながら、私たちの人材育成目標である当該地域の教育の専門家や研究者を養成するといったことにつながっております。また、こうした事業について、海外の教育機関の皆様と連携して行っていきたいと考えております。

三つ目は、教職課程に学校インターンシップを導入したのですが、文部科学省に平成31年の再課程認定の関係を問い合わせたところ、海外協定校に派遣してもよいということで、これは文部科学省の再課程認定のQ & Aにもしっかり書き込まれていることではございますが、国際化に対応した高校教員を養成するという点においても、取組は意味があるものだと思っております。

最後に、私たちが今まさに取り組んでいるこうした取組、海外との高大連携・高大接続を研究するといったことを行っております。



次のスライドは、海外フィールドワークでの学生と日本式学校の生徒の皆さんの交流の様子です。授業をお借りして、学生が考えた授業を行ったり、かなり学生も本気で取り組み、いい経験をさせていただいているところがございます。こうして教育の高度専門職を目指す学生が、現地の学生とじかに触れ合うということがとても意義のあることであると考えております。こうした教育研究交流を通して、本学教育学部の教育と研究が、関係された学校の先生方のご協力のもと、進んでいると実感しております。



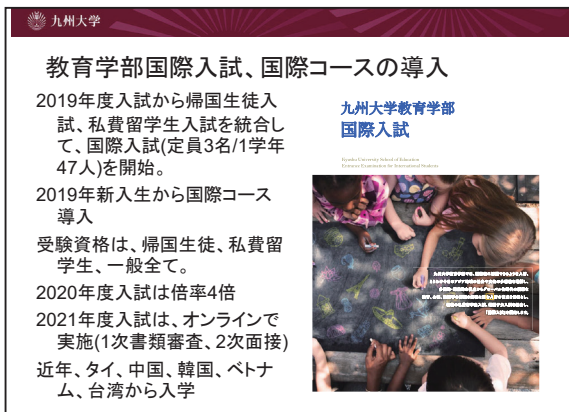
このように、九州大学教育学部が目指すのは、海外高大連携活動、これは学生交流も含まれますが、その結果として、海外高大接続、留学生が来ていただけるということにつながるというスキームをつくったところであります。お互いにウィン・ウインの関係を構築することが何より大事だと思っております。

アジアの日本式学校様からは、生徒に進学いただき、そのために必要な海外リサーチトライアル、大学説明会、日本語教育・日本式教育の共同実施、共同研究などを行います。また、九州大学教育学部からは学生の教育、海外フィールドワーク、インターンシップ、コースワーク、学校インターンシップなどで御協力をいただくという循環する形になります。大学における国際コースの設置を契機に互いに教育を補い合う、よい循環の形成ができればというふうに思っております。

実際、右にある写真は、私の研究室の学生がタイにフィールドワークに伺った際に、現地の教育機関の御家庭にホームステイをさせていただいたときの写真ですが、この生徒さんたちにとっても、将来的に九州大学に入学すれば、先輩になる人につながっていくということになります。こうした人と人とのつながりが生まれているということがございます。



また、日本にいながらも、例えばタイの中学生と教育学部の学生が1枚1枚はがきを書いて文通をしたり、オンラインで授業に参加させていただいたり、また、実際、留学生がたくさん来ていらっしゃる柳川まで出かけて、柳川高校の国際科にお邪魔しまして、学生が授業を見学したり、行ったり、参加したり、様々な連携を協定に基づき実施させていただいております。



最後に、入試制度になりますが、教育学部では、2019年新入生から国際コースを導入しております。2019年度入試から帰国生徒入試、私費留学生入試を統合して、国際入試を開始させていただきました。定員は1学年47名の小規模な部局ではございますが、そのうち3名でございます。受験資格は帰国生徒、私費留学生、一般全てでございます。このようにすることにより、日本の高校を卒業した留学生にも漏れなく門戸が開かれることになろうかと思っております。

2020年度入試は倍率4倍でございました。2021年度入試は完全オンラインで実施をさせていただきました。近年、国費留学の学生も含まれますが、タイ、中国、韓国、ベトナム、台湾

から入学いただいております。

私からの教育学部の紹介は以上になります。御清聴ありがとうございました。



(江口) 木村先生、ありがとうございました。

以上をもちまして、第3部を終了させていただきます。

なお、本日の内容につきまして質問などありましたら、チャットのほうに参加者アンケートのURLを掲載しております。こちらは終了しましたらすぐ閉じてしまいますので、質問などありましたら、先にURLのほうに進んでいただければと思います。

閉会の挨拶

閉会の挨拶

九州大学大学院工学研究院教授 渡邊 公一郎



九州大学大学院工学研究院教授 渡邊 公一郎

(江口) それでは、最後に九州大学工学研究院の渡邊公一郎先生より、閉会の挨拶をいただきたいと思います。渡邊先生、お願いいたします。

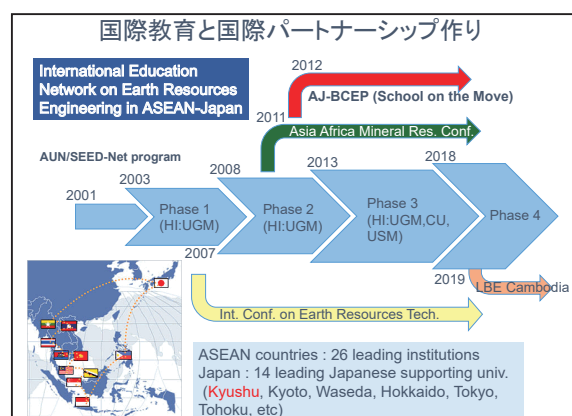


(渡邊) 渡邊です。今日は、いろんな話をとても興味深く聞かせていただきました。ちょっと時間が押しているので、話をする時間があるかどうか分かりませんが、少しでも私が関わってきた工学系の高等教育支援の話をさせていただいてよろしいでしょうか。

今日のお話をまとめるというようなことではないのですが、今日、松村先生が、工学系の学士課程の国際プログラムのお話をされましたが、随分昔、私もこのプログラムの立ち上げに関わっていました。そして、当時はプロモーションが必要ということで、ASEANのインドネ

シアやタイの高校を訪問しながら、九大の国際プログラムの紹介をしてきたという経験があります。また、その後に九州大学は文科省のスーパーグローバル大学創成事業を行ってまいりましたが、この中で九州大学の教育の国際化、そして、昨年までですけれども6年間、留学生のセンター長として留学生受入れに関する課題などに直面してきました。

工学教育の国際プログラムに関わった経験から、日本式教育プログラムのASEANにおける現状を少しだけ話させてください。

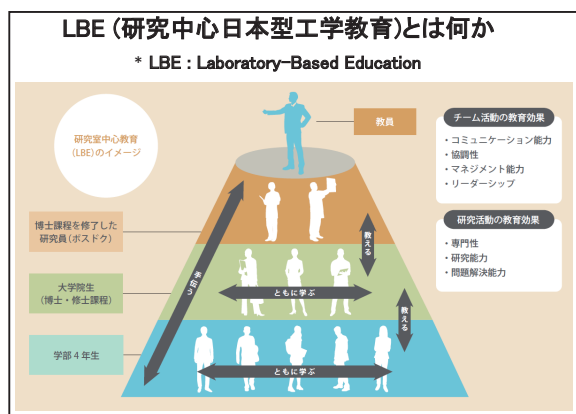


JICAのASEAN工学系高等教育プログラム、これに20年ほど前から関わってきたのですが、このプログラムというのはスタートは2001年なんですけど、フェーズ1が2003年、そして5年ごとにフェーズをだんだんと拡大してきて、現在フェーズ4になっています。この中で工学系10分野の一つ、私の分野はGeological earth resource engineeringなんですけれども、これに日本側の大学の代表として関わってきました。

ここでちょっとお話ししたいのは、国際教育というのがいかに国際パートナーシップづくりに貢献していくかという一つの例を示させていただきます。

このASEANのプログラムというのは、工学系10分野で、ASEAN、工学系のトップ大学26大学、それから、日本側が14大学—九大も含んで

おりますけれども、このプログラムに関わった大学の成果としては、これはASEAN側のこれらの大学の教員が主なのですが、修士あるいは博士の学位を取った者が1,400名を超えています。それから、ASEANと日本の大学、あるいは日本の企業との共同研究というのが200件以上、既に始まっておりますが、こういうプログラムは、これは1分野ですけれども、いろんなものに派生していくというのが重要だと思っています。

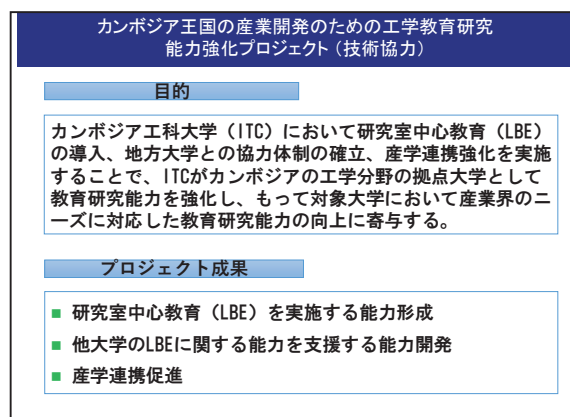


その一つ、LBE というのをちょっとだけ紹介させていただきます。LBE というのは Laboratory-Based Education, 研究センター日本型工学教育と呼んでおります。多くの開発途上国では、経済発展につながる工学系人材育成を重点政策に挙げていますけれども、厳しい財政状況であれば、量的な拡充というのは、まず人社系を中心にスタートするというのが現状であります。工学系教員の質の担保、向上に必要な教員の育成、施設機材の整備とか研究資金の確保が不十分、こういうものが課題になっておりますけれども、開発途上国では、実験あるいは実習機材の不足、研究資金の不足等に起因した座学中心の教育が行われているところが多いんですが、産業界としてはやはり実践力、応用力のある人材の育成が必要ということになっています。

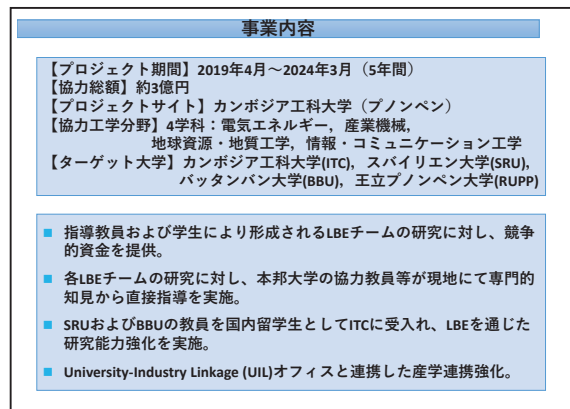
質を伴った工学系人材の育成は、開発が進む途上国で大きなニーズになっておりますけれども、JICAがこのLBEを取り入れた支援を行っています。欧米とかでは、コースワークが中心の教育を行っていますけれども、日本の工学系の大学は研究室を活動単位とした研究重視の体

制を取っている。教授をトップに、博士課程を修了したポストドク、大学院生、学部4年生、こういったグループが一つの研究チームとなって実践的な教育が行われていることが多いと言われています。

このLBEにより、座学だけでは獲得できない高い専門性、研究能力、問題解決能力を備えた工学系人材が育成されています。この研究室内では、教員が学生を指導するだけではなくて、学生が教員の研究活動を手伝う、それから先輩学生が後輩学生を指導する、同学年の学生で学び合うといった関係が発生することによって、学生のコミュニケーション能力、協調性、マネジメント能力、リーダーシップを育成することができます。こういう人材が社会でも高い評価を得ています。



このようなLBEのプログラムというのは、最初にインドネシアのスラバヤ工科大学、マレーシアのマレーシア日本国際工科院—MJIT、2年前からカンボジア工科大学で開始して、私も関わっています。



フェーズ1：カンボジア工科大学教育能力向上プロジェクト (2011年～2015年)


【協力学分野】 3学科
電気エネルギー、産業機械、地球資源・地質工学
【本邦協力大学】 東工大、北大、九大、早稲田、京大、広大、同志社
【プロジェクト目標】
カンボジア工科大学(ITC)の対象3学科において、より実験・実習に重点を置くことを通じて学部教育の質が改善する。

- 指導教員派遣： 国内支援大学・協力教員が、定期的に現地でシラバス改定や実験手引書作成などについて直接指導を実施。
- 本邦研修受入： 毎年国内支援大学にて約1ヶ月間教育能力向上のための研修を実施。
- 機材供与： 研究環境整備のため、無償資金協力、文化無償協力と合わせて、教育用実験・実習機材を供与。


これが目的、それからプロジェクトの成果を示していますが、事業内容を簡単に紹介しています。

研究室中心教育実践へのJICAの協力 (Laboratory-Based Education, LBE) ©: JICA

- ・ LBEは、日本の理工系分野の大学で一般的に行われている、**教員が主宰する研究室において教育と研究を一体的に行う教育の形態。**
- ・ **LBE実践の基盤は教員の日常的な研究活動。** 教員の研究活動に卒研究生・大学院生が参加するのであって、教員の研究活動は持続的。



(リーダーは博士号保有者)



これが実際の具体的な中身ですけれども、この右側に図がありますけれども、LBEのイメージを示したものです。

LBEの基本的活動 ©: JICA



- 教員は、指導する院生および卒研究生を自らの研究チームメンバーとし、**研究プロジェクトの一部となる役割を分担させる。**
(注) Laboratory=Research Team
日本の大学における教員名を冠した○○研究室(○ラボ)は○教授/准教授が率いる研究チーム。実験室の名称ではない。
- 教員は、卒研究生・院生が得た研究成果を**卒業論文・修士論文(Thesis)・博士論文(Dissertation)**として発表できるよう指導する。その過程で学生と共著論文。



このLBEの基本的な活動を簡単にまとめますと、先ほど言いましたけれども、こういうもの、それから成果としては、卒論とか修論、日本では当たり前なんですけれども、こういったものの質的なものを向上するために、このLBEとい

うのは非常に貢献するということであります。

本当に簡単な紹介でしたけれども、本日のお話というのはとても、私にとってもインフォーマティブでありました。それから、ガルバドラッハ先生は昔からの友人であり、大変古いお付き合いであります。今日はどうもありがとうございました。

高大接続のテーマだけではなくて、様々な日本の大学における、留学生を受け入れる問題等々が、今日は非常に有効に話されたと思います。本当に講演者の皆さん、どうもありがとうございました。簡単ですけれども、これで終わります。

ご清聴、ありがとうございました。

(江口) 渡邊先生、ありがとうございました。

以上をもちまして、九州大学 webinar100「アジアからの高大接続—国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育—」を終了させていただきます。

皆様、最後まで御参加いただき誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

アジアからの高大接続

— 国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育 —

令和3年3月15日(月) 14:00~18:00

開催方法 ZOOM Webinarによる開催

使用言語 / 日本語

一部英語(通訳なし)

プログラム

14:00-14:05 開会の挨拶 河野 俊行(九州大学 理事・副学長)

司会▶ 江口 潔(九州大学人間環境学研究院 准教授)

第1部 国際アドミッションの課題と現状

14:05-14:45 講演

「一流研究大学の留学生獲得戦略としての国際アドミッション — アジアからの高大接続における日本式教育、予備教育(ファンデーションプログラム)の観点から」

竹熊 尚夫(九州大学人間環境学研究院 教授・教育学部長)

木村 拓也(九州大学人間環境学研究院 准教授)

中世古貴彦(九州産業大学基礎教育センター 講師)

14:45-14:55 休憩

第2部 アジアからの高大接続事例の紹介

14:55-15:10 新モンゴル学園(小中高・高専・工科大) [モンゴル]

ジャンチブ・ガルバドラッハ 理事長

ガレバドラッハ・トゴス 専務理事

15:10-15:25 信男教育学園 [中国]

(上海文来高級中学校中日班、深セン第三高級中学校日本名校留学班)

魯 林 理事長

15:25-15:40 柳川高等学校附属タイ中学校、柳川高校国際科 [タイ]

古賀 賢 柳商学園 理事長

テムラック・チャオ 柳川高等学校附属タイ中学校 副理事長

15:40-15:55 日本国際学校 [ベトナム] ※英語による講演

ダオ・スアン・ホック 理事長

15:55-16:10 マラヤ大学予備教育部日本留学特別コース [マレーシア]

水野 俊夫 日本人教師団 団長

ジャミラ・モハマド AAJプログラムコーディネーター

16:10-16:25 帝京マレーシア日本語学院日本留学準備教育課程 [マレーシア]

大野 好弘 帝京マレーシア株式会社 取締役社長

16:25-16:35 休憩

第3部 九州大学における国際アドミッションの現状と課題

16:35-16:50 工学部 松村 晶(九州大学工学研究院 教授)

16:50-17:05 農学部 土居 克実(九州大学農学研究院 教授)

17:05-17:20 共創学部 李 暁 燕(九州大学共創学部 准教授)

17:20-17:35 経済学部 儲 梅 芬(九州大学経済研究院 講師)

17:35-17:50 教育学部 木村 拓也(九州大学人間環境学研究院 准教授)

17:50-18:00 閉会の挨拶 渡邊公一郎(九州大学工学研究院 教授)



九州大学webinar100 国際シンポジウム

アジアからの高大接続

— 国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育 —

海外との高大接続を設計していくとは如何なることなのか、こうした問いに、教育学は如何に回答していくべきなのか、本シンポジウムの開催目的はまさにここにある。アジア各地から日本の大学に進学するルートは、一様ではない。高等学校を卒業後に来日するケースばかりでなく、高等学校を卒業し予備教育(ファンデーション・プログラム)を受けるケース、中学を卒業後に日本に留学し日本の大学を目指すケース、国内外の高等専門学校を経由するケース、日本の高校に長期留学した上で日本の大学に進学するケースなど、アジアからの高大接続はモザイク状である。そのそれぞれに現状と課題があり、また、そうした多様な進学ルートを熟知した上で、日本の大学がどう接続制度を構築していくのか、も課題となる。第一部では、アジアからの高大接続に関する論点整理を行い、第二部では、アジアの日本式教育を行う各教育機関から現状と課題を指摘頂く。第三部では、九州大学の各部局から国際アドミッションの課題をご指摘頂く。シンポジウム全体を通して、アジアの高大接続場面で見られる諸課題を概観し、これからの我が国における国際アドミッションのあり方を議論する。

※九州大学教育学部では、平成31年度より、日本人と留学生が共修する国際コースを開設し、私費留学生入試と帰国子女入試を統合して、新たに国際入試を開始した。その経緯と狙いについても解説を行う。

申し込み締め切り

3/8(月)

対象

国際アドミッションに
関心のある
大学教職員
高校教職員

定員

200名

【申込方法】

以下の URL 又は QR コードから必要事項を記入の上、お申込みください。

お申込みいただいた方には後日メールにて、Zoom リンクをお送りします。

<https://forms.gle/2PGkLsBiePwVzpFx6>



【問い合わせ先】

九州大学教育学部教育計画・測定評価論研究室
symposium@pme.kyushu-u.ac.jp

本シンポジウムは、令和2年度九州大学ウェビナー100「アジアの日本式教育からの高大接続—国際アドミッションの新潮流」(申請代表者:木村拓也)、平成31年～令和3年度九州大学教育の質向上支援プログラム(NEEP)「アジア研究拠点の展開に資するアジア各国における留学生獲得拠点の形成」(取組代表者:木村拓也)、及び、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)「日本式教育の海外往還による多文化革新カリキュラムの構築に関する国際比較研究」(研究代表者:竹熊尚夫)(20H1644)、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)「大学進学地域移動の計測手法の開発とその適用」(研究代表者:木村拓也)(19K02564)の成果の一部である。

令和3年度九州大学QRプログラム
つばさプロジェクト採択課題(整理番号01261)

アジアとの高大連携の効果測定と高大接続の
制度設計に関する文理融合・分野横断研究

研究成果報告書1

アジアからの高大接続

—国際アドミッションにおける日本式教育と予備教育—

2021年8月1日 印刷

2021年9月1日 発行

編 集 九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門
木村 拓也

発 行 九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門
教育計画・測定評価論研究室

印 刷 城島印刷株式会社



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY